大正　年　署諸規則違犯即決事件年表　警察署

諸規則違犯ノ種類	被告人員	男女別	刑名別						科料別					
			拘留											
			二十日以上	十日以上	五日以上	五日未満	計		十圓以上	五圓以上	二圓以上	一圓以上	一圓未満	計

第二十六樣式ノ內

大正　年　警察　署別號第一號表

警察署

署名	被告人員	執行	拘留	執行別			
			保證金ヲ差出ササルニ付留置	保證金ヲ差出シ後出延シテ執行ヲ受ク	保證金ヲ差出シ後出延セサルニ因リ保證金沒入	未執行	
					人員	金額	未定
							逃走又ハ住所不明等ニシテ執行不能

第二十六號樣式ノ內

大正　年　警察　署別號第二號表

科料執行別

署名	人員	金額別	完納	不完納	農部	不納	消滅	未執行	納否未定	逃走又ハ住所不明等ニシテ執行不能	假納シテ正式裁判ヲ求ムルニ因リ	假納セサル	計	廿日以上	廿日以下	廿日以下	十日以下	五日以下	計	廿日未滿	十日以下	五日以下	計

科料ヲ完納セサルニ付勞役場ニ留置シタル人員　留置期間

完納セサルニ因リ留置シタル人員　留置期間

第二十九樣式

清涼飲料水表　（大正　年報）

警察署

製造營業者	製造總量

リモナーデ（果實水）		
沸騰リモナーデ（ラムネノ類サイダノ類）		
ソーダ水		
雜類		
合計		

一　製造營業者ハ本年中ニ於テ短期間ト雖モ製造ニ從事シタル者モ揭クヘシ

二　「リモナーデ」（果實水）ノ欄ニハ蜜柑水、「レモン」水、葡萄水、苺水、「アンズ」水、林檎水、梨水ノ類ヲ記入スヘシ

三　「サイダー」ノ類ノ欄ニハ「シトロン」「オレンヂ」「シナルコ」「ジンジヤー」ノ類ヲ記入スヘシ

四　「ソーダ」水ノ欄ニハ平野水、箱根水ノ類ヲ記入スヘシ

五　雜類ニハ蜜柑蜜、「レモン」蜜、葡萄蜜ノ如キ果實及薄荷水、桂皮水ヲ記入スヘシ

第三十様式

氷雪表（大正　年報）　警察署

		製品又ハ採取品ノ總量	同上中不合格品ノ量
氷	天然		
	人造		
雪			
合計			

貫　貫

第三十一様式

肺結核患者人員表（大正　年報）　警察署

肺結核病ノ系統ヲ有スルモノ				患者		
戸數	人口					
	男	女	計	男	女	計

第三十一樣式ノ內

結核患死者第一表

（昭和　年自　月至　月分）

肺結核又ハ喉頭結核ノ別	男女ノ別	患者數		死者數		患死者ノ居住又ハ所在ノ場所數	備考
		肺	喉頭	肺	喉頭		
		計	計	計	計		
	男						
	女						
	計						

警察署

一　患死者名簿ニ依リ調査スヘシ第二第三表亦同シ
二　患死者ノ居住又ハ所在ノ場所數ハ患死者ノ發生カ散在的ナリヤ否ヤヲ知ラムカ爲トス
三　故ニ例ヘ一場所ニシテ三人ノ患者ヲ出シタル場合ノ如キハ患死者ノ居住又ハ所在ノ場所數ハ一トセサルヘカラス

結核患死者第二表

（昭和　年自　月至　月分）

職業別	肺結核						喉頭結核						計					
	患者			死者			患者			死者			患者			死者		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計

警察署

備考

一　患死者數ハ第一表ト符合スヘキモノトス

第三十一様式ノ内

結核患死者第三表

（昭和　年自　月至　月分）

年齢別	肺結核				喉頭結核				計				備考
	患者		死者		患者		死者		患者		死者		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
十歳未満													
二十歳未満													
三十歳未満													
四十歳未満													
五十歳未満													
五十歳以上													
計													

一　患死者数ハ第二表ト符合スヘキモノトス

警察署

結核健康診断結果第一表

（昭和　年自　月　日至　月　日施行ノ分）

健康診断施行予定人員	健康診断ヲ受ケタル者						健康診断ノ内						備考
	受ケサリシ者						患者		健康者				
	男		女		計		男	女	男	女	計		

警察署

一　健康診断施行ノ方法ヲ必ス備考欄ニ附記スヘシ

二　手續第一條後段ニ依リ報告スヘキ者ハ除外スヘシ

第三十一樣式ノ內

結核健康診斷結果第二表

（昭和　年自　月　日至　月　日施行ノ分）

警察署

職業別	肺結核患者			喉頭結核患者			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
計									

備考

一　手續第一條後段ニ依リ報告スヘキ者ヲ除外スヘシ

二　患者數ハ第一表ト符合スヘキモノトス但シ手續第五條第二項ニ依ル者ノ場合ハ此ノ限ニアラス

三　手續第五條第二項ニ依ル者ノ場合ハ備考欄ニ「健康診斷書ヲ提出セシメタル者」ト記載スヘシ

結核健康診斷結果第三表

（昭和　年自　月　日至　月　日施行ノ分）

警察署

年齡別	肺結核患者			喉頭結核患者			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
十歳未滿									
二十歳未滿									
三十歳未滿									
四十歳未滿									
五十歳未滿									
五十歳以上									
計									

備考

一　手續第一條後段ニ依リ報告スヘキ者ハ除外スヘシ

二　患者數ハ第二表ト符合スヘキモノトス

三　手續第五條第二項ニ依ル者ノ場合ハ備考欄ニ「健康診斷書ヲ提出セシメタル者」ト記載スヘシ

第三十一樣式ノ內

結核豫防成績表（大正　年中）　警察署

違反事件	處罰 罰金	處罰 科料	處罰 計	說諭	合計
法第二條第一項ニ違反シタル者					
同前第二項ニ違反シタル者					
同第三條ノ命令ニ違反シタル者					
健康診斷ヲ忌避シタル者					
從業禁止ノ命令ニ違反シタル者					
唾壺ニ關スル違反者					
法第四條第一項第四號ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者					
同第五條第一項ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル者					
指定鑛泉場ニ於ケル設備其他ノ違反					
細則第八條ニ違反シタル者					
計					
備考					

一、本表ノ數字ハ凡テ件數ヲ記載スヘシ　二、一人ニシテ數件ノ違反アリタル場合ハ主タル一件ヲ墨書シ他ハ何レモ朱書スヘシ　三、起訴猶豫ノ類ハ說諭件數欄內ニ朱書スヘシ

第三十二樣式

火災表（昭和　年報）　警察署

	失火ノ度數	放火ノ度數	雷火及不審火ノ度數	上揭中 延燒セシ度數	上揭中 延燒セサリシ度數	上揭中 直チニ消止メシ度數	火災ニ罹リシ 住家 全戶燒失セシ戶數	火災ニ罹リシ 住家 全戶燒失ニ至ラサル者又ハ直ニ消止メシ戶數	火災ニ罹リシ 住家 燒失セシ建坪	火災ニ罹リシ 非住家 全戶燒失セシ棟數	火災ニ罹リシ 非住家 全戶燒失ニ至ラサル者又ハ直ニ消止メシ棟數	火災ニ罹リシ 非住家 燒失セシ建坪	損害見積金額
合計									坪			坪	
一月													
二月													
三月													
四月													
五月													
六月													
七月													
八月													
九月													
十月													
十一月													
十二月													

一　住家ハ一竈ヲ以テ一戶ト算シ學校病院寺院ハ一構ヲ以テ一戶ト算スヘシ

二　非住家ハ倉庫、納屋、物置等ヲ記入スヘシ

三　外國人ニ係ル事實アルトキハ本表ニ準シ國籍別ニ區別シ別ニ調製スヘシ

第三十三號樣式

盜難詐欺恐喝及僞造變造ノ通貨屆出表 （昭和　年報） 警察署

	強盜ニ遭ヒシ			竊盜ニ遭ヒシ（次ノ一欄ヲ除ク）				掏摸ニ遭ヒシ人	詐欺脅喝ニ遭ヒシ人	僞造又ハ讓造ノ通貨ヲ受取リ屆出タル人
	家	船	人	家 屋內	家 屋外	船	人			
一月										
二月										
三月										
四月										
五月										
六月										
七月										
八月										
九月										
十月										
十一月										
十二月										
合計										

一 強盜ニ遭ヒシ家ノ欄ニハ住家、船ノ欄ニハ航行又ハ碇泊中ニ在テ強盜ニ遭ヒタル數ヲ記入シ人ノ欄ニハ途上等ニテ財物ヲ強奪セラレシ人即チ追剝ニ遭ヒシ數ヲ記入スヘシ

二 竊盜ニ遭ヒシ家屋內ノ欄ニハ住家屋外ノ欄ニハ田野、山林、牧場等ノ產物其ノ他屋外ニ置キタル財物ヲ盜マレシ數ヲ記シ船ノ欄ニハ船中ニ於テ財物ヲ盜マレシ數ヲ記入シ人ノ欄ニハ店頭、停車場等ニ於テ財物ヲ盜マレシ人ヲ記入スヘシ

三 外國人ニ係ル事實アルトキハ本表ニ準シ國籍別ニ區別シ別ニ調製スヘシ

第三十四樣式

犯罪調表　（大正　年報）

警察署

罪名	現行犯及准現行犯		非現行犯		自首		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
刑法 逃走ノ罪								
騷擾ノ罪								
放火及失火ノ罪								
往來ヲ妨害スル罪								
飲料水ニ關スル罪								
通貨偽造ノ罪								
有價證券偽造ノ罪								
猥褻姦淫ノ罪								
賭博及富籤ニ關スル罪								
瀆職ノ罪								
殺人ノ罪								
傷害ノ罪								
過失傷害ノ罪								
墮胎ノ罪								
遺棄ノ罪								
逮捕及監禁ノ罪								
略取及誘拐ノ罪								
竊盜ノ罪								
强盜ノ罪								
詐欺及恐喝ノ罪								
毀棄及隱匿ノ罪								
其他								
合計								
陸海軍刑法								
警察犯處罰令								
省令ニ定メタル								
廳府縣令ニテ定メタルモノ								

廳府縣令違犯			
其他ノ法令違犯			
總計			

一 本表ハ司法警察官ニ於テ犯罪又ハ犯罪嫌疑者トシテ取扱ヒタルモノヲ掲クルモノトス

二 警察犯處罰令ノ項「廳府縣令ニテ定メタル」モノノ内ニハ傾宜警察犯處罰令ニ代ルヘキ名稱ヲ用フルモノト雖モ之ニ依テ取扱ヒタル人員ハ同項ニ記入スヘシ

三 併合罪ノ者アルトキハ一罪ノ方ニノミ記載スヘシ

四 同一事件ニ付キ警察官及憲兵相互關係シタル事件ハ重複ヲ防クカ爲メ事實ノ引繼ヲ受ケタル方ニ於テ記載シ引繼ヲ爲シタル事實ハ記載ヲ要セス警察ニ關スル諸表亦之ニ同シ

五 外國人ニ係ル事實アルトキハ本表ニ準シ國籍別ニ區別シ別ニ調製スヘシ

自殺者ノ月別及所爲表 （大正 年報） 警察署

	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
縊レテ 男													
縊レテ 女													
入水シテ 男													
入水シテ 女													
刃物ニテ 男													
刃物ニテ 女													
銃又ハ火藥類ニテ 男													
銃又ハ火藥類ニテ 女													
噴火口ニ投シテ 男													
噴火口ニ投シテ 女													
毒物又ハ劇藥ヲ服シテ 男													
毒物又ハ劇藥ヲ服シテ 女													

	總計	其他	電車ニ觸レテ	車ニ觸ンテ
	男	男	男	男
	女	女	女	女

一　外國人ニ係ル事實アルトキハ本表ニ準シ國籍別ニ區別シ別ニ調製スヘシ

被殺害者表　（大正　年報）　警察署

數	總	其他	不詳	男	女	合計	盜賊ノ爲メ 怨恨ニ因リ 爭論上又ハ一時ノ怒ニ因リ 賭博上ノ爭ニ因リ 利慾上ノ爲メ 捕ヲ拒ミ又ハ暴行セシ爲メ 癲癇人ノ爲メ 暴行人又ハ醉狂人ノ爲メ 貧困ニ因リ 痴情又ハ嫉妬ニ因リ 正當防衛ニ因リ 人違ニテ

一　警察上ニテ死傷セシ者モ本表ニ記入スヘシ
二　棄テアリシ幼兒ニシテ他殺ノ痕アルトキハ棄兒年齡別表ニ記入セスシテ本表中相當ノ項ヘ記入スヘシ
三　外國人ニ係ル事實アルトキハ本表ニ準シ國籍別ニ區別シ別ニ調製スヘシ

第三十七様式

災害其他ノ事故ニテ死セシ人員表（大正　年報）　警察署

		男	女	合計
洪水ニテ				
海嘯ニテ				
難船ニテ				
火災ニテ				
震災ニテ				
火山ノ噴火ニ因リ				
火薬類爆發シテ				
積雪ニ壓セラレ又ハ凍テ				
土石崩壊シテ				
樹木顚倒又ハ潰屋等ニテ				
獸害又ハ蟲毒ニテ	犬ニ			
	熊ニ			
	蛇ニ			
鑛業上ニテ	瓦斯爆發シテ			
	坑内 火薬類爆發シテ			
	坑外 汽車ニテ			
過失ニ因リ	電車ニテ			
	自動車ニテ			
	其他			
途中發病シテ				
其他				
不詳				
總計				

一　警察上ニテ死セシ者モ本表ニ記入スヘシ

二　鑛業上ノ火薬類爆發又ハ土石崩壊等ニテ死セシ者ハ坑ノ内外ニ區別シテ揭ケ前項ノ火薬類爆發又ハ土石崩壊ニハ記入セサルモノトス

三　外國人ニ係ル事實アルトキハ本表ニ準シ國籍別ニ區別シ別ニ調製スヘシ

第三十八樣式

棄兒年齡別表 （大正 年報）

警察署

總計	生存シアリシ者			死亡シアリシ者			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
一月未滿									
一月以上三月未滿									
三月以上六月未滿									
六月以上一年未滿									
一年以上二年未滿									
二年以上三年未滿									
三年以上									
不詳									

第三十九樣式

自殺者ノ住所及緣事上ノ關係表 （大正 年報）

警察署

總計	市			町			村			不詳			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
未婚者															
有配偶者															
離婚者															
喪配偶者															
不詳															

一 本表ハ自殺者ノ月別及所爲者ノ員數ト符合スヘキモノトス

二 外國人ニ係ル事實アルトキハ本表ニ準シ國籍別ニ區別シ別ニ調製スヘシ

第四十様式

自殺者ノ年齢及因由表　（大正　年報）　警察署

因由	十六年未満 男	十六年未満 女	十六年以上二十年未満 男	十六年以上二十年未満 女	二十年以上三十年未満 男	二十年以上三十年未満 女	三十年以上四十年未満 男	三十年以上四十年未満 女	四十年以上五十年未満 男	四十年以上五十年未満 女	五十年以上 男	五十年以上 女	不詳 男	不詳 女	合計 男	合計 女
精神錯亂シテ																
病苦ニ因リ																
生計困窮又ハ薄命ヲ歎テ																
互ニ情死ヲ謀リテ																
痴情又ハ嫉妬ニ因リ																
前罪ヲ悔ヒ又ハ慚愧ニ因リ																
家庭又ハ親族ノ不和ニ因リ																
罪ノ發覺ヲ懼レ又ハ刑ノ免レ難キ爲メ																
將來ノ事ヲ苦慮シテ																
商業等ノ爲メ損失シ又ハ負債償却ニ困シテ																
雇ヒ又ハ父兄等ノ懲戒又ハ譴責ニ因リ																
親又ハ夫妻子等ノ行狀ヲ歎テ																
離緣ヲ悲ミテ																
私通姙娠ヲ憂テ																
結婚ヲ忌ミテ																
失戀ニ因リ																
身體不具ナルヲ歎テ																
懊憂ニ因リ																
親又ハ夫妻子等ノ死去ヲ歎テ																
親又ハ夫妻子等ノ痼疾ヲ苦ニシテ																
淫逸放蕩ノ末																
老衰身ノ不自由ヲ苦慮シテ																
厭世ニ因リ																
宗教ノ迷信ニ因リ																
兵役ニ服從セラレサルヲ歎テ																
兵役ヲ忌避シテ																
其他																
不詳																
總計																

一　本表ハ自殺者ノ日別及所爲表ノ員數ト符合スヘキモノトス

二　外國人ニ係ル事實アルトキハ本表ニテ準シ國籍別ニ區別シ別ニ調製スヘシ

第四十一樣式

未成年者喫煙禁止法違反者表　（大正　年報）　警察署

販賣者處罰			親權者處罰			煙草及器具沒收	
件數	人員		件數	人員		件數	個數
	男	女		男	女		

警察上死傷セシ人員表　（大正　年報）　警察署

	死亡						負傷					
	警部補	警部及警察技手	巡査	雇	消防員消防組員	人民	合計	警部補	警部及警察技手	巡査	雇	消防員消防組員	人民	合計
盜賊ノ逮捕ニ關シ														
脫監人ノ逮捕ニ關シ														
賭博犯人ノ逮捕ニ關シ														
其他犯罪人ノ逮捕ニ關シ														
囚人及刑事被告人押途ニ關シ														
暴行者又ハ發狂人等取押ニ關シ														
火災消防ニ關シ														
火災防禦ニ關シ														
職務上傳染病豫防救治ニ從事セシニ因リ														
人命救助ニ關シ														
雜問保護ニ關シ														

其他	
總計	

一 職務上傳染病豫防救治ニ從事セシニ因リ感染シ其ノ死ニ至ラサル者ハ負傷ノ欄ニ記入スヘシ

二 本表記載ノ外防疫官、防疫官補、防疫員、防疫監吏、郡長、郡書記、町村吏員及委員及市町村醫、衞生組合職員看護婦等其ノ他職務上傳染病豫防救治ニ從事シ感染シタルモノアルトキハ其ノ官職名毎ニ設ケ記入スヘシ

但雜役人夫ノ類ハ人民ノ欄ニ記入スルモノトス

三 警視又ハ技師ニシテ死傷セシ者アルトキハ警視ハ警部ノ欄ニ技師ハ技手及警察醫ノ欄ニ×チ附シテ記入スヘシ

四 消防士、消防機關士等水火災警防ニ關シ死傷セシモノアルトキハ該目チ設ケ記入スヘシ

第四十三樣式

埋火葬調表 （大正　年報）

警察署

墳墓地箇所數	同上反別	火葬場數	土葬人員	火葬人員
	町			

一 墳墓地箇所數、反別、火葬場數ハ年末現在ヲ土火葬人員ハ一年中ノ事實ヲ記入スルモノトス而シテ其人員ハ認可證ヲ附與シタル地方ニ於テ記入スヘシ

第四十四樣式

獸屍埋場、燒場、化製場取調表　（大正　年報）　警察署

埋場數	埋場數（頭數）	燒場數	燒場數（頭數）	化製場數	化製場數（頭數）

場數ハ現在數ヲ頭數ハ一箇年分ヲ記入スルモノトス

第四十五樣式

精神病者表　（昭和　年報）　警察署

精神病院法ニ依ルモノ			精神病者監護法ニ依ルモノ						前年ヨリ越人員	發病（初發又ハ再發）	收容又ハ監置	收容發置廢止又ハ監止				收容又ハ監置者年末現在
精神病院ニ收容シタルモノ	代用精神病院ニ收容シタルモノ		官公私立病院ニ收容シタルモノ	其他ノ場所ニ收容シタルモノ								治癒	死亡	行衞不明	他管ヘ送致者及其他	
男	男		男	男												
女	女		女	女												
			義務者ノ監置	義務者ノ監置												
			市（區）町村長ノ監置	市（區）町村長ノ監置												
			男	男												
			女	女												
			男	男												
			女	女												
			男	男												
			女	女												
			計													

現在監置ヲ要セサル者ノ年末現在	監護義務者及市（區）町村長間ニ監置ノ變更アリタルモノハ其ノ引渡シタルモノハ監置ノ部他管ヨリ送致者及其ノ他ノ欄ニ記入スルモノトス	監護義務者及市（區）町村長間ニ監置ノ變更アリタルモノハ其ノ他ノ欄ニ記入シタル者ヲ受繼タルモノハ監置ノ部他管ヨリ送致者及其ノ他ノ欄ニ記入スルモノハ監置廢止ノ部他管ヘ送致者又ハ其ノ他ノ欄ニ記入スルモノトス	再發ニハ再發以上ノモノヲ合記スヘシ
男			
女			
合計			

遊廓數	娼妓健康診斷表（大正　年報）　警察署				
	其一				
	娼妓一日平均數	健康診斷所數	健康診斷延人員	同上ノ中有病ト認メタルモノハ一人ハ一回ヲ一トシテ算	娼妓病院又ハ治療所數

一　遊廓數、健康診斷所數及娼妓病院又ハ治療所數ハ年末現在數ヲ掲クヘシ
二　遊廓ハ必スシモ一廓ヲ爲ササルモ娼妓稼業許可地ハ遊廓トシテ計算スヘシ
三　健康診斷延人員ハ一ヶ年間診斷シタル總人員ノ延數ヲ又同一ノ中有病ト認メタルモノハ一人ハ一回ヲ一トシテ算シ掲クヘシ
四　娼妓一日平均數ハ一ヶ年間毎月末現在數ヲ以テ平均スヘシ

第四十六樣式ノ內

其二

有病ト認メタルモノノ病症別

黴毒	淋病	軟下疳	剝脫	傳染性皮膚病	結核性疾患	癩病	トラホーム	其他ノ疾患	計

一 一人ニシテ同時ニ二以上ノ疾病ニ罹リタルモノハ右記載ノ順序ニ依リ上記ノ一ヲ主ナルモノトシテ算シ下位ノ一以上ヲ併發病ト爲シ各項ニヲ※附シ揭クヘシ但シ※印ヲ附シタル數ハ合計ニ算入スヘカラス

第四十七樣式

賣藥請賣及行商人員表

種別	請賣人員	行商人員

警察署

●在監人出入月表記載方ノ件

（明治三十四年三月指示第九號）

在監人出入月表中月末日現員ニ對スル囚人ノ年齡ヲ本年三月分ヨリ該表月末囚人ニ對スル罪質ノ欄ヘ左記ノ如ク記載スヘシ

刑法違警罪

初犯　男一人　滿何年何ケ月
再犯以上　男一人　同右
初犯　女一人　同
再犯以上　女一人　同

賭博

初犯　男一人　同右
再犯以上　男一人　同
初犯　女一人　同
再犯以上　女一人　同

●注意報告規則

（明治十二年一月內務省達無號）

警察ノ精力素ヨリ雖無限衆庶ノ民情モ亦無窮故ニ苟モ職ヲ警察ニ奉スルモノハ精神ヲ注キ凡ソ警察ノ耳目達セサルナキヲ期シ注意スヘキニ付テハ各自ノ目擊耳聞スルモノ事細大トナク別紙注意報告規則ニ據リ注意報告可致事

第一條　注意報告ハ各自當然ノ職務ヲ行フニ付上官ヘ申告スヘキ事ノ外平常篤ク注意シ其見聞スル珍奇異常ノ事細大ナク怠ラス報告スルヲ要スル者トス但休暇旅行中ト雖同然タルヘシ

第二條　警察本署長並該署長又ハ其代理ハ所屬各員ノ報告書ヲ集メ其儘之ヲ進達スヘシ或ハ本人ノ都合ニ依リ直ニ郵便等

チ以テ送呈スルモ勝手タルヘシ但郵便税ハ自費タルヘシ

第三條　此報告チ爲スニ不得已ノ外決シテ事主物件ニ響カサルチ要スヘシ

第四條　此報告ハ各自聞見スル所ノ事實チ悉スヘシ決シテ他人ニ見做フヘカラス

第五條　不文惡筆ノ者ト雖モ決シテ傭書スルチ不得必ラス自ラ之チ作ルヘシ尤モ用紙等ノ定例ナシトス但紙筆等ハ自辨タルヘシ

第六條　警察本署長竝ニ該署長ハ此報告ニ怠タル者チ督促スルノ權チ有スト雖之チ可否シ又ハ中止スルチ得ス

第七條　國事犯等ニ係リ隱密神速チ要スル事件ハ直ニ長官及署長等ニ面述シ或ハ報告スルモ妨ケナシトス

第八條　警察上最モ注意報告スヘキ事項ハ國事權利衞生風俗トス其目左ノ條々ノ如シ

乘輿及ヒ皇族ニ關スル件
百官有司總テ官途ニ關スル件
隱謀未發
管下動靜ノ狀況
政治上ノ動靜
諸集會
國安ニ關スル未發
國計ニ關スル得失
國家ノ榮譽得失
官ト人民トノ爭訟
新聞紙
學校

●注意報規則

（明治二十六年二月岐阜縣訓令警第三號）

第一條　注意報ハ職務ニ付當然上官ニ報告スヘキ事件ノ外平常篤ク注意シ苟モ目擊耳聞スル異常ノ事ハ細大トナク報告スルチ要ス假令休暇旅行中ト雖モ亦同シ

第二條　注意報ハ各自聞見スル事實ノ詳悉チ主旨トスルチ以テ文飾チ爲シ又ハ他人ニ代書セシムヘカラス

第三條　報告ノ事故人ノ身上ニ關シ又ハ漏洩ノ恐レアルトキハ上封ニ親展ノ二字チ記入スヘシ

第四條　注意報ハ所屬署長チ經由シ警部長ニ差出スヘシ署長ハ之チ取捨スルコトチ得スト雖モ意見アルトキハ之チ附記シ又ハ別ニ申告チ爲スヘシ

●警察事務通報ノ件

（明治三十六年十月訓第六一五號内務大臣訓令）

警察事務ハ各廳府縣互ニ氣脈チ通シ協同共助最モ敏活ノ行動チ爲スコトチ要スルハ論チ待タサル所ナリト雖モ相互關係チ有セサル事項ニ付通報チ爲スハ徒ニ行務ノ繁雜チ來スニ過キサルチ以テ他ノ廳府縣ニ關係セサル事件ハ高等警察事務タルト其他ノ警察事務タルトチ問ハス自今本大臣其他主務大臣ニ申報スル外他ニ通報スルニ及ハサル儀ト心得ヘシ

●詰員異動報告

（明治二十四年六月通達警一第三六五號）

其署（派出所又ハ駐在所）詰竝内勤巡査氏名要用ニ付爾來異動ノ都度左表ニヨリ即報セラルヘシ但明治二十一年十一月本部通達第一五五九號チ廢止ス

●小使異動報告ノ件

其署小使人名給額左記ノ如ク取調至急差出スヘシ
但爾來異動ノ都度報告スヘシ

何警察署（通常罫紙）				
詰所名（内勤）	命シタル其執行月日	舊任所名（署又ハ内勤）	巡査氏名	

（明治二十九年四月指示第一一號）

署名	日給額	住所氏名
何警察署	金何拾錢	

●警察官署留置場ノ在監人ニ關スル事項報告ノ件

（明治三十六年五月指示警第一四號）

警察署留置場ノ在監人ニ關スル事項報告別紙ノ通司法省監獄局長ヨリ通牒有之候條右等ノ事實發生ノ場合ニ於テハ當部ニ報告ト同時ニ岐阜監獄ヘ通報（在監人出入月表ハ除ク）セラルヘシ

司法省監甲第三七四號（監獄局長ヨリ知事宛）

從來報告相成居候監獄報告例中左記警察署留置場ノ在監人ニ關スル事項ハ事件發生ノ都度從前ノ通リ御報告相成度且監獄ニ於テモ右事件知了ノ必要有之候ニ付其都度所在地監獄ヘ通報方御取計相成度尚在監月末人員及囚人ノ罪名刑名年齡竝ニ年報ノ資料ト可相成監獄統計小票及諸表モ從前ノ如ク作成ノ上前記監獄ヘ送付方御取計相成度依命此段及通牒候也

追テ滬傳護送中ノ囚人刑事被告人ニシテ逃走シタル場合ハ明治三十三年十二月監甲第二四三號通牒追書ニ據リ御取扱相成度此段申添候也

日報　發送期日
一 在監人反獄　即日
一 在監人越獄及逃走　同
一 在監人ノ逃走者逮捕　同

月報　翌月十日
一 在監人八種傳染病患者及死亡

●留置場在監人反獄越獄逃走シタルトキ監獄ヘモ報告方ノ件

（明治三十六年六月警第二二九五號）

警務課長通牒

警察署留置場在監人ノ反獄越獄逃走者アルトキ及其ノ捕獲ノトキハ當部ニ御報告ト同時ニ岐阜監獄ヘモ通報可相成旨警察會ノ次第モ有之候條御注意相成度依命此段通牒候也

●刑事被告人出入表等ノ件

明治三十一年十二月内務省訓令第三十六號監獄ニ關スル報告中刑事被告人ノ出入乃至別房留置人及携帶乳兒ノ出入ノ十七表ハ左ノ統計小票ニ依リ明治三十四年一月一日ヨリ調製スヘシ

（明治三十三年十月司法省訓令第四號）

刑事被告人入監小票

原簿丁數　收監番號　號

大正　年　月　日

(一)本籍	廳府縣　郡市　町村
(二)氏名	男女　士族平民
(三)生年月日	年　月　日
(四)年齡	滿　年　箇月
(五)入監度數	初入　再入以上
(六)歸監ノ事由	逃走復歸　責付取消　保釋取消
(七)他管ヨリ押送	廳府縣　署

刑務　所

一藝名	一綽名	
一最終居住地		
一出生地		
一出生別		
一婚姻		
一予孫		
一兩親及親族		
一共犯ノ有無		
一財產		
一兵役		
一教育		
一宗教		
一職業		
一體格	丈尺寸分	
一相貌	髮	眉
	額	貌
	眼	齒
	鼻	髭
	口	髯
	耳	
一容貌	面色	
	痘斑	
	文身	
	異徵	
肥	中肉	
瘠		

原簿 收監 丁數 番號 號

刑務 所

刑事被告人出監小票

大正 年 月 日

(一) 氏名	男 女
(二) 被告事件	
(三) 入監時	年 月 日
(四) 出監時	年 月 日
(五) 他管滯獄日數	百 十 日
(六) 出監事由	放還 徒刑以下受刑 死刑 死亡 保釋 責付
(七) 逃走	拘留監ヨリ 押送中
(八) 他管ヘ押送	廳府縣

年 箇月 日

●皇族各大臣將官等宿泊ノ場合通報ニ關スル件

（明治三十五年三月指示號外）

岐阜警察署ヘ

皇族又ハ內閣各大臣及ヒ陸海軍將官ノ當市內ニ宿泊又ハ一時旅舍ニ休憩セラルルコトヲ豫知シタルトキハ直チニ岐阜大隊區司令部ヘ通報セラルヘシ但豫知セスト雖モ宿泊又ハ休憩セラレタルトキハ同樣タルヘシ

昭和二年六月二十九日印刷
昭和二年六月三十日發行

不許複製

編纂者　岐阜縣警察部

發行兼印刷者　岐阜縣本巢郡北方町　株式會社啓文社　代表者　村田憲治

印刷所　大阪市南區東賑町　株式會社啓文社工場

非賣品

發行所　（本社）岐阜縣本巢郡北方町　電話二六、振替東京二一五一
（工場）大阪市南區東賑町一八　電話東四〇七番　株式會社啓文社

加除自在

岐阜縣警察法規類聚

岐阜縣警察部編纂

株式會社 啓文社發行

37-2

加除自在

岐阜縣警察法規類聚

別編一覽表

第一編 警務
第二編 會計
第三編 保安
第四編 高等
第五編 刑事
第六編 工場
第七編 衛生

(シシ3L38)

第二編

會計

目次

第二編 會計

第一章 通則

○會計法……大一〇　法律　四二　一
○會計規則……大一一　勅令　一　七
○會計規則及各特別會計規則ニ依ル調製ヲ要スル帳簿ノ様式及記入ノ方法竝書類ノ様式……大一一　大令　二〇　三八
○國庫出納金端數計算法……大五　法律　二　四二
○國庫出納金端數計算法第五條第二項ニ依ル命令ノ件……大五　勅令　五六　四三
○國庫出納金端數計算法第二條ニ依リ課稅標準額計算上圓位未滿ノ端ヲ切捨ツヘキ國稅ノ件……大五　大　二　四四
○出納金端數計算方ニ關スル件……大五　五　三八五　四五
○出納金端數計算法ニ關スル件……大五　養老郡長問合　四五
○錢位未滿ノ端數切捨ニ關スル件……明三九　縣令　四四　四六

○計算證明規程(抄錄)……大一一　會計檢査院達一　四六
○內務省所管會計事務取扱規程……大一一　內訓　二　四八
○岐阜縣會計規則……明三四　縣令　四〇　六一
○岐阜縣會計細則……明三四　縣訓令　五五　八七
○岐阜縣會計檢査規程……明三八　縣訓令　四九　二四〇
○會計規則第百三十六條等ノ檢査其ノ他ノ吏員ニ關スル規程……大一五　縣訓甲　七三　二四一
○會計法規ニ基ク出納計算ノ數字及記載事項ノ訂正ニ關スル件……大一一　大令　四三　二四二
○會計事務取扱方ニ付注意ノ件……大二　五　二二七八　二四三
○會計帳簿登記方ノ件……大五　五　七二五　二五四
○縣稅會計事務取扱方注意ノ件……大四　稅務主任會議提出　二五五
○各種團體ニ屬スル會計事務取扱方ニ關スル件……大一〇　會　一五二　二六四
○會計檢査院法第十六條委託檢査ニ係ル計算ノ檢査及責任解除ニ關シ其ノ檢査取扱順序……明三五　送　二六四　二六五
○檢査及責任解除方ノ件……明二七　送　三一六　二六六
○保證金竝之ニ代フル有價證券取扱方……大一五　縣訓甲　八五　二六六
○岐阜縣會計規則第三十四條ニ依ル有價證券ノ種類及價格……大二　縣告　一六一　二六六
○政府ニ納ムヘキ保證金其他ノ擔保ニ充用スル國債ノ價格ニ關スル件……明四一　勅令　二八七　二六七
○證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル件……大五　法律　一〇　二六八
○證券ヲ以テスル歲入納付ニ關スル法律施行細則……大五　大令　三二　二六九
○歲入納付ニ使用スル證券ニ關スル件……大五　勅令　二五六　二七四
○證券ヲ以テ納付シ得ル歲入ノ種目及制限……大五　內令　一六　二七六
○諸收入收納取扱規程……明三三　大訓　二七　二七七
○經費仕拂方ニ關スル件……明二七　縣訓令　一〇三　二八一
○出納官吏事務規程……大一一　大令　二　二八二
○出納官吏ハ何時タリトモ金櫃帳簿等ノ檢査ニ應セシム……明二五　大訓　三五　三〇四
○出納官吏帳簿金櫃檢査員心得……大一五　縣訓甲　九〇　三〇四
○收入官吏ハ出納官吏ノ職務ヲ兼掌ノ件……明三七　大訓　三　三一〇
○出納官吏異動報告ノ件……大一五　縣訓甲　七二　三一一
○岐阜縣金庫位置及出納區域……大一五　縣告　三九五　三一二
○縣金庫ニ於テ使用スル印章ノ件……大一〇　縣訓令甲二六　三一七
○縣金庫事務取扱者派出ノ件……明四四　五　六九九　三一七
○日本銀行小切手使用ニ關スル件……大一一　日本銀行發　三一八

第二章　俸給、諸給

第一款　俸給

○高等官官等俸給令(抄錄)……明四三　勅令　一三四　三一五
○判任官俸給令……明四三　勅令　一三五　三一九
○判任官ノ待遇ヲ受クルモノニ判任官ノ俸給準用ノ件……明四〇　勅令　二四四　三二二
○文官俸給支給細則……明二五　大令　一一　三二二
○雇吏員職員其ノ他俸給支給規則……明四四　縣令　四　三二四
○警部補ニ關スル諸費貢擔ノ件……明四三　勅令　一六　三二六
○警部補ノ俸給及給與ニ關スル件……明四三　勅令　一七　三二六
○警部補俸給支給期日ニ關スル件……明四五　縣訓乙一一六　三二七
○巡査給與令……明三九　勅令　二五九　三二七
○巡査俸給支給規則……大元　內令　一三　三三九
○巡査俸給支給日ノ件……昭元　縣訓乙　五　三四〇
○巡査給與令ニ關スル件……大七　發警　八六　三四〇
○巡査給與令第十二條ノ月俸ニ關スル件……大一一　和警　八　三四一
○巡査給與令中疑義ニ關スル件……大一一　警　五四六六　三四二

○職事事変ノ際召集ノ爲休職ヲ命セラレタル巡査休職給支給ニ關スル件……大三　縣令　三七　三四三
○休職巡査ノ届出ヘキ事項……明三七　縣訓令　二六　三四三
○警部補巡査功勞加俸及精勤加俸給與規程……大八　縣訓甲　七　三四四
○巡査精勤加俸功勞加俸ニ關スル件……大八　發警　一〇　三四五
○巡査精勤加俸給與ニ關スル件……大九　警井四九ノ二　三四五
○巡査精勤加俸ヲ警部補ニ準用ノ件……大八　警新　五　三四六

第二款　旅費

○內國旅費規則……明四三　勅令　二七四　三四七
○內國旅費規則別表ニ定ムル甲地指定……大一三　大令　二八　三五一
○內國旅費規則別表ノ適用ニ關スル解釋方ノ件……大九　內務大臣官房會計課長通牒　三五三
○內國旅費規則第二條ニ依ル鐵道賃船賃……大九　大令　一六　三五四
○內國旅費規則中疑義ノ件……大九　縣知事問合　三五五
○家族移轉料ニ關スル件……大九　內務大臣官房會計課長通牒　三五六

○赴任旅費支給方ニ關スル件	大一〇	内務大臣官房會計課長通牒	三五七
○家族移轉料支給方ニ關スル件	大一〇	會　二八七〇	三五八
○内務省所管旅費規則	大九	内訓　一二	三六〇
○國庫ヨリ俸給ヲ受クル府縣ノ官吏ニ對シ府縣費ヨリ旅費支出ニ關スル件	大一一	勅令　五	三六四
○赴任旅費支給方ノ件	明二六	發　五一九	三六五
○國庫費支辨ニ屬スル官吏赴任ノ場合移轉料支給ノ件	明四三	縣訓丙　七五	三六六
○國庫金支辨ニ屬スル内國旅費給額ハ管内ノ旅行ニ限リ減額ノ件	大五	縣訓丙　三	三六七
○國費支辨旅費規則	大九	縣訓丙　一二	三七〇
○警察官吏内國旅費規則	大九	内訓　二五	三七四
○警視警部ノ内國旅費減額ノ件	大九	縣訓乙二五〇	三七八
○警視警部警部補旅費月額支給規則	明四三	縣訓甲　三六	三八〇
○警視警部所轄内旅費月額請求書ハ檢疫其他出張旅費請求ノ上提出スヘキ件	明三四	指示　三八	三八二
○警部旅費支給方疑義ノ件	明一九	内務省警保局回答	三八二
○警視警部所轄内旅費月額金請求書明細書竝ニ勤務調書々式ノ件	明四一	指示警　六	三八三
○國費及縣費支辨ニ屬スル旅費請求書精算書竝ニ領收證調製ノ件	明四四	五　三二九〇	三八四
○出張旅費請求書記載方ノ件	大九	會　二六〇〇	三八七
○概算旅費拂渡額制限ノ件	大二	五　七九六	三八八
○警察官吏内國旅費規則中疑義ニ關スル件	大一四	北警　二〇	三八九
○警察官吏内國旅費規則ニ關スル件	大一四	警發甲　四八	三九〇
○警察官吏内國旅費規則ニ關スル件	大九	發警　八三	三九一
○警部事務講習旅費ニ關スル件	大九	縣訓甲　五五	三九一
○警察官ヲ檢察事務ニ付要スル旅費其他ノ件	明三九	内司乙二四二	三九二
○警部補旅費減額支給規則	大九	縣訓甲　三九	三九二
○警部補巡查事務講習旅費支給ニ關スル件	大九	縣訓甲　二七	三九四
○國庫費支辨ニ屬スル巡查旅費支給方ノ件	大九	縣訓甲　三八	三九四
○規律訓練應召ノ警部補巡查旅費ノ件	大九	縣訓甲　二四	三九五
○實務訓練ノ爲召集スル巡查旅費ノ件	昭二	縣訓甲　三	三九五
○實務教習ノ爲出張セシムル教習生巡查旅費支給方ノ件	大八	縣訓甲　九	三九五
○巡查旅費額及同額支給規則	大九	縣訓甲　七一	三九六
○巡查所轄内旅費月額表	大九	指示警　五	三九八
○移動警察ニ從事スル警部補巡查旅費ノ件	大一二	縣訓丙　一四	四一五
○選擧ニ關シ區内ニ出張警部補巡查旅費ノ件	明三七	縣訓令　三一	四一六
○巡查護送旅費支給方ニ關スル件	大五	警一〇四一〇	四一六
○本縣巡查ニ任用ノ爲召喚旅費支給額	大一〇	縣告　三六	四一六

○他勤務ニ轉シタル場合旅費月額支給方ノ件……明四三　通牒　四一七
○巡査旅費額支給規則疑義ノ件……明四三　警　七二七三　四一七
○村落派出所及駐在所詰ヲ命シタル巡査ニ赴任旅費支給ノ件……明三一　指示　二六　四一八
○警部巡査歸鄉中公務ニ從事セシトキ旅費支給ノ件……明二一　指示　六八　四一八
○自動車車體檢査等ノ爲出張シタル旅費ノ件……大八　縣訓乙二一〇　四一九
○官吏吏員其他職員檢査及試驗用自動車乘車ノ場合車馬賃支給セサル件……大八　縣訓乙二一三　四一九
○各署間轉署ヲ命シタル巡査赴任旅費ハ舊任署ニテ支給ノ件……明三三　指示　三一　四一九
○同一町村內ニ於テ宿泊地ヲ異ニシタルトキ其ノ町村內車馬賃支給ノ件……明四二　五　三八〇一　四二〇
○在勤廳所在地內遠距離出張ニ對シ日當車馬賃支給方ノ件……大一一　會　二八四八　四二二
○縣稅ノ支辨ニ屬スル官吏吏員職員雇員等旅費請求方ノ件……明四〇　縣訓令　一　四二二
○兩年度ニ跨リタル旅費區分ノ件……明四四　內務大臣官房會計課長通牒　四二三
○兩年度ニ跨ル旅行ノ場合路程區分方……大一一　高　一二　四二三
○旅行中兩年度ニ跨ルトキ端數里程計算方ノ件……明二三　藏丙　一七八　四二四
○出張順路里程計算ニ對シ疑義ノ件……明二一　財　一五五　四二九
○旅費支給規則ニ關シ里程計算方ノ件……明四四　三月官報登載　四二九
○鐵道旅行ノ爲甲町村ヨリ乙町村停車場ニ至ル里程計算方ノ件……大一三　會　三二三　四三〇
○同一町村ニ二屬アル場合里程計算方ノ件……大一三　會　三二三　四三〇
○一日中數旅行ニ對スル日當支給方ノ件……大三　五　一九八〇　四三一
○出張中昇降等ノ場合旅費支給方ノ件……明二三　乾　一七七七　四三一
○旅費支給ニ關スル件……大一三　會　一〇二　四三二
○越美南線等順路決定ノ件……大一五　會　五一八　四三二
○旅費支給上疑義ノ件……明二五　發　二一二九　四三三
○旅費支給上ニ關スル決定事項……明四五　決定　四三三
○國庫ヨリ旅費ヲ受クル官吏刑事裁判ノ證人トシテ出頭シタルトキノ旅費ノ件　明三〇　內務部長通牒　四三四
○自動車ニ乘用シタルトキ車馬賃實費拂ノ件……大四　五　一九七八　四三四
○車馬賃實費ノ件……明三〇　內務部長通牒　四三五
○公用ノ船車馬等ニ依リ旅行スル場合車馬賃支給セサル件……大一三　會　四三〇　四三六
○縣吏員職員其ノ他旅費規則……明四四　縣令　五　四三六
○縣吏員職員其ノ他旅費規則第十二條ニ依リ日額指定ノ件……大五　縣訓乙　九八　四四三
○奏任官待遇者ノ旅費ニ關スル件……大一三　縣訓丙　一七　四四八
○事務講習旅行ノ際日當宿泊料等支給ニ關スル件……大四　縣訓丙　一一　四四八
○知事官房內務部警察部ニ屬スル奏任官判任官及雇講習旅費ノ件……大九　縣訓丙　一〇　四四九
○縣費ヲ以テ俸給支辨ノ官吏吏員其ノ他ノ職員ニ對シ國庫費旅費支給方……大二　縣訓甲　六八　四四九
○衛生技師娼妓檢黴ノ爲メ出張旅費ニ關スル件……大一二　決裁　四五〇

○縣費支辨職員ニ採用スル爲雇官者ノ赴任旅費支給方ノ件……大一三　第五課長通牒　四五〇
○縣費支辨ニ屬スル奏任官ノ待遇ヲ受クル課長ノ旅費支給方ノ件……大一五　縣訓丙　一七　四五一
○病蟲害豫防委員規程……明四四　縣訓甲　三九　四五一
○病蟲害豫防委員ノ出張旅費ニ關スル件……大一五　四　七九〇三　四五二
○畜牛結核病檢査ニ付出張旅費支出方ノ件……明三六　總務局會計課長回答　四五二
○畜牛結核病ニ關スル檢查員、評價人旅費支給方ノ件……明三六　課　三二七　四五三
○縣費支辨ニ關スル技手ニ畜牛結核病檢查員ヲ命シタル場合ノ旅費ノ件……明四三　千葉縣問合　四五四
○畜牛結核病檢查員旅費ノ件……明四四　縣訓丙　七　四五四
○屠畜檢查事務囑託ニ對スル旅費支給方ニ關スル件……大一五　衛發　二二九　四五五
○常備工夫出張旅費支給ノ件……大一一　決　裁　四五六
○出張中休職ヲ命セラレタル場合旅費支給方ノ件……明三三　內務省會計課長回答　四五六
○公務ヲ以テ出張中病氣ニ罹リ其ノ後許可ヲ得テ轉地療養中死亡シタル場合旅費支給方ノ件……明三九　內務大臣官房會計課長回答　四五七
○檢疫委員ノ管內出張旅費請求ニ關スル件……明三九　通達五〇六二　四五七
○縣稅ノ納付書旅費ノ請求用紙等調製交付ノ件……明四五　會　三五八五　四五八
○出張旅費請求期限ニ關スル件……大一四　警　二八八九　四五八
○市內ノ巡回ニ對シ日當支給方ノ件……大九　警察部長通牒　四五八

○出張先ニ於テ宿泊場所ナキ場合車馬賃支給方當否ノ件……明三一　安八郡長問合　四五九
○總下ニ於テ宿泊ヲ要シタル場合ノ旅費ノ件……明三一　福岡縣知事問合　四五九
○縣費ヨリ俸給ヲ支辨スル判任官ニ對シ國庫費ヨリ旅費ヲ支出スルトキノ件……明四三　縣訓甲　三四　四六〇

第三款　雜給

○巡查特別手當支給規程……大三　縣訓甲　一一　四六一
○巡查特別手當支給ニ關スル件……昭二　指示警　一　四六一
○警部補巡查臨時勤務手當支給規程……大六　縣訓甲　一四　四六二
○巡查臨時勤務手當支給ニ關スル件……大八　警富　四〇七　四六四
○警部補巡查訓練手當支給規程……大九　縣訓甲　二三　四六五
○巡查訓練手當支給規程……大八　警發　三四二　四六五
○移動警察乘車手當支給規程……大一二　縣訓丙　一五　四六六
○島嶼其ノ他在勤者月手當支給細則ニ依ル巡查手當額……大一一　縣訓甲　一七　四六六
○傭員俸給及傭員其他ニ給スル諸手當支給ニ關スル件……明二六　勅令　七　四六七
○小使及給仕日給額改正ノ件……大一五　指示警一八七八　四六八
○警察上使用スル醫師手當竝ニ護送縱取人雇給額ノ件……明三〇　縣訓令　六七　四六九

○結核健康診斷所ニ於テ臨時雇入レタル檢診醫ノ日額手當請求書樣式ノ件……明三六 指示 七 四六九
○非常駈付人足手當ノ件……四七〇

第三章 廳費

第一款 賄費

○警部補巡査ニ徹夜賄料支給ノ件……大八 縣訓甲 一〇 四七三
○巡査竝雇員臨時賄支給ノ件……大八 縣訓甲 一一 四七三
○警察署內ノ留置場ニ拘禁又ハ留置セラルル者ノ費用ノ件……明三七 警 一三一九 四七四
○警察官署ニ拘禁セラルル者ノ食料ニ關スル件……明三五 法律 一一 四七四
○警察署ニ拘禁留置ノ者食料金額ノ件……大八 勅令 三五四 四七四
○拘禁又ハ留置者ノ食料ニ關スル件……明三〇 內令 二三 四七五
○外國人ノ拘禁又ハ留置者ノ食料ニ關スル件……大九 縣訓甲 二五 四七五
○監獄費支辨ニ係ル費用請求ニ關スル件……明三二 縣訓令一二三 四七六
○監獄費償還金請求ニ關スル件……明三五 警 一二三五二 四七六
……大二 警・七一六 四七六

○〔集治〕監ニ入ルヘキ囚徒押送費ノ件……明三八 監甲 八〇二 四七七
○留置人賄費支辨ニ關スル件……明三五 警甲 四六 四七七
○令狀執行ノ留置人賄費ノ件……明三七 警甲三七ノ內 四七八
○留置場費請求書ニ納入告知書添付ノ件……明三八 指示警 一 四七九
○警察署內ノ留置場ニ拘禁又ハ留置セラルヘキ者ニ關スル費用請求書式……明三五 縣訓令 二八 四七九
○警察留置場ニ於ケル拘禁費請求方……大二 內元警一九九二 四八〇
○警察署內留置場ニ拘禁又ハ留置セラルルモノノ費用償還ノ件……明三五 警甲 四六 四八一
○傳染病院ニ收容セラルル患者費ノ件……明四四 警 四四〇四 四八一

第二款 貸與品、給與品及被服費

○巡査給與品及貸與品規則……明三〇 勅令 三三九 四八三
○巡査給與品及貸與品規則ヲ警部補ニ準用スルノ件……明四三 勅令 二一 四八六
○警部補巡査給與品及貸與品支給細則……明三一 縣訓令 三四 四八六
○巡査被服使用期限表……明三一 縣訓令 三九 四八九
○巡査被服費下渡表……大九 縣訓甲 二八 四九一
○警部補巡査ニ給與スル被服代料……四九二

○巡査貸與品給與品記帳方ノ件……明三七　警　六七三七　四九三
○警部補巡査給貸與品保管取扱方ノ件……大一四　警　四四〇一　四九四
○小使被服支給規則……明四三　縣訓乙一一一　四九八

第三款　雜　費

○警視警部宿舍料支給規則……明四三　縣訓令　一〇　四九九
○署長宿舍ニ關スル件……明四三　警　一五二二　四九九
○警部補巡査宿料支給規則……明四一　縣訓令　一六　四九九
○警部補巡査宿料日額配當ノ件……明四一　指示警　三　五〇一
○警部補派出所巡査部長派出所及巡査駐在所雜費月額支給規則……明三六　縣訓令　三〇　五〇一
○警部補巡査部長派出所及巡査駐在所雜費月額金高ノ件……大一〇　指示警　五　五〇三
○國庫費支辨ニ屬スル巡査出張所雜費支給方ノ件……明四四　縣訓甲　三九　五〇三

第四章　物品會計

○物品會計規則……明二二　勅令　八四　五〇五
○內務省及所管廳物品取扱規程……明三三　內訓　三〇　五〇七
○物品取扱細則……明三四　縣訓令　七二　五一一
○岐阜縣物品會計規則……明三四　縣訓令　五二　五二二
○物品出納ニ關スル裏議……明四三　警察部長決裁　五三三
○縣有物品取扱方ノ件……明三八　警　二〇九四　五三三
○不用物品賣却處分方ノ件……明四四　警　五七一四　五三五
○岐阜縣文具規則……明三八　縣訓令　三〇　五三五
○原價壹圓以內ノ物品消耗品扱トナスノ件……大一三　會　六四一　五三七
○縣出納吏管掌ニ屬スル物品亡失毀損ノ場合ニ於ケル責任免除ノ件……明三七　參事會決議　五三七
○出納吏任命資格ニ關スル件……明三七　內五　一九四　五三七

第五章　保管金、保管物品

○保管金取扱規程……大一一　大令　五　五三九
○保管金取扱規程第十六條及政府保管有價證券取扱規程第二十條ニ依ル主務官廳指定ノ件……大一二　會　一二四七　五五〇
○預金部預金取扱規程……大一一　大令　六　五五〇
○歲入歲出外現金取扱規程……明三八　縣訓令　六〇　五七三
○歲入歲出外現金取扱方ノ件……大一三　會　五五五　五七九
○歲入歲出外現金收入決議書ノ件……明三一　指示　六　五八〇
○〔違警罪〕保證金取扱方ノ件……明三九　第一部通牒　五八一
○警察署保管物品取扱規程……明三五　縣訓令　三九　五八一
○遺失物法其ノ他ノ法令ニ依リ國ノ所有ニ歸シタル物品處分方……明三九　縣訓令　四八　五八四
○在監人所持金ノ義ニ付內務省(檢務局長ヨリ通牒ノ件……明二三　警甲　一六　五八五
○在監人携有金品ニ關スル件……明三五　檢甲　九八　五八六
○警察署留置場ニ於ケル在監人所持品取扱方ニ關スル件……明三四　兵甲　二〇六　五八六
○在監人所持品取扱方ニ關スル件……明三四　警發　九七　五八七
○在監人所持金取扱ノ件……大二　警神六四ノ內　五八八

○囚人及刑事被告人所持金取扱ニ關スル件……明三四　警保局長回答　五八九
○囚人及刑事被告人携有金受渡ノ件……明三一　警　三九六　五九〇
○死亡又ハ逃亡セシ囚人及刑事被告人所持金處分方ノ件……明三五　廣島縣內務部通知　五九〇
○警察官吏積金規則ノ件……明三四　指示　一三〇　五九一
○警察官積金ハ郵便局ヘ預ケ換ノ件……明三七　警　一〇八八　五九一

第六章　納金及懲罰金控除

○有給縣吏員及吏員職員納金收入規則……明四三　縣訓甲　四　五九三
○過渡俸給ニ對スル國庫納金引去方……明四三　福　二九　六〇二
○巡查懲罰金控除ノ件……明二六　縣訓　五一　六〇二
○巡查懲罰金控除方法……明三〇　指示　二八　六〇二
○巡查懲罰金ニ關スル件……大一〇　發警　七五　六〇三

第七章 豫算

第一款 豫算

○縣費ニ屬スル豫算及議案調製順序竝豫算外ノ收入支出豫算超過ノ支出及豫算流用手續……大五 縣訓甲 二三 六〇五
○費目流用竝財務ニ關スル件……明三三 內令 七 六一三
○警察費月定額及支出計算表ノ件……明三四 指示 一六 六一五
○警察費ノ內地方稅連帶支辨金支出方ノ件……明二一 內訓 四 六一八
○警察費及警察廳舍建築修繕ノ精算書附屬仕譯明細書……明三〇 指示 二七 六一八
○警察廳舍修繕費支拂明細表……明四一 指示警 二 六一八
○警察費月定額ニ付注意ノ件……明三〇 警 二六六九 六一九
○警察費月定額變更申請書式ノ件……明三五 警 三一六六 六二三
○月定額五十錢以內繰上支辨ノ件……明三八 警 二二一三 六二六
○警察醫旅費豫算維持ノ件……大五 警 二二二〇 六二六
○警部補巡查赴任旅費ニ關スル件……大一五 警 三七六六 六二六
○縣經濟ニ屬スル收支ノ科目更正ヲ爲シタル場合ニ於ケル計算書記載方ノ件……明三八 無號 通牒 六二八
○過年度ニ屬スル歲入金整理科目ノ件……明四一 五第四〇八五 六二九

○本縣ノ經濟歲入歲出金振替手續ノ件……明三四 達 一七 六二九
○縣經濟收入支出金取扱順序……明四一 縣訓丙 二 六三〇
○注意事項……昭二 會計主任會議 六三九
○縣費雜出ノ整理科目ニ關スル件……明四〇 決定 六三九
○警察費經理ニ關スル件……大四 內發警 二五 六四〇

第二款 國庫下渡金

○府縣警察費國庫下渡金割合ノ件……明二一 勅令 六一 六四一
○警察費國庫下渡金算出ノ場合請願巡查費控除ノ件……明二三 警發 三一 六四一
○國庫下渡金算定上控除スヘキ費額ニ關スル件……明四五 內地四九八八 六四二
○警察費國庫下渡金算定ニ關スル件……大一五 發警 六 六四二

第三款 請願巡查

○請願巡查費額……明二四 縣令 一 六四四
○銀行會社等ノ請願ニ依リ配置スル巡查充用及費用徵收方……明二三 內訓 三八 六四四

第八章　縣有財產

○縣有財產及營造物管理規則……明四三
○縣有財產及營造物管理規則施行手續……明四三
○巡査ノ用ニ供シタル國費支辨ノ物件ヲ府縣ニ讓渡スルノ件……大五
○各府縣下ニ存在セル公共財產管理方……明二一
○縣有土地物件收入金徵收規程……明二四
○官舍貸渡內規……大一二

第九章　共濟組合

○警部補巡査消防手共濟組合ニ關スル件……大九
○警察共濟組合規則……大九
○警察共濟組合事務取扱規程……大九
○警察共濟組合事務取扱細則……大九
○警察共濟組合事務取扱ニ關スル件……大九

縣令　一　六四五
縣訓甲　一　六四六
勅令　三四　六五四
內令　一　六五四
縣訓　二七三　六五五
指示警　四　六五六
勅令　四四　六五七
內令　二一　六五七
內訓　一七　六六三
縣訓甲　七〇　六七九
發衛　二二七　六八一

○警察共濟組合規則ニ關スル件……大一〇
○警察共濟組合死亡給與金請求ニ關スル件……大一三
○警察共濟組合療疾給與金請求ニ關スル件……大九
○警察共濟組合ニ關スル檢診證記載方ノ件……大一〇
○警察共濟組合警察醫檢診方ニ關スル件……大一一
○警察共濟組合事務ニ關スル件……大一三
○警察共濟組合災害給與金ニ關スル件……大一二
○警察共濟組合事務取扱ニ關スル件……大一二
○警察共濟組合醫療金ニ關スル件……大一三
○警察共濟組合事務取扱ニ關スル件……大一一
○警察共濟組合收支計算ニ關スル件……大一〇
○警察共濟組合收支報告補正ニ關スル件……大一〇
○警察共濟組合收支決算ニ關スル件……大一一
○警察共濟組合證憑書類送付ニ關スル件……大一〇
○警察共濟組合財產管理竝送金方法ニ關スル件……大一〇

鳥社會　九　六八三
視警　二六　六八四
發社會　四六　六八五
發社會　二四　六八六
視社會　七二　六八七
發警　二〇　六八七
發警一九ノ三　六八八
發警　一四　六八九
警發乙六五七　六八九
警發乙四三八　六九〇
社發乙　一七　六九一
社發乙四〇三　六九二
發社會　二四　六九二
社發乙一六九　六九五
發會　五二三　六九六

第十章　雜

○鐵道乘車用公務證券及證明書規程……大二　縣訓甲　四二　六九九
○警察官吏鐵道通券發行ノ件……大二　內警一八五三　七〇三
○警察官吏乘車等級制限ニ付鐵道院ト協定ノ件……明四二　閣甲　八七　七〇四
○警部補ノ乘車等級ニ關スル件……明四三　內警一一七二　七〇四
○警察官吏公務證券ニ關スル件……大一二　警　二五〇一　七〇五
○運賃後拂乘車船證發行ニ關スル件……大一四　警　二八八一　七〇五
○駐在所詰員消耗品代及家賃ハ各自辨ノ件……明二六　指示　五四　七一二
○諸物品購入諸雇人使用其他債務ヲ生スヘキ場合及不用品公賣等ノ決裁錄書式……明二八　指示　二三　七一二
○動物證據品保管費支出ニ關スル件……明二八　警務課回答　七一三
○歲入金雜部金ノ取扱方ニ關スル件……明三八　會　一二五七　七一四
○貸座敷及娼妓賦金規則……大五　縣令　一一　七一四
○貸座敷及娼妓賦金規則施行手續……大五　縣訓甲　九　七一六
○法人貸座敷賦金賦課方ノ件……大三　一　二三四八　七一七

○貸座敷引手茶屋娼妓ノ賦金賦課地方稅編入及警察機密費檢徵費支辨方……明二一　閣令　一二　七一八
○娼妓病院ニ收容セラルル患者費等收支整理ノ件……明四四　警　四四〇三　七一八
○委任狀等提出方ノ件……大三　五　五〇三　七一九
○府縣藩印……明二　公　達　七一九
○官印寸法……明三一　閣令　五　七一九

第二編　會計

第一章　通則

●會計法

（大正十年四月八日）
（法律第四十二號）。

第一章　總則

第一條　政府ノ會計年度ハ每年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第二條　租稅其ノ他一切ノ收納ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出ハ之ヲ總豫算ニ編入スヘシ

第三條　每會計年度ニ於ケル經費ノ定額ハ其ノ年度ノ歲入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第四條　各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノヲ除クノ外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第五條　政府ハ日本銀行ヲシテ國庫金出納ノ事務ヲ取扱ハシム

前項ノ規定ニ依リ日本銀行ニ於テ受入レタル國庫金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ預金トス

第六條　政府ハ國庫金出納上必要アルトキハ大藏省證券ヲ發行シ又ハ日本銀行ヨリ借入ヲ爲スコトヲ得

大藏省證券及借入金ハ當該年度ノ歲入ヲ以テ之ヲ償還スヘシ

大藏省證券及借入金ノ最高額ハ每年度帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム

第二章　豫算

第七條　歲入歲出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

必要避クヘカラサル經費及法律又ハ契約ニ基ク經費ニ不足ヲ生シタル場合ヲ除クノ外追加豫算ヲ提出スルコトヲ得ス

第八條　歲入歲出ノ總豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

一　歲入豫算明細書

二　各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第九條　豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一豫備金

第二豫備金

第十條　豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第十一條　豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ其ノ第一豫備金支出ニ係ルモノハ次ノ常會ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルコトヲ要ス

政府ハ豫算ニ定メルモノ及特ニ帝國議會ノ協賛ヲ經タル場合ニ於テハ翌年度ニ亘ル契約ヲ締結スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ翌年度ニ亘ル契約ヲ爲スコトヲ得ヘキ金額ハ每年度帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム

第三章　收入

第十二條　租稅其ノ他ノ歲入ハ法令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收又ハ收納スヘシ

法令ノ定ムル所ニ依リ管該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅其ノ他ノ歲入ヲ徵收又ハ收納スルコトヲ得ス但シ各廳事務官吏ヲシテ收納ヲ分掌セシムル場合又ハ日本銀行ヲシテ收納ヲ取扱ハシムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四章　支出

第十三條　各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第十四條　國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

第十五條　國務大臣其ノ所管定額ヲ支出セムトスルトキハ現金ノ交付ニ代ヘ日本銀行ヲ支拂人トスル小切手ヲ振出サシムルコトヲ得

但シ他ノ官吏ニ委任シテ小切手ヲ振出サシムルコトヲ得

第十六條　國務大臣ハ債主ノ爲ニスルニ非サレハ小切手ヲ振出スコトヲ得ス但シ以下四條ノ規定ニ依リ主任ノ官吏又ハ日本銀行ニ對シ資金ヲ交付スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　國務大臣ハ勅令ヲ以テ定ムル經費ニ限リ主任ノ官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲勅令ノ定ムル所ニ依リ之カ資金ヲ管該官吏ニ交付スルコトヲ得

第十八條　國務大臣ハ日本銀行ニ命シ國債ノ元利拂ヲ爲サシムル爲之カ資金ヲ日本銀行ニ交付スルコトヲ得

第十九條　國務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金支拂ヲ爲サシムル爲管該官吏ヲシテ其ノ保管ニ係ル歲入金、歲出金又ハ歲入歲出外現金ヲ繰替使用セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ歲出金ニ繰替使用シタル現金ヲ補塡スル爲國務大臣ハ之カ資金ヲ管該官吏ニ交付スルコトヲ得

第二十條　國務大臣隔地者ニ支拂ヲ爲サムトスルトキハ必要ナル資金ヲ日本銀行ニ交付シ之カ支拂ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ハ隔地ノ出納官吏ニ資金ヲ交付セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條　國務大臣ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得但シ軍艦、兵器、彈藥若ハ外國ヨリ直接購入スル機械圖書ノ代價及官公署ニ對シ支拂フヘキ經費ヲ除クノ外物件ノ製造若ハ買入又ハ工事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　國務大臣ハ特殊ノ經理ヲ必要トスル場合ニ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ各廳事務費ノ全部又ハ一部ヲ主務官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支給スルコトヲ得

第二十二、第五章　決算

第二十三條　會計檢査院ノ檢査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル歳入歳出ノ總決算ハ翌年開會ノ常會ニ於テ帝國議會ニ之ヲ提出スヘシ

第二十四條　總決算ハ總豫算ト同一ノ樣式ヲ用ヰ左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額
調定濟歳入額
收入濟歳入額
不納缺損額
收入未濟歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額
豫算決定後增加歳出額
支出濟歳出額
翌年度繰越額
不用額

第二十五條　總決算ニハ會計檢査院ノ檢査報告ト倶ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

一　歳入決算明細書
二　各省決算報告書
三　國債計算書

第六章　歳計剩餘定額繰越過年度支出豫算外收入及定額戻入

第二十六條　各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十七條　豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事製造又ハ物品ノ買入若ハ運搬ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ竣功又ハ納入若ハ運搬ヲ遲延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十八條　數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造其ノ他ノ專業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ每年度ノ支出殘額ヲ竣功年度迄遞次繰越シ使用スルコトヲ得

第二十九條　過年度ニ屬スル經費ハ現年度定額ヨリ支出スヘシ但シ豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキモノヲ除クノ外其ノ經費所屬年度ノ每項定額中不用ト爲リタル金額ヲ超過スルコトヲ得ス

第三十條　出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入其ノ他豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ支出濟歳出ノ返納金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルルコトヲ得

第七章　契約

第三十一條　政府ニ於テ賣買貸借請負其ノ他ノ契約ヲ爲サムトスルトキハ勅令ヲ以テ定メタル場合ヲ除クノ外總テ公告シテ競爭ニ付スヘシ但シ不動産賣拂ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八章　時效

第三十二條　金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニシテ時效ニ關シ他ノ法律ニ規定ナキトキハ五年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅スル政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

第三十三條　金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニシテ時效ノ中斷停止其ノ他ノ事項ニ關シ適用スヘキ他ノ法律ノ規定ナキトキハ民法ノ規定ヲ準用ス政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

第三十四條　法令ノ規定ニ依リ政府ノ爲ス納入ノ告知ハ民法第百五十三條ノ規定ニ拘ラス時效中斷ノ效力ヲ有ス

第九章　出納官吏

第三十五條　出納官吏ハ法令ノ定ムル所ニ依リ現金又ハ物品ヲ出納保管スヘシ

第三十六條　出納官吏其ノ出納保管ニ係ル現金又ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クヘシ

第三十七條　出納官吏其ノ保管ニ係ル現金又ハ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラサリシコトヲ會計檢査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ亡失毀損ニ付辨償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十八條　國務大臣ハ特ニ必要アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各廳ノ事務員ヲシテ現金又ハ物品ノ出納保管ヲ分掌セシムルコトヲ得

出納官吏ニ關スル規定ハ前項ノ事務員ニ付之ヲ準用ス

第十章　雜則

第三十九條　特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第四十條　政府ハ其ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第四十一條　日本銀行ハ其ノ取扱ヒタル國庫金ノ出納、國債ノ發行ニ依ル收入金ノ收支、第十八條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル資金ノ收支及前條ノ規定ニ依リ取扱ヒタル有價證券ノ受拂ニ關シ會計檢査院ノ檢査ヲ受クヘシ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十年勅令第四百八十六號ヲ以テ大正十一年四月一日ヨリ施行）

明治二十七年法律第十六號、明治三十三年法律第五十號及明治四十四年法律第二十四號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ爲シタル第二豫備金ノ支出竝本法施行ノ日ノ屬スル年度ノ前年度及前々年度ノ決算ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行前ニ期滿免除ト爲ラサル權利ニ付テハ本法其ノ他ノ法律中時效ニ關スル規定ヲ適用ス但シ其ノ期間ノ起算點ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

本法施行前ニ進行ヲ始メタル期滿免除ノ期間カ本法其ノ他ノ法律ニ定メタル時效ノ期間ヨリ長キトキハ從前ノ規定ニ依ル

但シ其ノ殘期カ本法施行ノ日ヨリ起算シ本法其ノ他ノ法律ニ定メタル時效ノ期間ヨリ長キトキハ其ノ日ヨリ起算シテ本法

前三項ニ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正十一年勅令第一號　一月九日）

●會計規則

第一章　總則

第一節　會計年度所屬區分

第一條　歲入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

一　納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年度

二　隨時ノ收入ニシテ納入ノ告知書ヲ發スルモノハ納入ノ告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度

三　隨時ノ收入ニシテ納入ノ告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二條　歲出ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

一　國債ノ元利、年金、恩給ノ類ハ支拂期日ノ屬スル年度

二　諸拂戻金、缺損補塡金、償還金ノ類ハ其ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

三　俸給、給料、手當、旅費、手數料ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度

四　使用料、保管料、電燈電力料ノ類ハ其ノ支拂ノ原因タル事實ノ存シタル期間ノ屬スル年度
五　工事製造費、物件ノ購入代價、運賃ノ類ハ其ノ支拂ヲ爲スヘキ日ノ屬スル年度
六　前各號ニ該當セサル費用ニシテ繰替拂ヲ爲シタルモノハ其ノ繰替拂ヲ爲シタル日ノ屬スル年度、其ノ他ノモノハ小切手ヲ振出シタル日ノ屬スル年度

第二節　國庫金ノ出納

第三條　日本銀行ハ本令ニ依ルノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國庫金出納ノ事務ヲ取扱フヘシ

第四條　政府預金ニハ大藏大臣ノ特ニ定ムルモノ及政府ノ爲ニスル支拂ノ準備ニ必要ナル金額ヲ除クノ外總テ相當ノ利子ヲ附セシム

第五條　每年度所屬歲入金ヲ日本銀行ニ於テ受入ルルハ翌年度四月三十日限トス但シ左ニ揭クルノ場合ニ於テハ翌年度五月三十一日迄之ヲ受入ヲ爲スコトヲ得

一　出納官吏ヨリ其ノ領收シタル歲入金ノ拂込アリタルトキ
二　市町村又ハ之ニ準スヘキモノヨリ其ノ收納シタル歲入金ノ送付アリタルトキ
三　國庫內ニ於テ移換ニ依ル歲入金ノ受入ヲ爲ストキ

每年度所屬歲出金ヲ日本銀行ニ於テ支拂フハ翌年度五月三十一日限トス

第二章　豫算

第一節　總豫算

第六條　大藏大臣ハ歲入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歲入歲出總豫算ヲ調製スヘシ

總豫算ニハ歲計全體ニ關スル說明ヲ附スヘシ

第七條　歲入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歲入ノ性質ヲ明ニスヘシ

第八條　歲出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘシ

第九條　歲入歲出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二節　歲入豫算明細書

第十條　大藏大臣ハ每年度歲入ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫算額ト比較ヲ爲シ歲入豫算明細書ヲ調製スヘシ

歲入豫算明細書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項ノ金額ヲ各目ニ區分シ各項每ニ增減ノ事由及計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

第三節　豫定經費要求書

第十一條　各省大臣ハ每年度其ノ所管經費ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫算額ト比較ヲ爲シ豫定經費要求書ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十二條　各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ各項中所要ノ金額ヲ各目ニ區分シ必要ノ場合ニ於テハ更ニ之ヲ細分シ經費所要ノ理由及計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

第十三條　各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル說明及各款各項ノ說明ヲ附スヘシ

第四節　支拂豫算

第十四條　各省大臣ハ每年度決定ノ豫算定額ニ基キ支出官每ニ所要ノ費額ヲ定メ支拂豫算ヲ調製シ之ヲ大藏大臣及會計檢査院ニ送付スヘシ

第十五條　支拂豫算ヲ更定シタルトキハ其ノ計算書ヲ大藏大臣及會計檢査院ニ送付スヘシ

第十六條　大藏大臣支拂豫算又ハ其ノ更正計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第五節　豫備金支出

第十七條　豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十八條　第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條　大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

第二十一條　各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十二條　大藏大臣ハ前條ノ要求書ヲ調査シ意見ヲ附シテ勅裁ヲ請フヘシ

第二十三條　第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣ハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル書類ヲ添ヘ之ヲ會計檢査院ニ通知シ且其ノ事項及金額ヲ官報ニ揭載スヘシ

第二十四條　第一豫備金ヲ以テ補充シタル金額ハ各省大臣其ノ計算書ヲ調製シ各費途毎ニ說明ヲ附シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ第一豫備金支出ノ總計算書ヲ調製シ之ニ說明ヲ附シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第二十五條　第二豫備金ヲ以テ支辨シタル金額ハ各省大臣其ノ調書ヲ調製シ各費途毎ニ說明ヲ附シ每年度帝國議會常會ノ開會後直ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ第二豫備金支出ノ總調書ヲ調製シ之ニ說明ヲ附シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ調書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第六節　翌年度ニ亙ル契約

第二十六條　各省大臣災害事變其ノ他避クヘカラサル事由ノ爲會計法第十一條第一項ノ規定ニ依リ翌年度ニ亙ル契約ヲ結フノ必要アリト認ムルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十七條　大藏大臣前條ノ承認ヲ爲シタルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル書類ヲ添ヘ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

第三章　收入

第一節　徵收

第二十八條　歲入徵收官ハ法律又ハ勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外各省大臣ノ定ムル各廳ノ長ヲ以テ之ニ充ツ但シ各省大臣必要アリト認ムルトキハ大藏大臣ト協議シテ特例ヲ設クルコトヲ得

歲入徵收官必要アリト認ムルトキハ他ノ官吏ヲシテ其ノ徵收事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

第二十九條　支出濟ト爲リタル歲出ノ返納金ヲ歲入ニ組入レムトスル場合ニ於テハ該經費ヲ支出シタル支出官之ヲ歲入徵收官トシテ徵收ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十條　歲入徵收官租稅其ノ他ノ歲入ヲ徵收セムトスルトキハ法令ニ違フコトナキカ、所屬年度及歲入科目ヲ誤ルコトナキカヲ調査シ之ヲ決定スヘシ

第三十一條　歲入徵收官前條ノ決定ヲ爲シタルトキハ納人ニ對シ其ノ納付スヘキ金額、期日及場所ヲ記載シタル書面ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スヘシ但シ出納官吏又ハ出納員ニ卽納セシムル場合ハ口頭ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スコトヲ得

第三十二條　納期ノ一定シタル收入ニシテ納期所屬ノ年度ニ於テ納入ノ告知書ヲ發セサルモノハ總テ納入ノ告知書ヲ發シタル年度ノ歲入ニ組入ルヘシ

第二節　收納

第三十三條　出納官吏又ハ出納員租稅其ノ他ノ歲入金ヲ收納シタルトキハ領收證書ヲ納人ニ交付スヘシ此ノ場合ニ於テハ出納官吏收納濟ノ旨ヲ歲入徵收官ニ報告スヘシ

第三十四條　出納官吏又ハ出納員ノ收納シタル現金ハ出納官吏之ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ

第三十五條　日本銀行ニ於テ歳入金ヲ收納シ又ハ歳入金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ領收證書ヲ納人又ハ拂込人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ歳入徴收官ニ報告スヘシ

第三十六條　毎年度所屬歳入金ヲ出納官吏又ハ出納員ニ於テ收納スルハ翌年度四月三十日限トス

第三節　報告

第三十七條　歳入徴收官ハ毎月徴收報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ之ヲ歳入事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十八條　歳入事務管理廳ハ徴收報告書ニ依リ毎月徴收總報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章　支出

第一節　總則

第三十九條　勅令ヲ以テ指定シタル費途ニ對シテハ大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ之ニ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得ス

大藏大臣前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ之ヲ會計檢査院ニ通知スヘシ

第四十條　豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第四十一條　各省大臣他ノ官吏ヲシテ其ノ所管定額ノ支出ヲ爲サシメムトスルトキハ支拂豫算ヲ定メテ之ヲ委任スヘシ

第四十二條　支出官ニ事故アルトキハ各省大臣ハ臨時他ノ官吏ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第四十三條　本章ノ規定ハ商法中小切手ニ關スル規定ノ適用ヲ妨ケス

第二節　小切手ノ振出

第四十四條　支出官ハ小切手振出前其ノ經費ハ豫算ノ目的ニ違フコトナキカヲ調査シ該經費ノ金額ヲ算定シ且該經費ハ支拂豫算額ニ超過スルコトナキカ、所屬年度及支出科目ヲ誤ルコトナキカヲ調査スヘシ

第四十五條　支出官ハ其ノ振出ス小切手ニ受取人ノ氏名、金額、年度、支出科目、番號其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第四十六條　小切手ハ一項毎ニ之ヲ振出スヘシ

第四十七條　支出官ノ振出ス小切手ハ大藏大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ記名式所持人拂ト爲スヘシ

第四十八條　支出官隔地ノ債主ニ支拂ヲ要スルトキハ支拂場所ヲ指定シ日本銀行ニ之カ資金ヲ交付シ其ノ旨ヲ債主ニ通知スヘシ

前項ノ規定ハ隔地ノ出納官吏ニ資金ヲ交付スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條　支出官小切手ヲ振出シタルトキハ其ノ都度之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第五十條　毎年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ小切手ヲ振出スハ翌年度四月三十日限トス但シ國庫内ニ於ケル移換ノ爲ニスル支出又ハ會計法第十九條ノ規定ニ依リ歳出金ニ繰替使用シタル現金補塡ノ爲ニスル支出ニ付テハ翌年度五月三十一日迄小切手ヲ振出スコトヲ得

第三節　支拂

第五十一條　小切手ノ呈示アリタルトキハ日本銀行ハ其ノ小切手カ法令ニ違フコトナキカ、券面金額カ支拂豫算各項定額ニ超過スルコトナキカヲ調査シ之カ支拂ヲ爲スヘシ

前項ノ小切手ニシテ其ノ振出日附ヨリ十日ヲ經過シタルモノト雖一年ヲ經過セサル場合ニ於テハ之カ支拂ヲ爲スヘシ

第五十二條　日本銀行第四十八條ノ規定ニ依リ資金ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ小切手ノ振出日附ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ債主又ハ出納官吏ニ對シ之カ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條　毎年度小切手振出濟金額中翌年度五月三十一日迄ニ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十六條ノ歳計剩餘ニ組入レス之ヲ繰越整理スヘシ

第五十四條　前條ノ規定ニ依リ繰越シタル資金中小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シ未タ其ノ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スルモノハ之ヲ其ノ期間滿了ノ日ノ屬スル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

前項ノ規定ハ日本銀行第五十二條ノ場合ニ於テ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スル資金ノ返納ニ付之ヲ準用ス

第五十五條　支出官小切手ノ所持人ヨリ償還ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テハ之ヲ調査シ償還スヘキモノト認ムルトキハ事由ヲ具シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ所管大臣ニ提出シ所管大臣ハ審査ノ上之カ支拂ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第五十六條　前條ノ規定ハ支出官第五十二條ノ場合ニ於テ其ノ支拂ヲ受ケサル債主又ハ出納官吏ヨリ更ニ支拂ノ請求ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第四節　資金前渡、前金拂、概算拂及渡切經費

第五十七條　會計法第十七條ノ規定ニ依リ主任ノ官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲其ノ資金ヲ當該官吏ニ前渡スルハ左ニ揭クル經費ニ限ル

一　陸軍ノ軍隊、學校及病院竝海軍ノ部隊、學校、病院及艦船ニ屬スル經費

二　陸海軍ノ行軍又ハ演習ニ要スル經費

三　陸軍ニ於テ馬匹又ハ種苗ヲ生產者ヨリ直接購入スル場合ニ要スル經費

四　官船ニ屬スル經費

五　外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費

六　運輸通信ノ不便ナル地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費

七　總中常用ノ雜費及旅費但シ一年ノ總額五千圓ヲ超ユルコトヲ得ス

八　場所ノ一定セサル事務所ノ經費

九　各廳直營ノ工事、製造又ハ造林ニ要スル經費但シ一主任官ニ付常時五萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス

十　監獄作業賞與金

十一　四人及刑事被告人押送費

十二　證人、鑑定人、通事又ハ參考人ニ支給スル旅費其ノ他ノ給與

第五十八條　前條ノ規定ニ依リ資金ヲ前渡スルハ左ノ區分ニ依ル

一　常時ノ費用ニ係ルモノハ每一月分以內ノ費額ヲ豫定シテ交付スヘシ但シ外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費、運輸通信ノ不便ナル地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費又ハ事務ノ必要ニ依リ六月分以內ヲ交付スルコトヲ得

二　臨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シ事務上差支ナキ限リ成ルヘク分割シテ交付スヘシ

第五十九條　會計法第二十一條ノ規定ニ依リ前金拂ヲ爲シ得ルハ左ニ揭クル經費ニ限ル但シ第九號乃至第十三號ニ揭クル經費ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

一　軍艦、兵器又ハ彈藥ノ代價

二　外國ヨリ直接購入スル機械又ハ圖書ノ代價

三　朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島內ニ居住スル者ニ支給スル徵兵旅費

四　運賃

五　外國ニ於テ支拂ヲ要スル土地又ハ家屋ノ借料及公課

六　政府ノ買收又ハ收用ニ係ル土地ノ上ニ存スル物件ノ移轉料

七　官公署ニ對シ支拂フヘキ經費

八　外國ニ於テ研究又ハ調查ニ從事スル者ニ支給スル學資金其ノ他ノ給與

九　交通至難ノ場所ニ勤務スル者又ハ艦船乘組ノ者ニ支給スル俸給其ノ他ノ給與

十　軍人、軍屬及陸海軍ノ職工ニ支給スル旅費

十一　外國在勤陸海軍武官ニ支給スル俸給其ノ他ノ給與

十二　補助金

十三　謝謝金

第六十條　會計法第二十一條ノ規定ニ依リ概算拂ヲ爲シ得ルハ左ニ揭クル經費ニ限ル但シ第三號ニ揭クル經費ニ付テハ所

管大臣大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

一 旅費

二 官公署ニ對シ支拂フヘキ經費

三 補助金又ハ補給金

第六十一條 會計法第二十二條ノ規定ニ依リ事務費ノ全部又ハ一部ヲ主務官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支給シ得ルハ左ニ揭クル官署ノ經費ニ限ル

一 在外各廳

二 遞信官署

三 區裁判所出張所

四 朝鮮、臺灣、樺太、關東州及南洋群島ニ於ケル官署

前項ノ官署ノ種類、渡切ト爲スヘキ歲出科目及支給方法ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第五節 繰替拂

第六十二條 各省大臣ハ左ニ揭クル經費ノ支拂ヲ爲サシムル爲出納官吏ヲシテ其ノ保管ニ係ル前渡ノ資金ヲ繰替使用セシムルコトヲ得但シ第四號ニ揭クル經費ニ繰替使用スヘキ資金ハ艦船經費繰替金ニ限ル

一 旅費

二 埋葬費

三 在外公館ニ於ケル雜民貸與金

四 海軍省所管艦船經費

第六十三條 所管大臣ハ左ニ揭クル官署ノ出納官吏又ハ出納員ヲシテ其ノ取扱ニ係ル歲入金、歲出金及歲入歲出外現金ヲ交互ニ繰替使用セシムルコトヲ得

一 鐵道官署

二 遞信官署

前項ノ規定ニ依ル現金ノ繰替使用ニ關スル手續ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第六節 年度開始前支出

第六十四條 各省大臣ハ資金前渡ヲ爲シ得ル經費ニ限リ必要已ムヲ得サル場合ニ於テハ當該年度開始前之カ資金ヲ交付スルコトヲ得

第六十五條 前條ノ場合ニ於テハ各省大臣其ノ前渡ヲ要スル經費ヲ算定シ計算書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣及會計檢查院ニ送付スヘシ

大藏大臣前項ノ計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ審查ノ上之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第七節 報告

第六十六條 支出官ハ每月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ所管大臣ニ送付スヘシ

第六十七條 所管大臣ハ支出濟額報告書ニ依リ每月支出總報告書ヲ調製シ支出濟額報告書ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五章 決算

第一節 總決算

第六十八條 歲入歲出總決算ハ總豫算ト同一ノ區分ニ依リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第六十九條 大藏大臣ハ總決算ニ歲入決算明細書、各省決算報告書及國債計算書ヲ添ヘ會計檢查院ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二節 歲入決算明細書、各省決算報告書及收入支出計算書

第七十條 大藏大臣ハ歲入豫算明細書ト同一ノ區分ニ依リ歲入決算明細書ヲ調製シ各項每ニ豫算ニ對スル增減ノ事由ヲ記

明スヘシ

第七十一條　歲入事務管理廳ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ毎年度收入濟歲入額ニ付豫算ニ對スル增減計算書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七十二條　各省大臣ハ各省豫定經費要求書ト同一ノ區分ニ依リ其ノ省所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七十三條　歲入徵收官ハ會計檢查院ニ證明ノ爲歲入徵收計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ歲入事務管理廳ニ送付シ歲入事務管理廳ハ之ヲ會計檢查院ニ送付スヘシ

第七十四條　支出官ハ會計檢查院ニ證明ノ爲支出計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計檢查院ニ送付スヘシ

第七十五條　前二條ノ計算書ハ歲入事務管理廳又ハ所管大臣ヨリ特ニ委任ヲ受ケタル官吏ヲシテ直ニ之ヲ會計檢查院ニ送付セシムルコトヲ得

第三節　國債計算書

第七十六條　國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第七十七條　國債計算書ニハ左ニ揭ケル事項ヲ示ス計算

一　當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現在高ヲ示スヘシ

二　當該年度ニ於テ償還シ及支拂ヒタル各種國債ノ元高及利子ノ計算

三　最近五年間ニ於ケル各種國債增減ノ情況ヲ示ス計算

第六章　定額繰越及定額戻入

第一節　定額繰越

第七十八條　各省大臣會計法第二十七條及第二十八條ノ規定ニ依リ定額ノ繰越ヲ要スルトキハ翌年度四月三十日迄ニ繰越計算書ヲ調製シ各事件毎ニ其ノ事由ヲ示シ大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ

繰越計算書ハ歲出豫算ト同一ノ區分ニ依リ調製シ左ニ揭ケル事項ヲ示スヘシ

一　繰越ヲ要スル項ノ定額

二　定額中支出濟ト爲リタル額及當該年度所屬トシテ支出スヘキ額

三　定額中翌年度ニ繰越ヲ要スル額

四　定額中不用ト爲ルヘキ額

第七十九條　會計法第二十七條ノ規定ニ依リ繰越ヲ爲サムトスルトキハ豫算ニ於テ明許シタル場合ヲ除クノ外前條ノ繰越計算書ニ契約書ノ寫其ノ他ノ參照書類ヲ添ヘ之ヲ會計檢查院ニ通知スヘシ

第八十條　大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ繰越計算書ノ寫ヲ添ヘ之ヲ會計檢查院ニ通知スヘシ

第二節　定額戻入

第八十一條　支出濟ト爲リタル歲出ノ返納金ハ其ノ支拂ヒタル經費ノ定額ニ之ヲ戻入ルルコトヲ得但シ重大ナル過失ニ因リ誤拂過渡ト爲リタル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條　支出官前條ノ規定ニ依リ定額ニ戻入レムトスルトキハ返納人ヲシテ其ノ金額ヲ返納セシムヘシ

第八十三條　日本銀行ニ於テ前條ノ返納金ヲ領收シタルトキハ之ニ相當スル金額ヲ支拂豫算定額ニ戻入ノ記帳ヲ爲シ其ノ旨ヲ支出官ニ通知スヘシ

第八十四條　每年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度四月三十日限トス

第七章　契約

第一節　通則

第八十五條　各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏契約ヲ爲サムトスルトキハ契約ノ目的、履行期限、保證金額、契約違反ノ場合ニ於ケル保證金ノ處分、危險ノ負擔其ノ他必要ナル事項ヲ詳細ニ記載シタル契約書ヲ作成スヘシ

第八十六條　契約書ニハ當該官吏記名捺印スルコトヲ要ス

第八十七條　各省大臣ハ左ニ揭クル場合ニ於テハ第八十五條ニ規定スル契約書ノ作成ヲ省略スルコトヲ得但シ第五號ノ場合ニ於テハ大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

一　三千圓ヲ超エサル指名競爭契約又ハ隨意契約ヲ爲ストキ

二　外國ニ於テ五千圓ヲ超エサル指名競爭契約又ハ隨意契約ヲ爲ストキ

三　歸責ニ付スルトキ

四　物品賣拂ノ場合ニ於テ買受人直ニ代金ヲ納付シ其ノ物品ヲ引取ルトキ

五　第一號及第二號以外ノ隨意契約ニ付各省大臣契約書ヲ作成スルノ必要ナシト認ムルトキ

第八十八條　政府ト契約ヲ結ハムトスル者ハ現金又ハ國債ヲ以テ契約金額百分ノ十以上ノ保證金ヲ納ムヘシ

指名競爭ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ル場合ニ於テハ各省大臣ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得前條第三號及第四號ノ場合亦同シ

第八十九條　契約者其ノ義務ヲ履行セサルトキハ契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外保證金ハ政府ノ所得トス

第九十條　政府ニ屬スル財產ノ賣拂ヲ爲ストキハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ引渡前又ハ移轉ノ登記若ハ登錄前其ノ代金ヲ完納セシムヘシ

第九十一條　財產ノ貸付料ハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ前納セシムヘシ但シ貸付期間ノ長期ニ渉ルモノニ付テハ每年定期ニ之ヲ納付セシムルコトヲ得

第九十二條　各省大臣三千圓ヲ超ユル工事、製造又ハ物件ノ買入ニ付テハ竣功又ハ完納ノ後之ヲ監督又ハ檢查シタル官吏又ハ技術者ヲシテ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ

契約ニ依リ工事若ハ製造ノ既濟部分又ハ物件ノ既納部分ニ對シ完濟前又ハ完納前ニ代價ノ一部分ヲ支拂ハムトスルトキハ各省大臣ハ特ニ檢查ノ官吏又ハ技術者ヲ命シ事實ヲ調定シテ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ

前各項ノ調書ニ依ルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九十三條　前條第二項ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ工事又ハ製造ニ付テハ其ノ既濟部分ニ對スル代價ノ十分ノ九、物件ノ買入ニ付テハ其ノ既納部分ニ對スル代價ヲ超ユルコトヲ得ス但シ箇々ニ分立シ得ヘキ性質ノ工事又ハ製造ニ於ケル各箇ノ完濟部分ニ對シテハ其ノ代價ノ全額迄ヲ支拂フコトヲ得

第九十四條　前二條ノ規定ハ工事又ハ製造以外ノ請負契約ノ全部又ハ一部ノ履行ニ對シ支拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第九十五條　本章ニ定ムルモノノ外契約ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二節　一般競爭契約

第九十六條　一般ノ競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第九十七條　各省大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタル者ヲ爾後二年間競爭ニ加ラシメサルコトヲ得之ヲ代理人、支配人、番頭、手代又ハ技術者トシテ使用シタル者亦同シ

一　契約ヲ履行スルニ當リ故意ニ工事、製造又ハ物件ヲ粗雜ニシ又ハ其ノ品質數量ニ關シ欺罔ノ行爲アリタル者

二　競爭ニ際シ不當ニ價格ヲ競上ケ又ハ競下クル目的ヲ以テ連合ヲ爲シタル者

三　競爭ノ加入ヲ妨害シ又ハ競落者ノ契約締結若ハ契約ノ履行ヲ妨害シタル者

四　檢查監督ニ際シ掛員ノ職務執行ヲ妨ケタル者

五　正當ノ理由ナクシテ契約ヲ履行セサリシ者

六　前各號ノ一ニ該當スト認ムラレタル後二年ヲ經過セサル者ヲ契約ニ際シ代理人、支配人、番頭、手代又ハ技術者トシテ使用スル者

第九十八條　各省大臣ハ前條ノ規定ニ該當スル者ヲ入札代理人トシテ使用スル者ヲ競爭ニ加ラシメサルコトヲ得

第九十九條　競爭ニ加ラムトスル者ハ現金又ハ國債ヲ以テ見積金額百分ノ五以上ノ保證金ヲ納ムヘシ

第百條　競落者契約ヲ結ハサルトキハ保證金ハ政府ノ所得トス

第百一條　競爭ハ第百九條ニ規定スル場合ヲ除クノ外總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第百二條　入札ノ方法ニ依リ競爭ニ付セムトスルトキハ其ノ入札期日ノ前日ヨリ起算シ少クトモ十日前ニ官報、新聞紙、揭示其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ但シ急ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ五日迄ニ短縮スルコトヲ得

第百三條　前條ノ公告ニハ左ニ揭クル事項ヲ示スヘシ

一　競爭入札ニ付スル事項

二　契約條項ヲ示ス場所

三　競爭執行ノ場所及日時

四　入札ノ保證金額

第百四條　各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ競爭入札ニ付スル事項ノ價格ヲ豫定シ其ノ豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第百五條　開札ハ公告ニ示シタル場所、日時ニ入札者ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ入札者出席セサル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ開札ニ立會ハシムヘシ

入札者ハ一旦提出シタル入札書ノ引換、變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得ス

第百六條　開札ノ場合ニ於テ各人ノ入札中第百四條ノ規定ニ依リ豫定シタル價格ノ制限ニ違シタルモノナキトキハ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第百七條　落札ト爲ルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二人以上アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ當該入札者中出席セサル者又ハ抽籤ヲ爲ササル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ之ニ代リ抽籤ヲ爲サシムヘシ

第百八條　入札者若ハ落札者ナキ場合又ハ落札者契約ヲ結ハサル場合ニ於テ更ニ入札ニ付セムトスルトキハ第百二條ノ期間ハ五日迄ニ之ヲ短縮スルコトヲ得

第百九條　各省大臣動產ノ賣拂ニ付特別ノ事由ニ因リ必要アリト認ムル場合ニ於テハ大藏大臣ト協議シ本節ノ規定ニ準シ競賣ニ付スルコトヲ得

第三節　指名競爭契約

第百十條　會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ニ揭クル場合ニ於テハ指名競爭ニ付スルコトヲ得

一　契約ノ性質又ハ目的ニ依リ競爭ニ加ルヘキ者少數ニシテ一般ノ競爭ニ付スルノ必要ナキトキ

二　一萬圓ヲ超エサル工事若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ五千圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ

三　貸借料年額又ハ總額三千圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ

四　豫定賃貸料年額又ハ總額千圓ヲ超エサル物件ノ貸付ヲ爲ストキ

五　豫定代價二千圓ヲ超エサル財產ノ賣拂ヲ爲ストキ

六　前四號以外ノ契約ニシテ其ノ金額四千圓ヲ超エサルトキ

隨意契約ニ依ルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ指名競爭ニ付スルコトヲ妨ケス

第百十一條　指名競爭ニ付セムトスルトキハ成ルヘク五人以上ノ入札者ヲ指定スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第百三條ニ規定シタル事項ヲ各入札者ニ通知スヘシ

第百十二條　各省大臣會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ指名競爭ニ付シテ契約ヲ結ヒタルトキハ事由ヲ詳具シ直ニ之ヲ會計檢查院ニ通知スヘシ

第百十三條　第九十七條乃至第百一條、第百四條乃至第百七條ノ規定ハ指名競爭契約ノ場合ニ之ヲ準用ス

各省大臣必要ナシト認ムル場合ニ於テハ第九十九條ノ保證金ハ之ヲ免除スルコトヲ得

第四節　隨意契約

第百十四條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ニ揭ク場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一 契約ノ性質又ハ目的カ競爭ヲ許ササルトキ

二 急迫ノ際競爭ニ付スルノ暇ナキトキ

三 政府ノ行爲ヲ祕密ニスルノ必要アルトキ

四 五千圓ヲ超エサル工事若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ三千圓ヲ超エサル財產ノ買入ヲ爲ストキ

五 賃借料年額又ハ總額千五百圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲スト キ

六 豫定賃貸料年額又ハ總額五百圓ヲ超エサル物件ノ貸付ヲ爲スト キ

七 豫定代價千圓ヲ超エサル財產ノ賣拂ヲ爲スト キ

八 前四號以外ノ契約ニシテ其ノ金額二千圓ヲ超エサルト キ

九 勞力ノ供給ヲ請負ハシムルト キ

十 運送又ハ保管ヲ爲サシムルト キ

十一 官廳相互間ニ於テ契約ヲ爲スト キ

十二 農工場、學校、試驗所、監獄其ノ他之ニ準スヘキモノノ生產又ハ製造ニ係ル物品ノ賣拂ヲ爲スト キ

十三 法律勅令ノ規定ニ依リ財產ノ讓與又ハ無償貸付ヲ爲シ得ル者ニ其ノ財產ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲スト キ

十四 非常災害アリタル場合ニ於テ罹災者ニ政府ノ生產ニ係ル建築材料ノ賣拂ヲ爲スト キ

十五 外國ニ於テ契約ヲ爲スト キ

十六 道府縣市町村其ノ他ノ公法人、公益法人、產業組合又ハ慈惠ノ爲ニ設立シタル救育所ヨリ直接ニ物件ノ買入又ハ借入ヲ爲スト キ

十七 移住地域內ニ於ケル土木工事ヲ其ノ移住民ノ共同請負ニ付スルト キ

十八 學術又ハ技藝ノ保護奬勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲スト キ

十九 產業又ハ拓殖事業ノ保護奬勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂若ハ貸付ヲ爲スト キ又ハ生產者ヨリ直接ニ其ノ生產若ハ製造ニ係ル物品ノ買入ヲ爲スト キ

二十 公共用、公用又ハ公益事業ニ供スル爲必要ナル物件ヲ直接ニ公共團體又ハ起業者ニ賣拂又ハ貸付ヲ爲スト キ

二十一 土地、建物、林野又ハ其ノ產物ヲ之ニ特別ノ緣故アル者ニ賣拂又ハ貸付ヲ爲スト キ

二十二 事業經營上特ニ必要ナル物品ノ買入ヲ爲シ若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ土地建物ノ借入ヲ爲スト キ

二十三 法律勅令ノ規定ニ依リ問屋業者ニ販賣ヲ委託スルト キ又ハ之ヲシテ販賣ヲ爲サシムルト キ

前項第十九號乃至第二十三號ノ場合ニ於テハ所管大臣豫メ大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

前項ノ協議ヲ遂ケタルトキハ大藏大臣直ニ之ヲ會計檢查院ニ通知スヘシ

第百十五條 競爭ニ付スルモ入札者ナキトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ保證金及期限ヲ除クノ外最初競爭ニ付スルトキ定メタル價格其ノ他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第百十六條 落札者契約ヲ結ハサルトキハ其ノ落札金額ノ劃限內ニ於テ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ期限ヲ除クノ外最初競爭ニ付スルトキ定メタル條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第百十七條 前二條ノ場合ニ於テ豫定價格又ハ落札金額ヲ分割計算シ得ル場合ニ限リ該價格又ハ金額ノ劃限內ニ於テ各目的ニ付之ヲ數人ニ分割シテ契約ヲ爲スコトヲ妨ケス

第百十八條 隨意契約ニ依ラムトスルトキハ成ルヘク二人以上ヨリ見積書ヲ徵スヘシ

第百十九條 各省大臣會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ隨意契約ニ依リタル場合ニ於テハ事由ヲ詳具シ直ニ之ヲ會計檢查院ニ通知スヘシ

第八章 保管金及有價證券

第百二十條 政府ハ法律勅令ノ規定ニ依ルニ非サレハ公有又ハ私有ノ現金又ハ有價證券ヲ保管セス

第百二十一條 政府ノ保管ニ係ル現金ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ

第百二十二條　政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ之カ取扱ヲ爲サシム

第百二十三條　政府ノ保管ニ係ル現金又ハ政府ノ所有若ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱手續ニ關シテハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外大藏大臣之ヲ定ム

第九章　出納官吏

第一節　總則

第百二十四條　本令ニ於テ出納官吏ト稱スルハ現金ノ出納保管ヲ掌ル官吏ヲ謂フ

第百二十五條　出納官吏ハ各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏之ヲ命ス

第百二十六條　各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏必要アリト認ムルトキハ出納官吏ノ代理官又ハ分任官ヲ置クコトヲ得

前項ノ代理官ハ出納官吏ノ事務ノ全部ヲ代理シ分任官ハ其ノ一部ヲ分掌スルモノトス

第百二十七條　所管大臣ハ會計法第三十七條ノ規定ニ依リ左ニ揭ク官署ノ事務員ヲシテ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

一　鐵道官署

二　遞信官署

前項ノ外特別ノ必要アル場合ニ於テハ各省大臣大藏大臣ト協議シ其ノ屬ノ事務員ヲシテ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第百二十八條　前條ノ規定ニ依リ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ官吏所屬ノ出納員トシテ其ノ事務ヲ取扱フヘシ

第百二十九條　出納員ノ領收シタル現金ハ之ヲ所屬出納官吏ニ拂込ムヘシ但シ所管大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ他ノ出納官吏又ハ出納員ニ交付セシムルコトヲ得

第百三十條　出納官吏又ハ出納員其ノ保管ニ屬スル現金ヲ亡失シ又ハ其ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生セシメタルトキハ所管大臣ハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣及會計檢査院ニ通知スヘシ

第百三十一條　出納官吏及出納員ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ現金ノ出納保管ヲ爲スヘシ

第二節　責任

第百三十二條　出納官吏ハ其ノ責任ニ屬スル現金ノ出納保管ニ付單ニ自ラ事務ヲ執ラサルコトヲ理由トシテ其ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ出納員ノ責任ニ付之ヲ準用ス

第百三十三條　代理出納官吏、分任出納官吏又ハ出納員ハ其ノ行爲ニ付會計法第三十五條ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第百三十四條　各省大臣ハ出納官吏又ハ出納員ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生セシメタリト認ムル場合ニ於テハ會計檢査院ノ判決前ト雖其ノ出納官吏又ハ出納員ニ對シ辨償ヲ命スルコトヲ得

第百三十五條　前條ノ場合ニ於テ其ノ辨償ヲ命セラレタル出納官吏又ハ出納員ハ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ會計檢査院ニ送付シ其ノ判決ヲ求ムルコトヲ得

所管大臣ハ前項ノ場合ト雖其ノ命シタル損失金ノ辨償ヲ猶豫セス

會計檢査院ニ於テ出納官吏又ハ出納員ニ對シ辨償ノ責ナシト判決シタルトキハ其ノ既納ニ係ル辨償金ハ直ニ之ヲ還付スヘシ

第三節　檢查及證明

第百三十六條　出納官吏ノ帳簿金櫃ハ每年三月三十一日又ハ轉免、死亡、退職其ノ他異動アリタルトキ所管大臣、檢查員ヲ命シテ之ヲ檢查セシムヘシ但シ臨時ニ賞金ノ前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ檢查ヲ要セス

大藏大臣又ハ各省大臣必要アリト認ムルトキハ臨時ニ檢查員ヲ命シテ出納官吏又ハ出納員ノ帳簿金櫃ヲ檢查セシムヘシ

第百三十七條　前條ノ檢查ヲ執行スルニ當リ當該出納官吏又ハ出納員事故ニ因リ自ラ檢查ヲ受クルコト能ハサルトキハ其

ノ代理者又ハ特ニ所管大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

第百三十八條 出納官吏又ハ出納員ノ帳簿金櫃ヲ檢査シタルトキハ檢査書二通ヲ作成シ檢査員及當該出納官吏、出納員又ハ立會人ニ交付シ一通ハ所管大臣ニ提出スヘシ

第百三十九條 出納官吏又ハ出納員他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ金櫃ノ檢査ヲ執行スル者ハ併セテ他ノ公金ノ檢査ヲ行フヘシ

第百四十條 租稅其ノ他ノ歲入金ノ收納ヲ掌ル官吏ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ歲入徵收官ヲ經由シテ之ヲ會計檢査院ニ提出スヘシ

第百四十一條 資金ノ前渡ヲ受クタル官吏ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ支出官ヲ經由シテ之ヲ會計檢査院ニ提出スヘシ

第百四十二條 歲入歲出外現金ノ出納ヲ掌ル官吏ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣又ハ其ノ指定シタル官吏ヲ經由シテ之ヲ會計檢査院ニ提出スヘシ

第百四十三條 第六十三條ノ規定ニ依リ現金ノ繰替使用ヲ爲ス官吏ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣又ハ其ノ指定シタル官吏ヲ經由シテ之ヲ會計檢査院ニ提出スヘシ

第百四十四條 分任出納官吏ノ出納ハ總テ主任出納官吏ノ計算トシ出納員ノ出納ハ總テ所屬出納官吏ノ計算トシテ取扱ヒ其ノ報告書及計算書ハ各別ニ提出スルコトヲ要セス但シ所管大臣又ハ會計檢査院ニ於テ必要アリト認ムルトキハ特ニ分任出納官吏又ハ出納員ヲシテ報告書又ハ計算書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第百四十五條 出納官吏交替シタルトキハ其ノ在職期間ニ執行シタル出納ノ計算ヲ調製シ第百四十條乃至第百四十三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第百四十六條 出納官吏又ハ出納員死亡其ノ他ノ事故ニ因リ自ラ計算書ヲ調製スルコト能ハサルトキハ所管大臣ノ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

出納官吏又ハ出納員定期內ニ計算書ヲ送付セサルトキハ所管大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

前二項ノ規定ニ依リ調製シタル計算書ハ出納官吏又ハ出納員ノ自ラ調製シタルモノト看做シ會計檢査院ニ於テ檢査判決ヲ爲スヘシ

第百四十七條 出納官吏又ハ出納員ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス

第十章 帳簿

第百四十八條 日本銀行ノ計算報告及出納證明ハ大藏大臣ニ提出スヘシ

第百四十九條 日本銀行ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國庫金ノ出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

日本銀行ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國債ノ發行ニ依ル收入金、國債元利拂資金及隔地者拂資金ノ收支ヲ整理シ之ヲ前項ノ計算書ニ揭記スヘシ

第百五十條 大藏大臣ハ第一項ノ計算書ヲ調査シ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

日本銀行ハ會計檢査院ノ檢査ヲ受クル爲政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券受拂計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第百五十一條 大藏大臣ハ前項ノ計算書ヲ調査シ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

政府ノ爲ニ取扱フ現金又ハ有價證券ノ出納保管ニ關シ政府ニ損害ヲ與ヘタル場合ニ於クル日本銀行ノ賠償責任ニ付テハ民法及商法ニ依ル

第十一章 帳簿

第百五十二條 大藏省ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ國庫金ノ出納ヲ登記スヘシ

第百五十三條 大藏省ハ歲入歲出ノ主計簿ヲ備ヘ歲入主計簿ニハ歲入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記シ歲出主計簿ニハ歲出ノ豫算額、繼算決定後增加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘシ

第百五十四條　歳入徴収官ハ徴収簿ヲ備ヘ歳入ノ調定濟額、収入濟額、不納欠損額及収入未濟額ヲ登記スヘシ

第百五十五條　歳入事務管理廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定濟額、収入濟額、不納欠損額及収入未濟額ヲ登記スヘシ

第百五十六條　支出官ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ支拂豫算額、支出濟額及支拂豫算殘額ヲ登記スヘシ

第百五十七條　各省ハ歳出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額、豫算決定後增加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘシ

第百五十八條　出納官吏及出納員ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第百五十九條　前七條ニ規定スル帳簿ノ樣式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ム

第百六十條　日本銀行ハ左ニ揭クル帳簿ヲ備ヘ政府ノ爲ニ取扱フ現金ノ出納又ハ有價證券ノ受拂ヲ登記スヘシ

一　國庫金ノ出納ヲ登記スヘキ帳簿

二　支拂豫算額及支拂濟額ヲ登記スヘキ帳簿

三　國債ノ發行ニ依ル收入金ニ關スル出納ヲ登記スヘキ帳簿

四　國債元利拂資金ノ出納ヲ登記スヘキ帳簿

五　隔地者拂資金ノ收支ヲ登記スヘキ帳簿

六　有價證券ノ受拂ヲ登記スヘキ帳簿

前項ノ帳簿ノ樣式及記入ノ方法ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ日本銀行之ヲ定ム

第百六十一條　大藏大臣ハ會計檢査官立會ノ上每年七月三十一月前年度ノ主計簿ヲ締切ルヘシ

第十二章　雜則

第百六十二條　本令ニ依リ會計檢査院ニ提出スル計算證明書類ノ樣式及提出期限ニ付テハ會計檢査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第百六十三條　前條ノ計算證明書類ヲ除クノ外本令ニ規定スル書類ノ樣式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第百六十四條　本令ニ依リ記名捺印ヲ要スル場合ニ於テハ外國ニ在リテハ署名ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百六十五條　本令ニ定ムルモノヲ除クノ外收入及支出ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

第百六十六條　本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第百六十七條　左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

仕拂命令委任規程

會計年度開始前現金支出規則

明治二十二年勅令第百二十一號

金庫規則

明治二十三年勅令第二號

明治二十三年勅令第二十號

明治二十三年勅令第三十二號

明治二十三年勅令第三十五號

明治二十三年勅令第百四號

明治二十三年勅令第百十八號

明治二十三年勅令第百九十三號

明治二十三年勅令第二百七十三號

明治二十三年勅令第二百九十五號

明治二十四年勅令第一號

明治二十四年勅令第二十四號

明治二十四年勅令第七十五號
明治二十四年勅令第百六十三號
明治二十六年勅令第五十一號
明治二十六年勅令第七十號
明治二十六年勅令第二百二十八號
明治二十七年勅令第四十號
明治二十七年勅令第七十六號
明治二十八年勅令第百四號
明治二十九年勅令第百五十八號
明治二十九年勅令第二百四十號
明治二十九年勅令第二百六十八號
明治二十九年勅令第三百七十三號
明治三十年勅令第二十一號
明治三十年勅令第五十八號
明治三十年勅令第百二十七號
明治三十一年勅令第三十七號
明治三十一年勅令第三十八號
帝國大學資金竝學校及圖書館資金所屬森林原野竝產物特別處分規則
明治三十一年勅令第百七十四號

明治三十二年勅令第二十五號
明治三十二年勅令第二百六號
明治三十二年勅令第二百二十九號
明治三十二年勅令第三百三號
明治三十二年勅令第三百六十三號
明治三十二年勅令第三百七十五號
明治三十二年勅令第四百十三號
明治三十二年勅令第四百二十四號
明治三十二年勅令第四百三十七號
明治三十三年勅令第三十九號
明治三十三年勅令第二百八十號
明治三十三年勅令第三百四十二號
明治三十三年勅令第四百八號
明治三十四年勅令第八號
明治三十四年勅令第百二十號
明治三十五年勅令第二百五號
明治三十五年勅令第二百三十六號
明治三十六年勅令第二十三號
明治三十六年勅令第百八十號
明治三十七年勅令第十號

明治三十七年勅令第十七號
明治三十七年勅令第五十四號
明治三十七年勅令第百七十八號
明治三十七年勅令第二百十七號
明治三十八年勅令第二十二號
明治三十八年勅令第三十二號
明治三十八年勅令第三十五號
郵便電信及電話官署經費被切規則
明治三十八年勅令第百二十八號
明治三十八年勅令第二百一號
明治三十八年勅令第二百二號
明治三十八年勅令第二百六十五號
明治三十八年勅令第二百九十號
明治三十九年勅令第九十三號
明治三十九年勅令第百一號
明治三十九年勅令第二百四十六號
明治三十九年勅令第二百七十號
明治四十年勅令第八十四號
明治四十年勅令第百五十號
明治四十年勅令第二百二十七號

明治四十年勅令第二百六十一號
明治四十年勅令第三百四十一號
明治四十一年勅令第三百三十八號
明治四十一年勅令第百五十八號
明治四十一年勅令第二百四十八號
明治四十一年勅令第三百十一號
明治四十二年勅令第六十一號
明治四十二年勅令第二百二十六號
明治四十三年勅令第三百四十一號
明治四十三年勅令第四百八號
明治四十三年勅令第四百九號
明治四十四年勅令第六十一號
明治四十四年勅令第六十二號
明治四十四年勅令第百五十六號
明治四十四年勅令第二百二十號
明治四十四年勅令第二百七十九號
明治四十四年勅令第二百九十二號
大正元年勅令第七號
大正二年勅令第百三號
大正三年勅令第三號

大正三年勅令第百三十五號
大正三年勅令第百三十六號
大正四年勅令第五十五號
大正四年勅令第七十八號
大正四年勅令第八十七號
大正四年勅令第九十五號
大正四年勅令第百二十五號
大正五年勅令第四十五號
大正五年勅令第五十五號
大正五年勅令第六十二號
大正五年勅令第七十三號
大正五年勅令第八十八號
大正五年勅令第九十八號
大正五年勅令第二百十九號
大正六年勅令第五十二號
大正六年勅令第六十二號
大正六年勅令第八十一號
大正六年勅令第二百三十四號
大正七年勅令第二十二號
大正八年勅令第三號

大正八年勅令第二十六號
大正八年勅令第三百六十二號
大正九年勅令第百二十五號
大正九年勅令第百三十六號
大正九年勅令第五百四十七號
大正十年勅令第百四十四號
大正十年勅令第四百二十八號

大正六年勅令第百三十二號ハ當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

第百六十八條　金庫ニ納付セシムル爲納入ノ告知アリタル歲入金ニシテ本令施行前收納ヲ了セサルモノハ該納入ノ告知ニ依リ日本銀行ニ於テ之カ收納ヲ取扱ハシム

前項ノ規定ハ定額戻入ノ爲納入ノ告知アリタル返納金ニシテ本令施行前領收ヲ了セサル場合ニ之ヲ準用ス

第百六十九條　仕拂命令ニシテ本令施行前其ノ支拂ヲ了セサルモノハ仕拂命令ニ關スル從前ノ手續ニ依リ日本銀行ニ於テ本令施行後二年間之カ支拂ヲ取扱ハシム

第五十五條ノ規定ハ前項ノ支拂期間經過後仍會計法附則第五項ノ規定ニ依リ期間ノ滿了セサル債務ノ支拂ニ付之ヲ準用ス

第百七十條　大正十一年五月三十一日迄ニ支拂ノ請求ナキ大正十年度仕拂命令濟金額ニ相當スル資金ハ從前ノ例ニ依リ當該年度ノ歲出支拂未濟金トシテ之ヲ繰越整理スヘシ

第百七十一條　本令施行前繰越整理ニ係ル資金及前條ノ繰越整理ニ係ル資金ニシテ大正十二年三月三十一日迄ニ支拂ヲ了セサルモノハ之ヲ大正十一年度ノ歲入ニ組入ルヘシ

第百七十二條　大正十年度支出濟歲出額ハ同年度歲入歲出ノ總決算及主計簿ニ於テハ仕拂命令濟歲出額ニ併算スヘシ

大正十一年度仕拂命令濟歳出額ハ同年度歳入歳出ノ總決算及主計簿ニ於テハ支出濟歳出額ニ併算スヘシ

第百七十三條 大正十年度分ニ限リ金庫ニ備ヘタル支出簿ハ第百六十條第二號ノ帳簿ニ代用セシムルコトヲ得

第百七十四條 前六條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ大藏大臣之ヲ定ム

●會計規則及各特別會計規則ニ依ル調製ヲ要スル帳簿ノ樣式及記入ノ方法竝書類ノ樣式（大正十一年三月二十九日大藏省令第二十號）

沿革 大正一三年三月大藏省令第九號、一四年四月第一〇號、一五年九月第三八號、昭和元年一二月第六號改正

會計規則及各特別會計規則ノ規定ニ依リ調製スルコトヲ要スル帳簿ノ樣式及記入ノ方法竝書類ノ樣式左ノ通之ヲ定ム

一支拂豫算書　別表第一號書式ニ依ル
一支拂豫算更定計算書　別表第二號書式ニ依ル
一年度開始前支出計算書　別表第三號書式ニ依ル
一徵收報告書　別表第四號書式ニ依ル
一徵收總報告書　別表第五號書式ニ依ル
一徵收簿　別表第六號書式ニ依ル
一歳入簿　別表第七號書式ニ依ル
一支出濟額報告書　別表第八號書式ニ依ル
一支出總報告書　別表第九號書式ニ依ル
一繰越計算書　別表第十號書式ニ依ル
一支出簿　別表第十一號書式ニ依ル

一歳出簿　別表第十二號書式ニ依ル
一現金領收證書　別表第十三號書式ニ依ル
一現金出納簿　別表第十四號書式ニ依ル
一國庫日記簿　別表第十五號書式ニ依ル
一國庫原簿　別表第十六號書式ニ依ル
一歳入主計簿　別表第十七號書式ニ依ル
一歳出主計簿　別表第十八號書式ニ依ル
一作業會計、海軍工廠資金會計、朝鮮鐵道用品資金會計及臺灣官設鐵道用品資金會計日記簿　別表第十九號書式ニ依ル
一遣幣局會計日記簿　別表第二十號書式ニ依ル
一帝國鐵道會計日記簿　別表第二十一號書式ニ依ル
一健康保險會計日記簿　別表第二十一號ノ二書式ニ依ル
一簡易生命保險會計日記簿　別表第二十二號書式ニ依ル
一郵便年金會計日記簿　別表第二十二號ノ二書式ニ依ル
一大藏省預金部會計日記簿　別表第二十二號ノ三書式ニ依ル
一米穀需給調節會計日記簿　別表第二十三號書式ニ依ル
一特別會計原簿　別表第二十四號書式ニ依ル
一特別會計補助簿　別表第二十五號書式ニ依ル
一特別會計支拂元受高差引簿　別表第二十六號書式ニ依ル
一受拂勘定表　別表第二十七號書式ニ依ル

一帝國鐵道會計貸借對照表　別表第二十八號書式ニ依ル
一帝國鐵道會計損益計算表　別表第二十九號書式ニ依ル
一帝國鐵道會計資本增減表　別表第三十號書式ニ依ル
一帝國鐵道會計固定財產價格增減表　別表第三十一號書式ニ依ル
一固定資本價格增減表　別表第三十二號書式ニ依ル
一健康保險、簡易生命保險又ハ郵便年金會計積立金明細目錄　別表第三十三號書式ニ依ル

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ大藏省令ハ之ヲ廢止ス

明治二十三年大藏省令第九號
明治二十六年大藏省令第三十二號
明治三十年大藏省令第五號
明治四十年大藏省令第十七號
明治四十二年大藏省令第十六號
明治四十三年大藏省令第四十五號
明治四十五年大藏省令第九號
大正五年大藏省令第三號
大正五年大藏省令第二十一號
大正十年大藏省令第十一號
大正十年大藏省令第十六號

本令施行ノ際現存スル帳簿及用紙ハ當分ノ內之ヲ取繕ヒ使用スルコトヲ得

「簿納出」

殘			拂			殘		
計	預金	現金	計	預金	現金	計	預金	現金
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
0		0				0		0
0						0		0
0						0		0
0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0

拂本、シチハ拂準之テ、ニハシリ受式金ヘ在ニ書現スニ單本ハ爲吏シテテ官廢於於續納ヲニ

第十四號書式（外書式略ス）

現金

年	月	日	摘要	受 現金	受 預金	受 計
				圓	圓	圓
何	年					
何	何		何々金何某ヨリ收入（又ハ受入）	0		
〃	〃		日本銀行何店ヘ拂込			
何	何		何々金支出官何某ヨリ受入	0		
	〃		日本銀行何店ヘ預託		0	0
	〃		何々金何某ヘ拂渡			
	〃		何々金何某ヘ拂渡ノ爲小切手振出			
何	何		何々金日本銀行何店ヨリ預金部預金振込ノ通知ヲ受ク		0	0
何	何		何々金何某ヘ拂渡ノ爲小切手振出			
	考	一	縱又同金金理フヲ宜託ケ預現整備式便預揚ハノテノ樣ハチニ又中シ員ノ簿金部金式ト納宜本現ノ現書殘出適			
	備	二	三			
		四				

●國庫出納金端數計算法

（大正五年一月二十九日法律第二號）

第一條　國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニシテ一錢未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ其ノ全額一錢未滿ナルトキハ之ヲ一錢トス

第二條　國稅ノ課稅標準額ノ算定ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

命令ヲ以テ指定スル國稅ノ課稅標準額ニシテ一圓未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第三條　分割シテ收入シ又ハ仕拂フ金額ニ在リテハ其ノ總額ニ付第一條ノ規定ヲ準用ス

第四條　分割シテ收入又ハ仕拂ヲ爲ス場合ニ於テ分割金額一錢未滿ナルトキ又ハ之ニ一錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ分割金額又ハ端數ハ最初ノ收入金又ハ仕拂金ニ之ヲ合算ス但シ地租ノ分納額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條　賣藥印紙稅及郵便切手ヲ以テ納ムル郵便料金ニ付テハ本法ヲ適用セス

法律ニ別段ノ定アルモノノ外本法ヲ適用セサルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　本法ハ北海道府縣郡市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル公共團體收入及仕拂ニ關シテ之ヲ準用ス

附則

第七條　本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八條　明治四十年法律第三十一號ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前納入ノ告知ヲ爲シ又ハ仕拂ノ命令ヲ發シタルモノニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

●國庫出納金端數計算法第五條第二項ニ依ル命令ノ件

（大正五年三月三十一日勅令第五十六號）

國庫ノ收入及仕拂中左ニ揭クル種目ニハ國庫出納金端數計算法ヲ適用セス

一　切手及印紙類賣下代金

二　沒入金、沒收金及犯罪ニ基ク追徵金

三　法令ニ依リ當然國庫ニ歸屬スル收入金

四　貨幣交換差金

五　外國貨幣ヲ基礎トスル收入金及仕拂金
六　缺損補塡金
七　切手貯金拂込金
附　則
本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●國庫出納金端數計算法第二條ニ依リ課稅標準額計算上圓位未滿ノ端數ヲ切捨ツヘキ國稅ノ件

（大正五年三月三十一日大藏省令第二號）

追加　大正七年四月大藏省令第一一號、一五年六月第二六號改正

國庫出納金端數計算法第二條ニ依リ課稅標準額計算上圓位未滿ノ端數ヲ切捨ツヘキ國稅ヲ指定スル左ノ如シ

一　第一種所得稅
二　第三種所得稅
三　營業稅
四　營業收益稅
五　乙種資本利子稅
六　相續稅
七　取引稅
八　取引所營業稅

九　鑛產稅
附　則
本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●出納金端數計算方ニ關スル件

（大正五年三月七日五第三八五號通牒）

內務部長ヨリ各廳廢長宛

本年一月法律第二號ヲ以テ國庫出納金端數計算法發布四月一日ヨリ施行ニ付テハ北海道府縣（郡）市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル公共團體ノ公課ノミナラス總テノ收入及仕拂ニ關シテ之ヲ準用スヘキ義ニ付取扱上遺漏無之樣御注意相成度爲念此段及照會候也

●出納金端數計算法ニ關スル件

（大正五年四月七日養老部長ヨリ問合）

本年法律第二號國庫出納金端數計算法ニ關シ客月七日五第三八五號ヲ以テ御通牒ノ趣モ有之候處左記事項疑義相生シ候ニ付何分ノ義御回示相成度及問合候

一　收入金又ハ仕拂金ニ付壹錢未滿ノ端數アルトキハ其端數ハ切捨ツルコトニ相成候處例ヘハ收入金ニアリテハ契約ニ依リ定メタル使用料又ハ銀行預金ノ利子仕拂金ニアリテハ備品消耗品等ノ如キ所謂私法上ノ收入又ハ支拂金ハ事實ニ於テ厘位ヲ附スモノアリ之等法律命令等ニ依ル卽チ公私上ノ收支金ト異ナルト雖總テ第一條ヲ適用可然義ニ候哉

二　前項果シテ切捨ルモノトセハ或數種ノ物品ヲ買入レ之レカ代金支拂ニ方リ單價ノ部合ニ依リ算出上厘位ヲ付スルモノアリ此場合ニ於ケル取扱法ハ支出命令書又ハ請求書ノ內譯種類每ニ錢位未滿ノ端數ヲ切捨テ支拂ヘキカ又合計金額ニ於テ切捨ツル義也哉

本月七日會第一八二號ヲ以テ法律第二號國庫出納金端數計算方ニ付御問合相成候處第一ハ御見込ノ通リ第二ハ後段ノ通合金額ニ於テ切捨相成可然ト存候此段及回答候

（五第三八五號大正五年四月十八日養老郡長ヘ答ヘ）

●錢位未滿ノ端數切捨ニ關スル件

（明治三十九年十月十日岐阜縣令第四十四號）

[illegible]　大正一一年一二月縣令第五三號改正

明治三十八年（五月）岐阜縣令第二十三號縣費ヨリ支辨スル俸給旅費其ノ他ノ諸給與及補助費ノ仕拂額ニ錢位未滿ノ端數切捨ニ關スル件左ノ通改正ス

本縣ノ規定ニ依リ縣費ヨリ支辨スル俸給旅費其ノ他諸給與ノ金額ニ錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキ又ハ縣費ヨリ支出スル補助費ノ金額ニ圓位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ各之ヲ切捨ツルモノトス但シ既ニ補助ノ許可ヲ爲シタルモノハ此ノ限ニアラス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●計算證明規程（抄錄）

（大正十一年三月十七日會計檢査院進第一號）

[illegible]　略ス

第一章　總則

第一條　計算書ハ改描塗抹ヲ爲スヘカラス若誤記脫字等ニ因リ訂正ヲ爲シタルトキハ二線ヲ畫シ之ニ捺印スヘシ

第二條　證憑書類ハ原本ニ限ル若原本ヲ提出シ難キトキハ當該主任者ノ保證アル謄本ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得外國文ヲ以テ記載シタル證憑書類ニハ譯文ヲ附スヘシ但シ會計檢査院ノ承認ヲ經タルモノハ之ヲ省略スルコトヲ得

第三條　外國貨幣ヲ基礎トシ又ハ外國貨幣ヲ以テ收支ヲ爲シタルモノハ換算ニ關スル書類ヲ添附スヘシ但シ別ニ定メアル外國貨幣換算價格ニ依リタルモノハ證憑書類ニ其ノ換算價格ヲ附記シ本文ノ書類ヲ省略スルコトヲ得

第四條　證憑書類中既ニ他ノ計算證明上提出濟ノモノアルトキハ其ノ旨計算書ノ備考ニ記載スヘシ

第六章　現金出納

第一節　通則

第五十條　收入官吏ハ第七號書式、歳入歳出外現金出納官吏ハ第八號書式、繰替拂出納官吏ハ第九號書式ニ依リ現金出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ提出スヘシ

一　月證明ニ屬スルモノハ翌月十五日限

二　年證明ニ屬スルモノハ年度經過後若ハ出納官吏及出納員交替後三十日限

出納官吏交替シタルトキハ連名ヲ以テ之カ證明ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出納計算書ニ各自ノ管理期ヲ記載スヘシ

分任出納官吏及出納員ニシテ特ニ計算ヲ證明スルトキハ出任出納官吏ヲ經由スヘシ

第五十一條　現金出納計算書ニハ會計規則第百三十八條ニ依ル檢定書ヲ添附スヘシ

第五十二條　證憑書類ハ所屬年度毎ニ受入拂出ニ大別シ適宜區分編纂シテ其ノ金額紙數ヲ表紙ニ記載スヘシ

第三節　歳入歳出外現金

第五十六條　歳入歳出外現金出納官吏ノ調製スヘキ歳入歳出外現金出納計算書ハ毎年度之ヲ提出スヘシ

但シ會計檢査院ニ於テ特ニ指定シタルモノハ毎月又ハ年數回ニ之ヲ提出スヘシ

第五十七條　左ノ事項ハ歳入歳出外現金出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ但シ事ノ複雜ナルモノハ說明書ヲ添附スヘシ

一　現金ヲ亡失シ又ハ現金ノ缺損ニ對シ補充ヲ受ケタルモノアルトキハ其ノ金額事由
二　會計規則第百三十四條ニ依リ辨償ヲ命セラレタルモノアルトキハ其ノ金額事由
三　後任官吏ニ引繼キタルモノアルトキハ其ノ金額事由

第五十八條　振出小切手ニ對シ日本銀行ニ於テ支拂未濟ノモノアルトキハ其ノ振出日附、番號、種別、金額、債主名ヲ歳入歳出外現金出納計算書ノ備考ニ記載シ完結ニ從ヒ之ヲ報告スヘシ

第五十九條　證憑書トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ
一　受入ニ對シテハ其ノ金額事由ヲ證明スルニ足ルヘキ他ノ官吏ノ保證書若ハ其ノ他ノ書類
二　拂出ニ對シテハ領收證書若ハ他ノ官吏ノ保證書

第五十六條但書ニ依リ毎月又ハ年數回ニ證明スヘキモノノ證憑書類ハ別ニ之ヲ指定ス

●內務省所管會計事務取扱規程

（大正十一年四月一日內務省訓令第二號）

附記　大正一一年六月內務省訓令第七號、同年一〇月第二〇號、同年一一月第二三號、一二年一月第二號、同年四月第一二號、同年七月第一六號、同年八月第一〇號、一三年三月第三號、同年七月第一〇號、一四年三月第七號、第八號、一五年三月第四號、同年六月第九號同年一〇月第一六號改正

本省大臣官房會計課　廳府縣
土木出張所　千住機械工場
衛生試驗場　警察講習所
武藏野學院　榮養研究所

第一章　總則

第一條　內務省所管會計事務ノ取扱ニ關シテハ別段ノ定アルモノヲ除クノ外此ノ規程ニ依リ取扱フヘシ

第二條　本規程ニ部局長ト稱スルハ本省大臣官房會計課長、復興局長官、復興局出張所長、復興局技術試驗所長、社會局長官、社會局保險部大阪出張所長、健康保險署長、職業紹介事務局長、癈兵院長、內務省土木出張所長、土木試驗所長、衛生試驗所長、警察講習所長、武藏野學院長、榮養研究所長、警視總監、北海道廳長官、府縣知事ヲ行フ

第三條　會計規則第九十二條第百三十六條第百三十七條第百四十六條ノ檢査其ノ他ノ吏員ハ部局長之ヲ命スヘシ

第二章　收入

第四條　歳入徵收官ハ會計規則第二十八條ニ依リ左ニ揭クル諸官ヲ以テ之ニ充ツ
內務大臣官房會計課長
復興局長官
復興局出張所長
復興局技術試驗所長
社會局長官
社會局保險部大阪出張所長
健康保險署長
職業紹介事務局長
癈兵院長
內務省土木出張所長
土木試驗所長
衛生試驗所長
警察講習所長

武藏野學院長
榮養研究所長

第五條　歲入徵收官ハ歲入金ヲ納付セシムル爲メ納人ニ對シ第一號書式ノ納入告知書ヲ發スヘシ但シ納人ヲシテ出納官吏ニ卽納セシムル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スコトヲ得

第六條　納入告知書ニ指定スヘキ納入期日ニ付テハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外十五日內ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ但シ遠隔ノ地ニ在ル納人ニ對シ納入告知書ヲ發スル場合ニ於テハ相當ノ斟酌ヲ加フルコトヲ得

第七條　納入告知書ニハ納付場所トシテ其ノ所屬出納官吏又ハ日本銀行ヲ記載スヘシ
日本銀行ヲ納付場所トスル場合ニ於テハ納人ヲシテ便宜ノ日本銀行本店支店又ハ代理店ニ納付セシムルコトヲ得
歲入徵收官歲入ノ徵收上必要アリト認ムルトキハ納付場所ヲ特定スルコトヲ得

第八條　歲入徵收官ハ納入ノ告知ヲ爲シタル期日內ニ納付セサル者アルトキハ直ニ督促シ尙ホ納付ニ至ラサルトキハ速ニ相當ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條　歲入徵收官支出官ノ發行ニ係ル返納告知書ニ對スル納付カ定額戾入ヲ爲シ得ル期間ヲ經過シタル爲現年度ノ歲入トシテ收納シタル旨日本銀行ヨリ通知ヲ受ケタルトキハ會計規則第二十九條ノ歲入徵收官ニ於テ之カ調定ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條　歲入徵收官交替セシトキハ直ニ關係ノ日本銀行本店、支店又ハ代理店ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第十一條　歲入徵收官其ノ發行シタル納入告知書ニ記載セル年度、所管、會計名、經常臨時部別又ハ款項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ翌年度四月三十日迄ノ關係ノ日本銀行本店、支店又ハ代理店ニ之カ訂正ヲ請求スルコトヲ得

第十二條　歲入徵收官ハ每月徵收報告書ヲ調製シ歲入金月計突合表ヲ添ヘ翌月十日迄ニ之ヲ內務省ニ送附スヘシ

第十三條　諸收入ノ徵收事務整理上必要ナル取扱手續及帳簿報告等ノ樣式ハ別段ノ定アルモノヲ除クノ外適宜之ヲ定ムヘシ

第十三條ノ二　保管金取扱規程第十六條及政府保管有價證券取扱規程第二十條ノ主務官廳ハ內務大臣官房會計課、復興局、復興局出張所、復興局技術試驗所、社會局、社會局保險部大阪出張所、健康保險署、職業紹介事務局、癩兵院、土木出張所、土木試驗所、衞生試驗所、警察講習所、武藏野學院、榮養研究所トス

第十三條ノ三　前條ノ主務官廳ハ政府保管有價證券取扱規程第二十條ノ規定ニ依リ取扱官廳ヨリ政府ノ所得ニ歸シタル有價證券ノ報告ヲ受ケタルトキハ第六條ノ規定ニ從ヒ該有價證券ヲ換價シ換價金額ヲ歲入ニ納付又ハ資金ニ組入ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條ノ四　取扱官廳ヨリ報告ヲ受ケタル有價證券ニシテ既ニ償還期ノ開始セルモノニ付テハ證券ノ種類ニ依リ取扱官廳ヲシテ左ノ取扱ヲ爲サシムヘシ

一　國債證券ニ付テハ取扱官廳ヲシテ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ事由ヲ記載シ出納官吏ヲシテ現金拂込書ヲ添附セシメ有價證券ノ寄託店タル日本銀行ニ提出セシムヘシ

二　國債證券以外ノ有價證券ニ付テ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ事由ヲ記載シ日本銀行ヨリ證券ノ拂渡ヲ受ケ該證券ニ對スル償還金受領ノ手續ヲ爲シタル後出納官吏ヲシテ該金額ヲ日本銀行ニ拂込マシムヘシ

第十三條ノ五　前條ノ規定ハ有價證券トシテ取扱ヒタル利札ニシテ支拂期ノ開始セルモノニ付之ヲ準用ス

第十三條ノ六　主務官廳取扱官廳ヨリ報告ヲ受ケタル國債證券ニ付買入銷却方ヲ請求セムトスルトキハ其ノ證券ノ名稱、記號、額面及附屬利札ニ於ケル支拂期（何年何月何日渡以降利札附屬ト記載スルコト）竝證券ヲ引渡スヘキ日本銀行名ヲ記載シタル書面ニ買入銷却ヲ要スル事由及擔保又ハ保證ニ充用シタルモノナルトキハ其ノ擔保額又ハ保證額、政府ノ所有ニ歸シタル年月日竝最低賣渡價格ヲ附記シ之ヲ大藏省ニ提出スヘシ但シ引渡スヘキ國債證券ハ引渡當時利子支拂期未開始ヲ附屬利札ノ完備セルモノニ限ル

前項ノ國債證券ニシテ引渡ノ際既ニ利子支拂期ノ開始セル利札ノ附屬シタル場合ハ取扱官廳ヲシテ之ヲ截離セシメ其ノ

利札ノ取扱ニ付テハ前條ノ規定ニ依リ之ヲ手續ヲ爲サシムヘシ

第十三條ノ七　主務官廳前條第一項ノ請求ニ對シ大藏省ノ承認ヲ受ケタルトキハ國債證券引渡方ヲ取扱官廳ニ通知シテ之カ手續ヲ爲サシメ代金納入方ニ付テハ日本銀行本店ニ對シ納入ノ告知書ヲ發スヘシ

第十三條ノ八　主務官廳取扱官廳ヨリ報告ヲ受ケタル有價證券中第十三條ノ四乃至第十三條ノ六ノ規定ニ依リ難キ有價證券又ハ大藏省ヨリ國債證券買入錄却ノ承認ヲ得サリシ證券ニ付テハ政府保管有價證券受託證書又ハ政府保管有價證券振込濟通知書ニ事由ヲ記載シ日本銀行ヨリ其ノ拂渡ヲ受ケ取扱官廳ヲシテ之カ換價ノ手續ヲ爲サシメ該換價金額ヲ日本銀行ニ拂込マシムヘシ

第十三條ノ九　主務官廳前條ノ規定ニ依リ取扱官廳ヲシテ換價ノ手續ヲ爲サシムルコトヲ不利益ト認ムルトキ又ハ取扱ニ付不便ナリト認ムルトキ若ハ其ノ地方ノ狀況ニ鑑ミ換價ノ手續不能ト認ムルトキハ取扱官廳ヨリ該證券ヲ現送セシメ主務官廳換價ノ手續ヲ爲シ該換價金額ヲ日本銀行ニ拂込ムコトヲ得

第三章　支出

第十四條　支出官ハ會計規則第四十一條ニ依リ支拂豫算ヲ定メ委任ヲ受ケタル者ヲ以テ之ニ充ツ

第十五條　部局長ハ別ニ制限アルモノヲ除クノ外必要ニ依リ目節ノ金額ヲ流用スルコトヲ得

第十六條　部局長ハ歲出科目中節ノ增設ヲ要スルトキハ之ヲ設置シ其ノ理由ヲ具シ直ニ內務大臣ニ報告スヘシ

第十七條　支出官ハ每月支出濟額報告書ヲ調製シ翌月七日迄ニ之ヲ內務大臣ニ送付スヘシ

第十八條　支出官經費支拂上被詐取ノ事實ヲ發見セシトキハ直ニ其ノ詳細ノ事實ヲ內務大臣ニ報告スヘシ

第十八條ノ二　支出官又ハ出納官吏ハ其ノ振出シ又ハ發行ニ係ル小切手又ハ歲出金支拂通知書ニシテ小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シ小切手又ハ歲出金支拂通知書ノ所持人ヨリ償還ノ請求又ハ更ニ支拂ノ請求（以下單ニ償還ノ請求ト云フ）アリタルトキハ左ニ揭クル書類ヲ所持人ヨリ徵シ之ヲ調査シ償還又ハ支拂ヲ爲スヘキモノト認ムルトキハ事由ヲ詳具（小切手ヲ提出スル場合ノ外ハ歲出科目ヲ附記スルコト）シ一切ノ書類及日本銀行ノ未濟繰越金歲入組入報告書寫ヲ添附シテ之ヲ內務大臣ニ提出スヘシ但シ出納官吏ノ受ケタル償還請求ニ付テハ當該支出官ヲ經由スヘシ

一　償還請求書（本人提出ニ係ル原書）

二　原債權發生ノ原因竝日時ヲ證スル書類

三　期限經過事由ヲ記載シタル書類

四　小切手又ハ歲出金支拂通知書但シ盜取セラレ又ハ紛失若ハ滅失シタル等ノ場合ニ於テ其ノ原書ヲ添付スルコト能ハサルトキハ小切手ニ在リテハ除權判決ノ正本・歲出金支拂通知書ニ在リテハ其ノ寫

五　歲出金支拂通知書記名者以外ノ者ヨリ償還ノ請求アリタル場合ニ於テハ其ノ正當權利者タルコトヲ證スルニ足ル書類

六　其ノ他償還請求ニ付必要ト認ムル書類

前項第二號及第三號ノ書類ハ償還請求書ニ因リ其ノ事項明瞭ナルモノニ付テハ之カ添付ヲ要セス

前二項ノ規定ハ會計規則第百六十九條第二項ノ規定ニ依ル債務ノ支拂ニ付之ヲ準用ス

第四章　決算

第十九條　歲入徵收官ハ第二號書式ニ依リ歲入增減計算書ヲ調製シ翌年度六月三十日迄ニ內務大臣ニ送付スヘシ

第二十條　部局長ハ第三號書式ニ依リ內務省所管決算報告書ヲ調製シ翌年度五月三十一日迄ニ之ヲ內務大臣ニ送付スヘシ

第二十一條　歲入徵收官ハ會計規則第七十三條ニ依リ歲入徵收額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ會計規則第七十五條ニ依リ其ノ長官ヨリ年一回翌年度五月十五日迄ニ之ヲ會計檢查院ニ直ニ送付スヘシ

第二十二條　（削除）

第二十二條ノ二　歲入徵收額計算書ニハ第六號書式ノ明細書ヲ添附スヘシ

第二十三條　支出官ハ會計規則第七十四條ニ依リ支出計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ會計規則第七十五條ニ依リ其ノ長官ヨリ直ニ之ヲ會計檢查院ニ送付スヘシ

第二十四條乃至第二十六條 （削除）

第二十六條ノ二 計算證明規程第三十四條ニ依ル總額壹萬圓以上ノ直營工事ニ付テハ第七號書式ノ竣功報告書ヲ添附スヘシ

第二十六條ノ三 計算證明規程第三十五條ニ依ル事業成績書ハ適宜ノ書式ニ依リ調製添附スヘシ

第五章 契約

第二十七條 賣與貸借請負其ノ他ノ契約ニ關スル事項ハ支出官其ノ他内務大臣ヨリ特ニ委任ヲ受ケタル官吏ニ於テ之ヲ擔當スヘシ

第二十八條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ指名競爭ニ付シ得ルハ左ニ揭ケル事由ニ因リ一般ノ競爭ニ付スルヲ不利ト認ムル場合ニ限ル

一 當業者相連合シテ不當ノ競爭ヲ爲サントスルノ虞アルコト

二 不誠實又ハ不信用ノ者競爭ニ加入シ不當ノ競爭ヲ爲スノ虞アルコト

三 特種ノ構造又ハ品質ヲ要スル工事、製造又ハ物件ノ買入ニシテ檢査著シク困難ノモノナルコト

四 契約上ノ義務ニ違背アルトキハ政府ノ事業ニ著シキ支障ヲ來スノ虞アルコト

第二十九條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルハ左ニ揭ケル場合ニ限ル

一 現ニ契約履行中ノ工事、製造又ハ物品ノ供給ニ關聯スルモノニシテ之ヲ他ノ者ヲシテ分割履行セシムルコトヲ不利トスルトキ

二 隨意契約ニ依ルトキハ時價ニ比シ著シク有利ナル價格ヲ以テ契約ヲ爲シ得ヘキ見込アルトキ

三 買入ヲ要スル物品多量ニシテ分割購入ヲ爲スニ非サレハ買占其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ價格ヲ騰貴セシムルノ虞アルトキ

四 急速ニ契約ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲スノ機會ヲ失フノ虞アルトキ又ハ著シク不利ナル價格ヲ以テ契約ヲ爲ササルヘカラサルノ虞アルトキ

五 前條各號ノ場合ニ於テ指名競爭ニ付スルコトヲ不利トスル特別ノ事由アルトキ

第三十條 前二條ニ揭クル場合ノ外一般ノ競爭ニ付スルヲ不利ト認ムヘキ特殊ノ事由ニ因リ指名競爭ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ必要トスル場合ニ於テハ其ノ時時事由ヲ詳具シ之ヲ裏伺スヘシ

第三十一條 會計規則第八十七條ニ依リ契約書ノ作成ヲ省略スルノ必要アルトキハ第二十七條ノ契約ヲ擔當スル官吏ニ於テ處置スヘシ

第三十二條 會計規則第八十七條第五號ニ依リ契約書ヲ作成スルノ必要ナシト認メタルトキハ其ノ理由ヲ詳記シ裏伺スヘシ

第三十三條 指名競爭若ハ隨意契約ニ依ル場合ニ於テハ會計規則第八十八條第二項及第百十三條第二項ニ依リ當該官吏ノ見込ニ依リ保證金ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

第三十四條 契約ヲ擔當スル官吏ハ會計規則第九十二條及第九十四條ノ規定ニ依ル調書ヲ作成セシムヘシ

第三十五條 部局長ハ會計規則第九十七條及第九十八條ニ該當スルモノト認メタル者アルトキハ直ニ其ノ氏名住所及事實ヲ内務大臣ニ報告スヘシ

第三十六條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ指名競爭ニ付シ若ハ隨意契約ニ依リ契約ヲ結ヒタルトキハ左記事項ヲ記載シ直ニ之ヲ内務大臣ニ報告スヘシ

一 契約ノ目的、其ノ數量及金額竝豫定價格

二 政府ノ契約擔任者、歲出又ハ歲入科目

三 契約者及指名者ノ氏名、資力、經歷竝營業場所

四 入札及契約年月日竝入札金額

五 一般ノ競爭ニ付スルヲ不利ト認メタル事由

記載例左ノ如シ

イ 本則第二十八條第一號及第二號ノ場合ニ於テハ不當ノ競爭ヲ爲スノ虞アリト認メタル事實

ロ 同第三號ノ場合ニ於テハ構造又ハ品質ノ特種ナル點及檢査ノ困難ナル事實

ハ 同第四號ノ場合ニ於テハ契約違背ニ因リ政府ノ事業ニ著シキ支障ヲ來スノ虞アル事實

ニ 本則第二十九條第一號ノ場合ニ於テハ前契約事項トノ關聯程度及之ヲ分割履行セシムルヲ不利トスル事實

ホ 同第二號ノ場合ニ於テハ調査シタル時價

ヘ 同第三號ノ場合ニ於テハ所要總數量及時價竝價格ヲ騰貴セシムルノ虞アリト認メタル事實

ト 同第四號ノ場合ニ於テハ契約ノ機會ヲ失シ又ハ著シク不利ト爲ルヘキ虞アリト認メタル事實

チ 同第五號ノ場合ニ於テハ指名競爭ニ付スルヲ不利トスル特別ノ事由

リ 本則第三十條ノ場合ニ於テハ一般ノ競爭ニ付スルヲ不利ト認ムヘキ特殊ノ事由

第六章 出納官吏

第三十七條 出納官吏及其ノ代理官又ハ分任官ハ部局長之ヲ命スヘシ

第三十八條 出納官吏後任者ヘ事務引繼ヲ爲シタルトキハ其ノ引繼濟年月日ヲ部局長ヨリ會計檢査院ニ通知スヘシ

第三十九條 會計規則第百三十四條及第百三十五條ニ該當スルモノアルトキハ部局長ニ於テ之カ取扱ヲ爲シ直ニ其ノ顚末ヲ詳記シ內務大臣ニ報告スヘシ

第四十條 出納官吏其ノ保管ニ屬スル現金ノ亡失又ハ費消等ノ事故發見ノ報告ニ於テハ部局長ハ直ニ其ノ事實ヲ內務大臣ニ具申シ尙左記事項ヲ調査シ詳細報告スヘシ

一 被害ノ日時及場所

二 被害ノ原因タル事實ノ狀況

三 被害金額

四 被害事實發見ノ動機

五 平素ニ於ケル現金管守ノ方法

六 責任者處分ノ要否及其ノ結果

第四十一條 出納官吏ニ對スル公訴ニ附帶シテ國ノ代表者私訴ヲ提起シタルトキハ部局長ハ直ニ其ノ事實ヲ詳具シ內務大臣ニ報告スヘシ

第四十二條 會計規則第百三十八條ノ規定ニ依リ內務大臣ニ提出スヘキ檢定書ハ部局長ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第四十三條 資金ノ前渡ヲ受ケタル官吏ハ會計規則第百四十一條ニ依リ前渡資金出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月七日迄ニ支出官ヲ經由シテ之ヲ會計檢査院ニ提出スヘシ

第四十四條 歲入歲出外現金ノ出納ヲ掌ル官吏ハ會計規則第百四十二條ニ依リ歲入歲出外現金出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ當該所屬長官ヲ經由シテ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ會計檢査院ニ提出スヘシ但シ會計檢査院法第十六條ニ依リ外國ニ於テ支拂ヲ爲スカ爲資金ノ前渡ヲ受ケタル官吏ノ提出スヘキ前渡資金出納計算書ハ歸朝ノ後ニ於テ之ヲ提出スルコトヲ得但シ旅行カ年度內ニ終了セサルトキハ年度ニ依リ提出ヲ要ス

第四十五條 出納官吏交替シタルトキハ其ノ在職期間ニ執行シタル出納ノ計算書ハ該事務終了ノ時ニ於テ之ヲ提出スルコトヲ得

第四十六條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

第四十七條 左ノ內務省訓令、通牒、指令竝照會ハ之ヲ廢止ス

附則

當該出納官吏死亡其ノ他ノ事故ニ因リ自ラ計算書ヲ調製スルコト能ハサル場合ニ於ケル代理調製ノトキ亦前項ニ準ス

十日限リ前二條ノ手續ヲ爲スヘシ

其ノ計算ノ檢査及責任解除ヲ委託セラレタルモノハ委託ヲ受ケタル出納ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ交替ノ日ヨリ三

類ヲ添ヘ當該所屬長官ヲ經由シテ翌年度四月三十日迄ニ之ヲ會計檢査院ニ提出スヘシ

明治二十二年十月内務省訓令第四十號會計規則第六十九條保證金額ノ件
明治二十三年十月内務省指令甲第九十三號北海道廳經費豫算目節流用委任ノ件
明治二十四年二月總務局通知檢丙第三號出納官吏後任者ヘ事務引繼ヲ爲シタルトキ會計檢査院ヘ通知ノ件
明治二十四年三月内務省訓令第一七六號出納官吏保管金紛失シタルトキ具申方ノ件
明治二十四年四月内務省訓令第三四八號出納官吏職氏名會計檢査院ヘ通知方ノ件
明治二十四年六月會計局通牒乙第一五三號會計規則第六十九條保證金額ノ件
明治二十四年十一月内務省訓令第九六一號歲入增減計算書差出方ノ件
明治二十六年六月内務省訓令第四三〇號警視廳經費各目流用處分方ノ件
明治二十六年六月内務省訓令第四四二號預金局保管證書保管規則
明治二十六年十一月内務省訓令第七二〇號定額戻入期限ヲ過キ返納人現金ヲ金庫ニ納入シタルトキ取扱方ノ件
明治二十六年十二月内務省訓令第二十七號警視廳府縣支出計算書等會計檢査院ヘ送付方ノ件
明治二十七年四月内務省訓令第二六八號甲年度定額ヘ戻入スヘキモノ乙年度五月三十日ヲ過キ戻入ヲ了ラサルモノ取扱方ノ件
明治二十七年一月庶務局通牒藏内第四號仕拂命令及集合仕拂命令ニ記入スヘキ月日ノ件
明治二十九年四月拓殖務省訓令第二號北海道廳支出計算書等會計檢査院ヘ送付方ノ件
明治三十一年二月内務省訓令第七號内務省所管經費決算報告書差出方ノ件
明治三十一年七月内務省訓令第十六號歲入歲出年度科目所管廳誤記訂正手續
明治三十一年八月内務省訓令第二二號警視廳府縣衛生試驗所歲出科目中節ノ增設方ノ件
明治三十一年十二月内務省指令甲第二九號衛生試驗所經費豫算流用委任ノ件
明治三十二年五月内務省訓令第十七號歲出金及歲出仕拂未濟繰越金支出月計對照表證明ニ關スル件
明治三十二年十一月庶務課通牒庶甲第二九七號廳府縣臨時費各目流用方ノ件
明治三十三年四月内務省訓令第六號仕拂命令集合仕拂命令發布等ニ關スル取扱手續
明治三十三年四月内務省訓令第七號諸收入收納取扱規程
明治三十三年五月内務省訓令第十號歲入徵收官交替ノトキ取扱方ノ件
明治三十三年六月内務省訓令第二十二號出納官吏保管金亡失ノ場合其ノ他報告方ノ件
明治三十三年一月内務省訓令第四二號身元保證金代用公債證書及勸業債券ニ關スル件
明治三十三年三月會計課照會官第二二號歲入歲出現計調提出方ノ件
明治三十三年三月會計課照會官第二二號歲出現計書提出方ノ件
明治三十四年七月内務省訓令第十號會計規則中檢查官吏等ニ關スル取扱方
明治三十四年三月會計課通牒藏甲第一三號歲入金納入ハ適宜金庫指定ノ件
明治三十五年十月内務省訓令第十八號出納官吏身元保證金等ニ關スル取扱方ノ件
明治三十五年三月内務省訓令第一三三號經費仕拂上被詐取ノ事實發見セシトキ具申方ノ件
明治三十五年十月内務總務長官通牒祕乙第四五九號會計規則第六十九條ニ該當スルモノト認メタル場合報告方ノ件
明治三十七年六月内務次官通牒藏甲第二六號出納官吏保管金紛失ノ場合詳細ノ事實報告方ノ件

明治四十年三月衛生局會計課通牒衛甲第一七號藥品巡視監督費流用ニ關スル件
明治四十二年三月會計課照會課第四九號歲出現計調提出方ノ件
明治四十四年五月會計課通牒課第一〇九號指名競爭入札施行ノ場合報告事項ノ件
大正二年二月衛生局通牒衛發第三七號警視廳府縣傳染病豫防費々目流用ニ關スル件
大正八年三月內務省訓令第三號衛生試驗所支出計算書會計檢查院ヘ送付方ノ件
大正九年五月會計課通牒發會第二四八號府縣歲出豫算流用ニ關スル件
大正九年五月會計課通牒發會第二四八號武藏野學院歲出豫算流用ニ關スル件

第四十八條　左ノ內務省訓令中改正ス
明治三十八年四月內務省訓令第十號土木出張所處務規程第七條中第五號ヲ削ル
明治三十八年四月內務省訓令第二七一號土木出張所會計事務ニ關スル取扱方ノ件中第一項、第二項、第四項、第九項及第十項ヲ削ル
大正七年六月內務省訓令第三三八號警察講習所長職務規程第三條中第五號及第六號ヲ削ル
大正九年九月內務省訓令第七五五號榮養研究所長職務規程第三條中第五號及第六號ヲ削ル

第四十九條　大正十年度經費ノ精算ニ付テハ支出官之ヲ處理ヲ爲スヘシ
第五十條　本令施行ノ際現ニ出納官吏ノ職ニ在ル者ハ本令ニ依リ出納官吏ヲ命シタルモノト看做スコトヲ得

書式略ス

●岐阜縣會計規則

（明治三十四年十月二十一日 岐阜縣令第四十號）

明治三四年一一月縣令第四八號、三八年四月第一六號、三九年一一月第四五號、四五年六月第二八號、大正元年一二月第一四號、二年五月第二三號、同第二五號、同年一二月第四五號、三年三月第一八號、五年七月第二三號、一〇年一一月第四二號、一二年五月第二一號同年六月第二四號、一三年一〇月第七五號、一五年四月第二五號　同年七月第八七號、昭和二年三月第二八號改正

第一章 總則

第一條　本縣ノ經濟ニ關スル歲入歲出ノ會計ハ特別ノ規定アルモノノ外此ノ規則ニ依ル

第二條及第三條（削除）

第四條　本縣ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有金私有金ハ雜部金ト稱シ此ノ規則ニ準シテ之ヲ出納スヘシ

第二章 歲入

第五條（削除）

第六條　縣稅外諸收入ヲ徵收又ハ收入スヘキ賦課令書、納額告知書及納付書ノ樣式左ノ如シ

賦課令書　町村ニ對シ發付スルモノ　第一號樣式甲一
其ノ他ノ者ニ對シ發付スルモノ　同　甲二

納額告知書　町村ニ對シ發付スルモノ　同　乙一
其ノ他ノ者ニ對シ發付スルモノ　同　乙二

納付書　同　丙

縣稅外諸收入金ハ令書、告知書　納付書ニ現金ヲ添ヘ町村ハ縣稅ノ例ニ依リ縣金庫又ハ郵便局ニ其ノ他ノ者ハ縣金庫ニ之ヲ拂込ムヘシ

前項ノ收入金ニシテ直ニ現金ノ領收ヲ要スルモノハ出納吏ヲシテ之ヲ領收セシム此ノ場合ニ於テハ令書、告知書ノ發付ヲ

ヲ省略シ又ハ納付書ヲ提出セシメサルコトヲ得

第七條　出納吏現金ヲ領收シタルトキハ卽日其ノ領收ノ旨ヲ收入命令者ニ通知シ現金ハ拂込書ヲ添ヘ翌日マテニ之ヲ縣金庫ニ拂込ムヘシ

第八條　縣金庫ニ於テ出納吏又ハ納人ヨリ歲入金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ領收證書ヲ拂込人ニ交付シ卽日領收ノ旨ヲ收入命令者ニ通知スヘシ但シ縣本金庫ニ於テ郵便振替貯金ノ方法ニ依リ町村ヨリ納入ヲ受ケタル場合町村ニ對シ領收證書ノ交付及收入命令者ヘノ通知ヲ要セス

第九條　歲入ノ誤納過納トナリタル金額ヲ其ノ歲入ヨリ還付セムトスルトキハ仕拂命令ヲ發シ歲出金支出ノ例ニ依リ之ヲ支拂フヘシ

第十條　收入命令ノ委任ヲ受ケタル官吏、吏員又ハ職員中支廳、市役所、縣立病院ハ每月警察署、縣立學校、縣立農事試驗場、工業試驗場ハ三箇月其ノ他ハ六箇月每ニ收入計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月十日マテニ知事ニ提出スヘシ但シ年度經過後ニ在リテハ每月提出スヘシ

市長ハ前項計算書ノ外每年度歲入調定額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌年度六月十日マテニ知事ニ提出スヘシ

第三章　歲出

第十一條　歲出ハ仕拂命令者ノ命令ニ依リ之ヲ仕拂フヘシ

第十二條　仕拂命令ハ經費支出ノ必要アル每ニ縣金庫ニ向テ之ヲ發スヘシ

豫算ニ定メタル目的外ノ經費ニ對シテハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

第十三條　仕拂命令ハ債主ニ對スルニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ得ス但シ資金前渡ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　資金前渡ノ爲ニ仕拂命令ヲ發スルトキハ左ノ區分ニ依ル

第一、當時ノ費用ニ係ルモノハ每一ケ月分以內ノ豫定費額

第二、臨時ノ費用ニ係ルモノハ其ノ事件ノ執行ヲ妨ケサル限ニ於テ分割シタル費額

（削除）

第十五條

第十六條　仕拂命令ハ通常仕拂命令送金仕拂命令集合仕拂命令及送金集合仕拂命令ノ四種トス

通常仕拂命令ハ第二號樣式ニ依リ受取人每ニ之ヲ發シ受取人ニ交付シテ縣金庫ニ就キ現金ヲ受取ラシムルモノトス但シ縣廳直接仕拂ニ屬スルモノニ限リ別ニ定ムル方法ニ依ルコトヲ得

送金仕拂命令ハ第三號樣式ニ依リ遠隔ノ地ニ在ル受取人ニ仕拂ヲ要スル場合ニ於テ之ヲ發シ縣金庫ニ送付シ縣金庫ヲシテ受取人ニ送金シ仕拂ヲ爲サシムルモノトス

集合仕拂命令ハ第四號樣式ニ依リ科目ノ同一ナル經費ヲ數人ノ受取人ニ仕拂ヲ要スル場合ニ於テ之ヲ發シ受取人ノ金額氏名表ヲ添ヘ縣金庫ニ送付シ縣金庫ヲシテ各受取人ニ現金ノ仕拂ヲ爲サシムルモノトス

送金集合仕拂命令ハ第五號樣式ニ依リ科目ノ同一ナル經費ヲ遠隔ノ地ニ在ル數人ノ受取人ニ仕拂ヲ要スル場合ニ於テ之ヲ發シ受取人ノ金額氏名表ヲ添ヘ縣金庫ニ送付シ縣金庫ヲシテ各受取人ニ送金シ仕拂ヲ爲サシムルモノトス

第十七條　仕拂命令ニハ其ノ受取人ノ氏名仕拂フヘキ金額、所屬年度經濟ノ種目番號及發付ノ年月日ヲ記載スヘシ

第十八條　仕拂命令者ハ通常仕拂命令ヲ受取人ニ交付シ又ハ送金仕拂命令集合仕拂命令送金集合仕拂命令ヲ縣金庫ニ送付シタルトキハ其ノ領收證書ヲ徵スヘシ

第十九條　送金仕拂命令集合仕拂命令若ハ送金集合仕拂命令ヲ縣金庫ニ送付シタルトキハ受取人ニ第六號樣式ノ仕拂通知書ヲ交付スヘシ

第二十條　縣金庫ハ通常仕拂命令送金仕拂命令集合仕拂命令若ハ送金集合仕拂命令ヲ受ケタルトキハ其ノ命令合式ニシテ且仕拂預算ニ超過セサルトキハ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條　縣金庫ハ通常仕拂命令持參人ニ其ノ仕拂命令ト引換ニ現金ヲ交付スヘシ

送金仕拂命令集合仕拂命令送金集合仕拂命令ニ對シテハ現金交付ノトキ受取人ヨリ領收證書ヲ徵スヘシ

第二十二條　仕拂命令ノ方式ニ違ヒタルトキ仕拂命令汚損シ其ノ要部ヲ謬メ雖キトキ仕拂期限經過シタルトキハ縣金庫ハ

事由ヲ仕拂命令持參人ニ告ク仕拂命令ノ執行ヲ拒ムヘシ

第二十三條　歲出ノ誤拂過渡トナリタル金額其ノ他ノ返納金ヲ定額ニ戻入セムトスルトキハ第七號樣式ノ返納告知書ヲ發シ歲入金收入ノ例ニ依リ之ヲ收納スヘシ

第二十四條　仕拂命令ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員又ハ職員中支廳、警察署、縣立學校、縣立病院、工業試驗場、穀物檢查所、木炭檢查所ハ每月其ノ他ハ二箇月每ニ支拂計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月五日迄ニ知事ニ提出スヘシ但シ年度經過後ニ在リテハ每月提出スヘシ

第四章　收支命令ノ委任

第二十五條　收入命令ハ當時之ヲ委任シ仕拂命令ハ每年度仕拂預算ヲ定メ之ヲ委任ス

臨時ニ收支命令ノ委任ヲ要シ又ハ委任ノ變更ヲ要スルモノアルトキハ之ヲ命達ス

第二十六條　仕拂命令ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員又ハ職員ニ於テ仕拂豫算各款內項及目ノ金額ヲ流用セムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二十七條　知事ハ仕拂命令ヲ委任シタルトキハ仕拂豫算ヲ縣金庫ニ令達ス其ノ變更シタルトキハ亦同シ

第二十八條　出納閉鎖後ニ於テ仕拂殘算額ニ殘餘アルトキハ其ノ金額ニ對シテハ仕拂命令ノ委任ヲ解除シタルモノトス

第五章　工事及物件ノ賣買貸借

第二十九條　工事又ハ物件ノ賣買貸借運搬ハ特別ノ規定アルモノノ外總テ公告シテ競爭ニ付スヘシ

左ノ場合ニ於テハ競爭ニ付セス隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

第一　一人又ハ一會社ニテ專有スル物件ヲ買入又ハ借入ルルトキ

第二　臨時急施ヲ要シ工事又ハ物件ノ買入借入ヲ爲スニ競爭ニ付スルヲ暇ナキトキ

第三　特種ノ品質又ハ特別使用ノ目的アル物件ヲ其ノ生產者又ハ製造者ヨリ直接ニ買入ルルトキ

第四　特別ノ技術者ニ非サレハ築造シ得ヘカラサル工事ヲ命シ又ハ製作シ得ヘカラサル物品ヲ買入ルルトキ

第五　土地建物其ノ他工作物ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造ニ限アルトキ

第六　囚徒ヲ傭役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ルルトキ

第七　官設若ハ公設ニ係ル學校又ハ農工業場ヨリ其ノ生產又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ルルトキ

第八　公共ノ用ニ供スル爲ニ物件ヲ行政廳若ハ公共團體ニ貸渡シ又ハ賣渡ストキ

第九　土木工事ヲ當該公共團體ニ受負ハシムルトキ

第十　工事ノ受負者ニ其ノ工事ニ附帶スル工事ヲ受負ハシムルトキ但シ分割シテ施行シ難キ場合又ハ分割シテ施行スルヲ不利トスル場合ニ限ル

第十一　參百圓ヲ超エサル物件買入借入運搬又ハ特別ノ規定アルモノノ外工事ノ豫定價格二千圓未滿ナルトキ

第十二　見積價格百圓ヲ超エサル物件ヲ賣拂フトキ

第十三　見積料金參拾圓以內ニ於テ物件ヲ貸渡ストキ但貸渡期限五箇年ヲ超ユルヲ得ス

第十四　競爭ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ再度ノ入札ニ付スルモ仍豫定價格ノ制限ニ達セサルトキ但シ最初競爭ニ付スルトキ定メタル價格其ノ他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第十五　前各號ニ揭クル外事實競爭ニ付シ難キ場合又ハ競爭ニ付スルヲ不利トスル場合ニシテ知事ニ於テ隨意ノ契約ニ依ルコトヲ必要ト認メタルトキ

第三十條　競爭ハ總テ入札ノ方法ヲ以テシ其入札期日ヨリ少クモ五日前揭示又ハ新聞紙其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第三十一條　前條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一　競爭ニ付スル事項

第二　契約書案ヲ示ス場所

第三　競爭執行ノ場所日限及時刻

第四　入札保證金ノ制限

第三十二條　工事又ハ物件ノ性質ニ依リ必要アルトキハ其ノ競爭者ノ資格ヲ定ムルコトヲ得

第三十二條ノ二　工事又ハ物件賣買賃貸借ニシテ知事ニ於テ無制限ノ競爭ニ付スルヲ不利ト認メタルトキハ三名以上ノ指名競爭ニ付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十條ノ公告ヲ要セス

第三十三條　入札ハ書留郵便ニ付シ之ヲ爲スコトヲ得

第三十四條　工事又ハ物件ノ賣買賃貸借ノ競爭ニ加ハラントシ若ハ契約ヲ結ハムトスル者ニハ現金又ハ無記名利附有價證券ヲ以テ左ノ各號ニ依リ保證金ヲ納メシムヘシ但シ有價證券ノ種類及價格ハ特別ノ規定アルモノノ外別ニ之ヲ定ム

第一　競爭ニ加ハラントスル者ニハ其ノ事項ノ各自見積代價ノ百分ノ三以上

第二　契約ヲ結ハムトスル者ニハ其ノ事項ノ代價ノ百分ノ十以上

第三十二條ノ二ニ依リ指名競爭入札ノ場合ニ於テハ前項各號隨意契約ノ場合ニ於テハ前項第二號ノ保證金ヲ輕減シ又ハ免除スルコトヲ得

第三十五條　工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ競爭ニ付スルトキハ其ノ價格ヲ豫定シ置クヘシ

第三十六條　開札ハ公告ニ示シタル場所日限時刻ニ於テ之ヲ行フヘシ

第三十七條　入札者又ハ其ノ代理者ハ開札ノ場所ニ出席スルコトヲ得

第三十八條　開札ノ上各入札中一モ第三十五條ノ豫定價格ノ制限ニ達セサルトキハ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十九條　豫定價格ノ制限ニ達シタル入札ト雖トモ價格不相當ト認ムルモノハ落札ト爲サス第四十一條但書ノ例ニ依リ落札者ヲ定メ若ハ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十條　落札ト爲ルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ムヘシ

第四十一條　競爭ノ落札者其ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競爭ヲ行フヘシ但シ開札ノ場所ニ於テ直ニ契約ヲ結ハサルノ申立ヲ爲シタルトキハ豫定價格ノ制限ニ達シタル入札ニ就キ順次次札ヲ以テ落札者ト定ムルコトヲ得

第四十二條　競爭ノ落札者契約ヲ結ハサルトキ又ハ入札ニ付不正ノ行爲アリタルトキハ其ノ入札保證金ハ本縣ノ所得トス

第四十三條　契約書ニハ其ノ契約セムトスル事項ノ細密ナル設計仕譯、落成及受渡ノ期限保證金額契約違背ノトキ保證金ノ處分其ノ他必要ナル條件ヲ揭クヘシ但シ保證金ヲ免除シタル隨意契約ノ場合ニ於テハ本條ノ契約書ヲ省略スルコトヲ得

第四十四條　工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完濟前ニ其ノ代價ヲ仕拂ハムトスルトキハ左ノ制限ニ從ヒ之ヲ仕拂フコトヲ得

第一　工事ハ其ノ既濟ト爲リタル部分ニ對スル代價ノ五分ノ四以內

第二　物品ハ其ノ既納ト爲リタル部分ニ對スル代價ノ全額以內

賣却シタル物件ハ其ノ代金完納前ニ之ヲ引渡スコトヲ得ス但シ左記ノ場合ニ限リ代金完納前ト雖物件ノ引渡ヲ爲スコトヲ得

第一　官廳、公署又ハ公共團體ニ對シ賣却シタルトキ

第二　代金以上ニ相當スル保證金ヲ納メシメタルトキ

第三　保管ニ費用ヲ要シ又ハ保管ニ困難ナル物件ニシテ其ノ代金不納又ハ滯納ノ虞ナキトキ

第四　知事ニ於テ代金完納前特ニ物件ノ引渡ヲ爲スノ必要アリト認メタルトキ

第六章　出納吏及資金前渡

第四十五條　（削除）

第四十六條　出納吏及資金前渡ヲ受ケタル者ノ保管ニ屬スル現金及帳簿ノ檢查ハ定期ト臨時トニ分チ定期檢查ハ毎年三月三十一日ニ於テ之ヲ行ヒ臨時檢查ハ出納吏及資金前渡ヲ受ケタル者轉免、死亡、停職ノトキ其ノ他必要ト認ムルトキニ於テ之ヲ行フモノトス但シ臨時ニ資金前渡ヲ受ケタル者ノ保管ニ屬スル現金及帳簿ハ定期ノ檢查ヲ要セス

第四十七條　出納吏他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ前條檢查ノ場合ニ併セテ之ヲ檢查スルコトヲ得

第四十八條　第四十六條ノ檢查ヲ行フニ當リ出納吏及資金前渡ヲ受ケタル者死亡其ノ他ノ事故ニ由リ自身ニ檢查ヲ受クル

能ハサルトキハ特ニ命シタル官吏吏員又ハ職員ヲシテ立會セシムヘシ

第四十九條 出納吏交替ノトキハ前任出納吏後任出納吏ノ立會ヲ以テ事務ノ引繼ヲ爲スヘシ

第五十條 出納吏死亡其ノ他ノ事故ニ由リ自身ニ事務ノ引繼ヲ爲ス能ハサルトキハ特ニ命シタル官吏吏員又ハ職員ヲシテ其ノ引繼ヲ爲サシムヘシ

第五十一條 前二條ノ事務引繼ヲ爲ストキハ引繼書二通ヲ調製シ後任出納吏ト共ニ署名捺印シテ各々一通ヲ所持スヘシ

第五十二條 現金ヲ領收スル出納吏ハ每會計年度間ニ執行シタル現金出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ年度經過後三十日以內ニ知事ニ提出スヘシ

第五十三條 資金前渡ヲ受ケタル者ハ每月仕拂計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ一時ノ取扱ニ係ルモノハ仕拂ヲ了リタル日ヨリ五日以內ニ其ノ他ハ翌月五日マテニ仕拂命令者ニ提出スヘシ

第五十四條 出納吏及資金前渡ヲ受ケタル者轉免死亡停職ノトキハ第五十二條ノ現金出納計算書ハ其ノ日ヨリ三十日以內ニ第五十三條ノ仕拂計算書ハ其ノ日ヨリ五日以內ニ提出スヘシ

第五十五條 出納吏及資金ノ前渡ヲ受ケタル者死亡其ノ他ノ事故ニ由リ自身ニ第五十二條第五十三條ノ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ特ニ命シタル官吏吏員又ハ職員ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

第七章 縣金庫

第五十六條 縣金庫ニ於テ現金ヲ出納スル時間ハ一般官廳ノ執務時間ニ依ル但シ納期ニ際シ領收金輻湊スルトキ又ハ臨時至急ノ仕拂ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十七條 縣金庫ニ於テ領收シタル現金ハ直ニ仕拂基金ニ充ツヘシ

第五十八條 縣本金庫ハ各金庫ニ現金ノ配置ヲ爲シ仕拂ニ支障ナカラシムヘシ

第五十九條 縣支金庫ハ本金庫ノ通達ニ依リ直ニ其ノ指定ノ金庫ニ現金ノ回送ヲ爲スヘシ

縣金庫ニ於テ回送金ヲ領收シタルトキハ直ニ其ノ領收證書ヲ送金シタル金庫ニ送付スヘシ

第六十條 縣支金庫ハ每日現金ノ出納額及現在額ノ計算表ヲ調製シ本金庫ニ送付シ本金庫ハ每日本支金庫現金ノ出納額及現在額ノ計算表ヲ調製シ知事ニ提出スヘシ

第六十一條 縣金庫ハ每日收入及支出シタル金額ノ月計對照表二通ヲ調製シ翌月二日マテニ收支命令者ニ提出スヘシ但シ郵便振替貯金ノ方法ニ依リ拂込ヲ受ケタル收入ハ翌月五日マテトス

收支命令者ハ前項月計對照表ノ金額ヲ帳簿ニ對査シ相違ナキトキハ其ノ旨ヲ證明シテ一通ハ卽日之ヲ縣金庫ニ返付シ一通ハ之ヲ收入又ハ支出ノ計算書ニ添付シテ知事ニ提出スヘシ

第六十二條 縣支金庫ハ前條月計對照表ノ證明ヲ得タルトキハ卽日之ヲ本金庫ニ送付シ本金庫ハ其ノ金額ヲ帳簿ニ登記スヘシ

第六十三條 縣金庫ノ保管ニ屬スル現金及帳簿ノ定期檢查ハ每年五月三十一日ニ於テ之ヲ行フモノトス

銀行交替ノトキ其ノ他必要ト認ムルトキニ於テ之ヲ行フモノトス

檢查員縣金庫ニ臨檢ノトキハ知事ノ交付シタル臨檢章ヲ携帶シ之ヲ縣金庫事務取扱者ニ示スヘシ

第八章 帳簿

第六十四條 縣總ニ歲入主計簿歲入主計內譯簿歲出主計簿歲出主計內譯簿及縣金庫現金出納額總括簿ヲ備フルモノトス

歲入主計簿ハ經濟ヲ區分シ歲入主計內譯簿ハ科目ヲ區分シ歲入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スルモノトス

歲出主計簿ハ經濟ヲ區分シ歲出主計內譯簿ハ科目ヲ區分シ歲出ノ豫算額、仕拂命令發付濟額、豫算殘額ヲ登記スルモノトス

縣金庫現金出納額總括簿ハ縣金庫現金出納ノ種目ヲ區分シ其ノ出納額ヲ登記スルモノトス

第六十五條 收入命令者ハ歲入簿及歲入內譯簿ヲ備ヘ歲入簿ハ經濟ヲ區分シ歲入內譯簿ハ科目ヲ區分シ歲入內譯簿ハ經濟ヲ區分シ歲入內譯簿ハ科目ヲ區分シ歲入ノ調定濟額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ但シ歲入簿ハ取扱經濟ノ種目少キ廳廨ニ在リテハ之ヲ省略スルコトヲ得

第六十六條　仕拂命令者ハ歲出簿及歲出內譯簿ヲ備ヘ歲出簿ハ經濟ヲ區分シ歲出內譯簿ハ科目ヲ區分シ歲出ノ仕拂豫算額仕拂命令發付濟額、仕拂豫算殘額ヲ登記スヘシ但シ歲出簿ハ取扱經濟ノ種目少キ廳廨ニ在リテハ之ヲ省略スルコトヲ得

第六十七條　出納吏及資金ノ前渡ヲ受ケタル者ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納額及現在額ヲ登記スヘシ

第六十八條　縣金庫ハ現金出納簿、歲入金口譯簿及歲出金口譯簿ヲ備フヘシ

現金出納簿ハ現金ノ出納額及現在額ヲ登記スヘシ

歲入金口譯簿ハ廳廨毎ニ經濟ヲ區分シ歲入ノ收入額及累計ヲ登記スヘシ

歲出金口譯簿ハ廳廨毎ニ經濟ヲ區分シ歲出ノ仕拂豫算額、仕拂命令受領額、仕拂豫算殘額ヲ登記スヘシ

第六十九條　縣本金庫ハ前條帳簿ノ外出納總括簿郵便振替貯金整理簿歲入各地支金庫內譯簿歲出各地支金庫內譯簿現金各地支金庫內譯簿及各縣金庫回送金整理簿ヲ備フヘシ

出納總括簿ハ現金出納ノ種目ヲ區分シ本支金庫一切ノ現金出納額ヲ登記スヘシ

郵便振替貯金整理簿ハ貯金額、引出額、現在額ヲ登記スヘシ

歲入各地支金庫內譯簿ハ支金庫毎ニ經濟ヲ區分シ歲入ノ收入額、收入額累計及各廳廨ト收入ノ對照濟額ヲ登記スヘシ

歲出各地支金庫內譯簿ハ支金庫毎ニ經濟ヲ區分シ歲出ノ支出額、支出額累計及各廳廨ト支出ノ對照濟額ヲ登記スヘシ

現金各地支金庫內譯簿ハ支金庫ヲ區分シ現金ノ出納額及現在額ヲ登記スヘシ

各縣金庫回送金整理簿ハ縣金庫間回送金ノ回送額、回著額、未著額ヲ登記スヘシ

第七十條　縣支金庫ハ第六十八條帳簿ノ外回送金整理簿ヲ備ヘ本金庫及他ノ支金庫ニ回送金ノ回送額、回著額、未著額ヲ登記スヘシ

第九章　補則

第七十一條　此ノ規則ニ關スル取扱ノ細則及計算書帳簿其ノ他ノ樣式ハ別ニ定メノチ各廳廨及縣金庫ニ令達ス

第七十二條　此ノ規則ハ明治三十四年十二月一日ヨリ施行ス

第一號樣式甲一　用紙適宜　三枚接續（第六條參照）

賦課令書

第　何　號　昭和何年度

縣　稅（何々）

一金　何　程

但夫役一人一日金何錢換何人分現品何々一個金何錢換何個分

昭和何年何月何日領收○……「縣金庫主任印」

右昭和何年何月何日限岐阜縣某金庫又ハ郵便振替貯金ノ方法ニヨリ縣本金庫ニ納付スヘシ

昭和何年何月何日

收入命令者官（職）氏　名　㊞

岐阜縣某金庫　御中

領收濟通知書

第　何　號　昭和何年度

縣　稅（何々）　何　（款）　何　（項）　何　（目）

「常部（臨時部）」

一金　何　程

右昭和何年何月何日領收

○……「縣金庫主任印」

收入命令者官（職）氏名宛

縣金庫割印……

領收證書

第何號	昭和何年度	何町村納
縣稅（何々）	某廳廨扱	

縣金庫割印

一金何程　夫役（現品）換算金

○……「縣金庫主任印」

但何々（賦課令書ニ同シ）

右領收候也

昭和何年何月何日

岐阜縣某金庫 印

備考

一、領收濟通知書及領收證書用紙ノ納入金額其ノ他ノ事項ハ總テ賦課令書調製者ニ於テ記入スルモノトス

二、出納吏ヲシテ現金ヲ領收セシムル場合ニ於テ發スル賦課令書ハ本樣式某金庫トアルハ出納官（職）氏名ヲ記載スルモノトス

賦課令書

第一號樣式甲二　用紙適宜　三枚接續（第六條參照）

第何號	昭和何年度	何地何某納
縣稅（何々）		

一金何程　夫役（現品）換算金

但夫役一人一日金何錢換何人分現品何々一個金何錢換何個分

昭和何年何月何日領收○……「縣金庫主任印」

右昭和何年何月何日限岐阜縣某金庫ニ納付スヘシ

昭和何年何月何日

收入命令者官（職）氏名 印

縣金庫割印

領收濟通知書

第何號	昭和何年度	何地何某納
縣稅（何々）	何（款）	何（項） 何（目）

「經常部（臨時部）」

一金何程

○……「縣金庫主任印」

右昭和何年何月何日領收

收入命令官（職）氏名宛

岐阜縣某金庫 印

領收證書

第何號	昭和何年度	何地何某納
縣稅（何々）	某	廳 廨 扱

一金 何程 夫役（現品）換算金

○……「縣金庫主任印」

但何々（賦課令書ニ同シ）

右領收候也

昭和何年何月何日

岐阜縣某金庫 印

縣金庫割印

備考

一、領收濟通知書及領收證書用紙ノ納入金額其ノ他ノ事項ハ總テ賦課令書調製者ニ於テ記入スルモノトス

二、出納吏ヲシテ現金ヲ領收セシムル場合ニ於テ發スル賦課令書ハ本樣式某金庫トアルハ出納吏官（職）氏名ヲ記載スルモノトス

第一號樣式乙一 用紙適宜 三枚接續（第六條參照）

納額告知書

第何號	昭和何年度	何町村納
縣稅（何々）		

一金 何程

但何々（收入ノ目的ヲ記載スヘシ）

昭和何年何月何日領收○……「縣金庫主任印」

右昭和何年何月何日限岐阜縣某金庫又ハ郵便振替貯金ノ方法ニヨリ縣本金庫ニ納付スヘシ

昭和何年何月何日

收入命令者官（職）氏名 印

縣金庫割印

領收濟通知書

第何號	昭和何年度	何町村納
縣稅（何々）	何（款）	何（項） 何（目）

「經常部（臨時部）」

一金 何程○……「縣金庫主任印」

右昭和何年何月何日領收

收入命令者官（職）氏名宛

岐阜縣某金庫 印

領收證書

第何號	昭和何年度	何町村納
縣稅（何々）	某	廳 廨 扱

一金 何 程○……「縣金庫主任印」

但何々（納額告知書ニ同シ）

右領收候也

昭和何年何月何日

岐阜縣某金庫 印

縣金庫割印

備考

一、領收濟通知書及領收證書用紙ノ納入金額其ノ他ノ事項ハ總テ納額告知書調製者ニ於テ記入スルモノトス

二、出納吏ヲシテ現金ヲ領收セシムル場合ニ於テ發スル賦課令書ハ本樣式某金庫トアルハ出納吏官（職）氏名ヲ記載スルモノトス

納額告知書

第一號樣式乙二 用紙適宜 三枚接續（第六條參照）

第何號	昭和何年度	何地何某納
縣稅（何々）		

一金 何 程

但何々（收入ノ目的ヲ記載スヘシ）

昭和何年何月何日領收○……「縣金庫主任印」

右昭和何年何月何日限岐阜縣某金庫ニ納付スヘシ

昭和何年何月何日

收入命令者官（職）氏名 印

縣金庫割印

領收濟通知書

第何號	昭和何年度	何地何某納
縣稅（何々）	何（款）	何（項） 何（目）

「經常部（臨時部）」

一金 何 程○……「縣金庫主任印」

右昭和何年何月何日領收

收入命令者官（職）氏名宛

岐阜縣某金庫 印

縣金庫割印

領收證書

第何號	昭和何年度	何地何某納
縣稅（何々）	某廳廨扱	

一金 何程○……「縣金庫主任印」

但何々（納額告知書ニ同シ）

右領收候也

昭和何年何月何日

岐阜縣某金庫 印

縣金庫割印

備考

一、領收濟通知書及領收證書用紙ノ納入金額其ノ他ノ事項ハ總テ納額告知書調製者ニ於テ記入スルモノトス

二、出納吏ヲシテ現金ヲ領收セシムル場合ニ於テ發スル賦課令書ハ本樣式某金庫トアルハ出納吏官（職）氏名ヲ記載スルモノトス

納付書

第一號樣式丙 用紙適宜 三枚接續（第六條參照）

第何號	何町村（何地何某）納
昭和何年度	縣稅何々	某廳廨扱

一金 何程

但何々

昭和何年何月何日

昭和何年何月何日領收○……「縣金庫主任印」

縣金庫割印

領收濟通知書

第何號	何町村（何地何某）納
昭和何年度	縣稅（何々）	何（款）	何（項）	何（目）

一金 何程

昭和何年何月何日領收

○……「縣金庫主任印」

何廳廨宛

岐阜縣某金庫 印

領收證書

第何號	何町村（何地何某）納
昭和何年度	縣稅（何々）
一金何程	某廳廨扱
昭和何年何月何日領收	○……「縣金庫主任印」
	岐阜縣某金庫㊞

縣金庫割印

○第二號書式

用紙適宜 縱六寸二分 橫三寸八分（第十六條參照）

通常仕拂命令

第號	何某渡
大正何年度	縣稅（何々）
一金何程	
本行ノ金額此仕拂命令持參人ニ仕拂フヘシ	
大正何年何月何日	
岐阜縣某金庫宛	仕拂命令者官（職）氏名㊞

此ノ仕拂命令ニ對シ現金ノ仕拂ヲ爲スハ此命令ニ記載セル年度ノ翌年度五月三十一日限リトス

備考

歲入ヲ其ノ年度ノ收入金ヨリ拂戻ス場合ニ於テ發スル仕拂命令ニハ經濟名ノ下欄ニ「收入金拂戻」ト朱記スヘシ第三號乃至第五號樣式亦同シ

仕拂命令調査ノ主任者ハ金額ノ肩ニ認印ヲ押捺スヘシ第三號乃至第五號樣式亦同シ

○第三號樣式

用紙適宜 縱六寸二分 横三寸八分 （第十六條第三項參照）

送金仕拂命令

第何號	何地	何某渡
大正何年度	縣稅（何々）	

一金何程

本行ノ金額前記名者ニ遞送シ仕拂フヘシ

大正何年何月何日

岐阜縣某金庫宛

仕拂命令者官（職）氏 名㊞

○第四號樣式

用紙適宜 縱六寸二分 横三寸八分 （第十六條第四項參照）

集合仕拂命令

第何號	何某外何人渡
大正何年度	縣稅（何々）

一金何程

本行ノ金額此ノ仕拂命令附屬ノ金額氏名表ニ照シ仕拂フヘシ

大正何年何月何日

岐阜縣某金庫宛

仕拂命令者官（職）氏 名㊞

○第五號樣式

用紙適宜 縱六寸二分 横三寸八分 （第十六條第五項參照）

送金集合仕拂命令

第何號	何某外何人渡
大正何年度	縣稅（何々）

一金何程

本行ノ金額此ノ仕拂命令附屬ノ金額氏名表ニ照シテ遞送シ仕拂フヘシ

大正何年何月何日

仕拂命令者官（職）氏 名 印

岐阜縣某金庫宛

第六號樣式 （用紙適宜半紙半片判）（第十九條參照）

仕拂通知書

第何號	仕拂金庫名	岐阜縣某金庫

明治何年度縣稅（何々）

仕拂命令第何號（仕拂命令第何號金額氏名表第何號）

一金何程 （朱書）送金拂

但何々（仕拂ノ目的其ノ他受取人ニ於テ仕拂ノ請求ヲ爲セシ年月日等ヲ適宜記載スヘシ）

右金額ニ對スル仕拂命令本日前記縣金庫ニ交付候條該金庫ヨリ現金ヲ受取ラルヘシ

明治何年何月何日

仕拂命令者官（職）氏 名 印

（何地）

何某殿

受取人縣金庫ヨリ現金受取ノ際次ノ欄内ニ年月日ヲ記入シ署名捺印シテ之ヲ該金庫ニ交付セラルヘシ

朱書 此處ニ收入印紙貼用ヲ要ス

前書ノ金額領收候也

受取人

何某 印

備考

○送金シテ仕拂ヲ爲スモノ及收入印紙ノ貼用ヲ要スルモノハ式ノ如ク朱記スルモノトス

○第七號樣式
用紙適宜 縱六寸二分 横三寸八分 ノモノ三枚接續（第二十三條參照）

返納告知書

第何號	大正何年度	何地何某納
縣稅（何々）	（朱書）	定額戻入

一金何程
但何々（返納ノ目的ヲ記載スヘシ）
大正何年何月何日領收○ー縣金庫主任ノ印
右大正何年何月何日限岐阜縣某金庫ニ返納スヘシ
大正何年何月何日
仕拂命令者官（職）氏名 印

縣金庫割印

領收濟通知書

第何號	大正何年度	何地何某納
縣稅（何々）	何（款）	何（項） 何（目）

「經常部（臨時部）」
一金何程 ○ー縣金庫主任ノ印
右大正何年何月何日領收
仕拂命令者官（職）氏名宛
（朱書）
定額戻入
岐阜縣某金庫 印

領收證書

第何號	大正何年度	何地何某納
縣稅（何々）	某廳	廨扱

一金何程 ○ー縣金庫主任ノ印
但何々（返納告知書ニ同シ）
右領收候也
大正何年何月何日
岐阜縣某金庫 印

縣金庫割印

備考
一、領收濟通知書及領收證書用紙ノ返納金額其ノ他ノ事項ハ返納告知書調製者ニ於テ記入スルモノトス
二、經常部、臨時部ノ區分ヲ要スルモノノ領收濟通知書ニ式ノ如ク記入スルモノトス

●岐阜縣會計細則

（明治三十四年十月二十一日 岐阜縣訓令第五十五號）

明治三六年一月訓令第六號、三七年三月第一二號、三八年四月第二二號、第三四號、同年五月第四二號、三九年三月第九號、四〇年八月第六八號、四一年三月第一二號、四二年七月訓令甲第三四號、四三年一月第二號、四四年四月第二一號、四五年二月第五號、同年四月第二〇號、同年六月第四〇號、大正元年一二月第一九號、二年五月第三五號、同年一二月第七〇號、三年三月第一五號、四年三月第

九號、同年六月第一九號、五年三月第一〇號、同年七月第二四號、同年一二月第三七號、九年三月第一一號、第一三號、同年四月第二一號、同年一二月第七六號、一〇年三月第一〇號、同年六月第二〇號、一一年五月第二二號、同年八月第四〇號、一二年一月第三號、同年三月第一四號、同年六月第二八號、一三年三月第二〇號、一五年四月第一二號、同年七月第八三號、同年九月第一三八號、昭和二年三月第二六號改正

第一章　通則

第一條　本縣經濟ノ種目左ノ如シ

一　縣稅
二　病院費
三　病院基本金
四　小學校敎員恩給基金
五　小學校敎員恩給金
六　小學校敎員加俸資金
七　敎育資金
八　縣有林經營費
九　恩賜慈惠救濟基金
十　恩賜賑恤基金
十一　軍人家族救護基金
十二　罹災救助基金
十三　建物非常準備積立金
十四　育英基金
十五　商品陳列所參考品購入資金
十六　公立學校職員年功加俸資金
十七　工業試驗場作業資金
十八　自作農奬勵資金
十九　公園費
二十　加茂農林學校實習費
二十一　安八農學校實習費
二十二　恩賜兒童就學奬勵資金
二十三　恩賜男女青年團體事業奬勵資金
二十四　農業水利改良費
二十五　農事試驗場經費農場費
二十六　奮郵役所建物管理費
二十七　水產奬勵費
二十八　境川排水改良事業費
二十九　逆川排水改良事業費
三十　桑苗圃費

第二條　此ノ細則ニ於テ廳牌ト稱スルハ縣廳、支廳、市役所、警察署、縣立學校、實業補習學校敎員養成所、蠶業試驗場、蠶業取締所、蠶業取締所支所、測候所、商品陳列所、農事試驗場、農事試驗場分場、種畜場、種畜場分場、工業試驗場、工業講習所、輸出絹織物檢查所、陶磁器試驗場、穀物檢查所、木炭檢查所、縣病院、媚菽病院ヲ謂ヒ廳牌長ト稱スルハ廳牌ノ首長ヲ謂フ

第三條　仕拂命令若ハ仕拂切符ヲ發スル官吏吏員又ハ職員ハ縣金庫ニ於テ現金仕拂上照較ニ供スル爲ニ其ノ印鑑ヲ關係ノ金庫ニ送付スヘシ仕拂命令若ハ仕拂切符ニ押捺スル證印ノ印鑑ニ就テモ亦同シ

第二章　歲入

第四條　縣廳外各廳廳ノ主掌ニ屬スル歲入ノ收入命令ハ會計規則第二十五條第一項ニ依リ之ヲ其ノ廳廳長ニ委任ス但シ商品陳列館ニ屬スル歲入ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　歲入ヲ徵收セムトスルトキハ收入命令者之ヲ調定シ特別ノ事由アルモノノ外十五日以內ニ於テ適宜納期日ヲ定ムヘシ

第六條　收入命令者ハ會計規則第七條ニ依リ出納吏ヨリ歲入金領收濟ノ通知ヲ受ケタルトキ又ハ同則第八條ニ依リ縣金庫ヨリ納入歲入ノ拂込金領收濟ノ通知ヲ受ケタルトキハ卽日其ノ收入濟額ヲ帳簿ニ登記スヘシ

第七條　收入命令者ハ會計規則第六條第二項又ハ恩給法第十八條ニ依ル市町村納付金收納規則第一條第二項ニ依リ町村長ヨリ歲入金拂込ノ報告ヲ受ケタルトキハ拂込ノ日附ヲ以テ其ノ收入濟額ヲ帳簿ニ登記スヘシ

第八條　納人ニ於テ現金ヲ縣金庫ニ拂込前徵稅令書、賦課令書又ハ納額告知書ヲ亡失シタルトキ若ハ汚損シテ其ノ用ヲ爲ササルモノアルトキハ收入命令者ハ再ヒ之ヲ調製シ其ノ欄外ニ「最ノ令書(告知書)亡失(汚損)ニ付何月何日再發」ト朱記シテ之ヲ納人ニ交付スヘシ但シ其ノ令書又ハ告知書ニハ最ニ發シタルモノト同一ノ年月日番號及納期日ヲ記載スルモノトス

第九條　歲入金領收濟通知書又ハ拂込報告書紛失等ノ場合ニ於テ收入命令者其ノ收入ノ金額ヲ卽日帳簿ニ登記セサリシコトヲ發見シタルトキハ適宜ノ式ニ依リ更ニ領收濟ノ通知又ハ報告ヲ爲サシメ其ノ收入金額ヲ帳簿ニ登記スヘシ

第十條　徵稅令書、賦課令書、納額告知書、納付書ニ依リ現金ヲ縣金庫ニ拂込又ハ郵便振替貯金ノ方法ニ依リ縣金庫ニ納入濟ノ後該令書、納付書、告知書、拂込書又ハ振替貯金拂込通知票ニ記載シタル年度若クハ種目ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ收入命令者ニ於テ第一號樣式ノ更正書ヲ製シ之ヲ縣金庫ニ送付スヘシ

出納吏ハ現金拂込書ニ記載シタル年度若ハ種目ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ前項ニ準シ更正書ヲ製シ之ヲ縣金庫ニ送付シ同時ニ其ノ旨ヲ收入命令者ニ通知スヘシ出納吏ノ現金領收濟通知ノ誤謬ニ係ル場合ニ於テハ其ノ更正ヲ收入命令者ニ通知スルモノトス

第十一條　前條ノ外徵稅令書、賦課令書、納額告知書、納付書、拂込書及現金領收濟通知書又ハ歲入金還付ノ爲メ發シタル仕拂命令ノ誤謬ニ由リ歲入ニ錯誤ヲ生シタル場合ニ於テハ總テ前條ノ例ニ依リ之ヲ更正スヘシ

第十二條　收入命令者ハ歲入ノ調定濟ニ係ル收入金ニシテ翌年度五月三十日マテニ納付セサルモノアルトキハ之ヲ收入未濟トシテ其ノ金額ヲ翌年度五月三十日マテニ納付セサルモノアルトキハ之ヲ收入未

第十三條　歲出ノ返納告知書ニ對スル返納金ヲ翌年度五月三十日マテニ返納セサルモノアルトキハ其ノ金額ヲ明年度ノ歲入トシテ調定シ既ニ發シタル返納告知書ニ依リ之ヲ拂込マシタルモノトス

第三章　歲出

第十四條　（削除）

第十五條　會計規則第十六條第四項及第五項ノ金額氏名表ハ第二號樣式ニ依ル

第十六條　仕拂命令ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員又ハ職員ニ於テ仕拂命令ヲ發スルハ翌年度四月三十日限トス

第十七條　前條ノ期限ヲ過キ仕拂命令ヲ發スルノ必要アルトキハ事由ヲ詳具シ知事ノ認可ヲ請クヘシ

第十八條　仕拂命令者ハ仕拂命令ニ記載シタル年度若ハ種目ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ第一號樣式ノ更正書ヲ製シ之ヲ縣金庫ニ送付スヘシ

第十九條　返納告知書ヲ亡失汚損シ若ハ其ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ第八條乃至第十條ノ例ニ依ル

第二十條　集合仕拂命令送金仕拂命令及送金集合仕拂命令ヲ縣金庫ニ送付後受取人ニ現金交付前ニ於テ誤拂過渡ニ出テタルコトヲ發見シタルトキハ仕拂命令者ハ縣金庫ヲ納人トシ且其ノ仕拂命令ノ年月日番號及誤拂過渡ニ出テタル旨ヲ記載シタル誤拂過渡金額ノ返納告知書ヲ發スヘシ但シ受取人ニ交付スヘキ金額ノ幾部誤拂過渡ナルトキハ第三號樣式ノ更正書ヲ調製シ本條ノ告知書ニ添付スルモノトス

第二十一條　前條但書ノ更正書發付ノ場合ニ於テハ其ノ更正ノ送金額ニ對スル仕拂通知書ヲ製シ之ヲ受取人ニ交付シタル仕拂通知書ハ返還セシムルモノトス

第二十二條　送金仕拂命令及送金集合仕拂命令ニ對シ縣金庫ニ於テ受取人ニ現金交付前其ノ住所ノ變換又ハ住所氏名ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ仕拂命令者ハ第四號樣式ノ更正書ヲ製シ之ヲ縣金庫ニ送付スヘシ

集合仕拂命令ニ對スル受取人ノ氏名ヲ更正スルトキ又ハ住所ノ變更ニ依リ送金ヲ要スルニ至リタルトキ亦前項ノ例ニ依ル

第二十三條　仕拂命令者ハ第六十一條ニ依リ縣金庫ヨリ受取人ニ現金ヲ交付シ難キ旨申告ヲ受ケタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

第二十四條　仕拂命令者ハ第六十五條第一項ニ依リ縣金庫ヨリ屆書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ正當ナリト認ムルトキハ其ノ旨ヲ屆書ニ證明シテ縣金庫ニ還付スヘシ

第二十五條　仕拂命令者ハ送金ニ對スル仕拂通知書發付後受取人ヨリ該通知書ヲ縣金庫ニ發送前ニ於テ亡失シ又ハ汚損シテ其ノ要部ヲ認メ難キ旨ヲ申出タルトキハ再ヒ之ヲ調製シ其ノ欄外ニ「最ノ通知書亡失(汚損)ニ付再發」ト朱記シテ之ヲ受取人ニ送付スヘシ

第二十六條　仕拂命令者ハ第七十條ニ依リ縣金庫ヨリ仕拂未濟ノ申告ヲ受ケタルトキハ歲出金定額戻入ノ例ニ準シ卽日其ノ仕拂ヲ取消スヘシ

第四章　雜部金

第二十七條　雜部金ノ種類左ノ如シ

一　本縣ノ經濟ニ屬スル工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ係ル保證金

二　歲入金滯納處分ノ差押金及物件公賣代金

三　他廳ノ委託ニ由ル滯納處分ノ徵收金

四　右ノ外法律命令其ノ他ノ規定ニ依リ本縣ニ於テ保管ヲ義務ヲ有スル公有金私有金

第二十八條　雜部金ハ當該廳長之ヲ管理スルモノトス

第二十九條　雜部金ヲ收納セムトスルトキハ廳長ハ第五號樣式ノ拂込通知書ヲ製シ之ヲ納人ニ交付シ納人ヨリ之ヲ添ヘ納金ヲ縣金庫ニ拂込マシムヘシ但シ納人ヲシテ出納吏ニ現金ヲ納付セシムル場合ニ於テハ拂込通知書ヲ發セサルモノトス

第三十條　雜部金ノ仕拂ヲ要スルトキハ廳長ハ縣金庫ニ向テ仕拂切符ヲ發スヘシ

第三十一條　仕拂切符ハ通常仕拂切符送金仕拂切符ノ二種トス

通常仕拂切符ハ第六號樣式ニ依リ受取人毎ニ之ヲ發シ受取人ヨリ縣廳直接仕拂ニ屬スルモノニ限リ別ニ定ムル方法ニ依ルコトヲ得

送金仕拂切符ハ遠隔ノ地ニ在ル受取人ニ仕拂ヲ要スルトキ第七號樣式ニ依リ之ヲ發シテ縣金庫ニ送付シ縣金庫ヲシテ受取人ニ送金シ仕拂ヲ爲サシムルモノトス

第三十二條　雜部金ヲ拂込人ニ還付スル場合ニ於テ徵スル領收證書ハ其ノ拂込ノトキ交付シタル縣金庫又ハ出納吏ノ領收證書ヲ徵スヘシ

領收證書ニ奏書ノ金員領收セシ旨裏書ヲ爲シ署名捺印シテ提出セシムヘシ但シ拂込金ノ一部ヲ還付スル場合ニ於テハ適宜ノ

第三十三條　前四條ノ外拂込通知書ハ納額告知書ニ仕拂命令ニ準スルモノトス

第三十四條　雜部金ハ其ノ拂込金ト同種ノ貨幣ヲ以テ仕拂ヲ要スルモノアルトキハ拂込通知書、拂込書及仕拂切符ニ其ノ

皆ヲ朱書スヘシ

第三十五條　雜部金ヲ歳入ニ編入セムトスルトキハ縣金庫ヲ受取人トシテ仕拂切符ヲ爲シ之ニ歳入金ノ納額告知書ヲ添附シテ縣金庫ニ送付シ其領收證書ヲ受クヘシ

第三十六條　縣廳外各廳廨長ハ毎年四月及十月ニ於テ前六ケ月間ノ雜部金受拂計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ第八章ノ規定ニ依リ其ノ月五日マテニ知事ニ提出スヘシ

第三十七條　競爭入札執行ノ場所ニ於テ直ニ拂戻ヲ要スル入札保證金ハ適宜之ヲ取扱フコトヲ得

第五章　出納吏及資金前渡

第三十八條　各廳廨ニ歳入ノ現金及雜部金ノ現金ヲ領收スル出納吏ヲ置ク

第三十九條　前條ノ出納吏ハ支廳ハ會計主任屬、市役所ハ市長、警察署ハ署長（岐阜、大垣警察署ハ上席警部）ヲ以テ之ニ充テ其ノ他ノ廳廨ハ別ニ之ヲ命ス

第四十條　仕拂命令ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員又ハ職員ニ於テ本縣ノ官吏吏員職員以外ノ者ニ資金前渡ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第四十一條　出納吏及資金ノ前渡ヲ受ケタル者ノ保管ニ屬スル現金ハ鎖鑰ヲ有スル堅牢ノ函ヲ備ヘ之ヲ格護スヘシ現金ヲ携帶シテ旅行スルトキハ前項ニ依ラサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ相當ノ保護ヲ爲スヘシ現金ハ私金ト混スルコトヲ得ス

第四十二條　出納吏ニ於テ現金ヲ領收シタルトキ發スル領收證書ハ第八號樣式ニ依ル但シ別段ノ規定アルモノ又ハ特ニ知事ノ認可ヲ經タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條　出納吏雜部金ノ現金ヲ領收シタル場合ニ於ケル會計規則第七條ノ通知ハ廳廨長ニ之ヲ爲スモノトス

第四十四條　會計規則第七條ノ拂込書ハ第九號樣式ニ依ル

第四十五條及第四十六條　（削除）

第四十七條　資金前渡ヲ受ケタル者ニ於テ債主ニ現金ノ仕拂ヲ爲スハ翌年度四月三十日限トス

第四十八條　出納吏交替シタルトキハ前任者ニ於テ現金出納簿最終記帳ノ下ニ合計金額及年月日ヲ記入シ署名捺印スヘシ

第四十九條　會計規則第四十八條ノ檢査立會者第五十條ノ事務引繼者及第五十五條ノ計算書調製者ハ廳廨長之ヲ命スヘシ

第六章　縣金庫

第五十條　縣金庫ノ名稱位置及出納區域ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第五十一條　縣金庫ニ於テ用ユル印章ハ曲尺凡ソ六分ノ角形トシ本金庫ハ（岐阜縣本金庫）支金庫ハ（岐阜縣某支金庫）ノ文字ヲ彫刻スヘシ但シ縣廳其ノ他ニ派出シ事務ヲ取扱フトキハ（某所若ハ第何號派出）ノ文字ヲ加ヘタル印章ヲ用ユルコトヲ得

第五十二條　縣金庫ハ金庫及事務取扱主任者ノ印鑑ヲ出納ニ關係アル官吏吏員又ハ職員ニ送付スヘシ

第五十三條　縣金庫ニ於テ領收スル現金ハ其ノ持參人ノ目前ニ於テ之ヲ鑑定スヘシ但シ贋造描改ノ通貨ヲ發見シタルトキハ明治九年第五十七號布告ニ依ルモノトス

第五十四條　縣金庫ニ於テ仕拂ニ用ユル現金ハ其ノ金庫在合ノ通貨ヲ以テスヘシ但シ雜部金ニシテ其ノ拂込金ト同種ノ貨幣ヲ以テ拂戻ヲ要スルコトアルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十五條　縣金庫ニ於テ領收シタル各廳廨雜部金ノ現金ハ其ノ廳廨雜部金ノ仕拂基金ニ充ツルモノトス

第五十六條　縣金庫ハ徵稅令書、賦課令書、納額告知書、納付書又ハ拂込書ヲ添ヘ歳入金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ之ヲ領收シ該令書納付書告知書拂込書及其ノ別符ニ規定ノ如ク領收ノ年月日及金庫名ヲ記入シ金庫及取扱主任者ノ印ヲ捺シ之ヲ切離シテ令書納付書告知書拂込書ハ金庫ニ留置キ領收證書ハ拂込人ニ交付シ領收濟通知書ハ收入命令者ニ送付スヘシ縣本金庫ニ於テ郵便振替貯金ノ方法ニ依リ歳入金ノ納入ヲ受ケタルトキハ之ヲ領收シ拂込通知書ニ到著ノ年月日ヲ記入シ置クヘシ

第五十七條　縣金庫ハ會計規則第二十七條ノ令達ヲ受ケタルトキハ其ノ仕拂豫算額ヲ歳出金口譯簿ニ登記スヘシ

第五十八條　縣金庫ハ送金仕拂命令ヲ受ケタルトキ其ノ命令方式ニ違ヒ又ハ命令ニ添付シタル金額氏名表ノ金額ト符合セサルトキ若ハ仕拂豫算ニ超過スルトキハ直ニ事由ヲ具シ仕拂命令者ニ返付スヘシ

送金仕拂命令、集合仕拂命令若ハ送金集合仕拂命令ニ對シテハ其ノ領收證書ヲ仕拂命令者ニ送付スヘシ

第五十九條　通常仕拂命令ヲ持參シ現金ノ仕拂ヲ請求シタルトキハ縣金庫ハ現金交付濟ノ上仕拂命令ノ表面ニ何年何月何日交付濟ナルコトヲ記シ置クヘシ

第六十條　縣金庫ハ送金仕拂命令若ハ送金集合仕拂命令ニ對シ仕拂ヲ爲ストキハ普通仕拂ノ順序ニ依リ卽日之ヲ拂出シ受取人ニ送金シ領收ノ旨奥書ヲ爲シタル會計規則第十九條第二項ノ仕拂通知書ヲ徵スルモノトス但シ官廳又ハ公署ニ送金スル場合若ハ電信爲換ヲ以テ送金スル場合ニ於テハ受取人ヨリ適宜ノ領收證書ヲ徵スルコトヲ得

第六十一條　前條ニ依リ送金ノ手續ヲ爲シタルモ事故アリテ受取人ニ交付シ難キトキハ其ノ旨仕拂命令者ニ申告シ其ノ指定ニ依リ處理スヘシ

第六十二條　集合仕拂命令ニ對シ會計規則第十九條第二項ノ仕拂通知書ヲ持參シ現金ノ仕拂ヲ請求スル者アルトキハ縣金庫ハ其ノ集合仕拂命令ニ添付シタル金額氏名表ニ對査シ該通知書ニ領收ノ旨奥書ヲ爲サシメ其ノ金庫ヲ交付シ直ニ金額氏名表ニ何年何月何日交付濟ナルコトヲ記入シ置クヘシ

第六十三條　縣金庫ハ返納告知書ヲ添ヘ現金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第五十六條ノ手續ヲ爲シ領收濟通知書ハ仕拂命令者ニ送付スヘシ

第六十四條　縣金庫ハ第十條第十一條第十八條第十九條ニ依リ更正書ノ送付ヲ受ケタルトキハ卽日其ノ更正ヲ現金出納簿其ノ他ノ帳簿ニ登記スヘシ

第六十五條　縣金庫ハ通常仕拂命令又ハ仕拂通知書亡失ノ旨ヲ申出又ハ汚損シテ其ノ再發ヲ請ハシメ若ハ適宜ノ領收證書ヲ差出サシムルコトヲ得又領收ノ旨奥書ヲ爲シタル仕拂通知書ヲ金庫ニ回送ノ途中亡失又ハ汚損セシ場合ニ於テハ受取人ヲシテ現金ヲ領收シタル旨ノ證明書ヲ差出サシムヘシ

第六十六條　縣金庫ハ第二十條ニ依リ誤拂過渡金ノ返納告知書ヲ受ケタルトキハ當該仕拂命令ニ對査シ之ヲ戻入スヘシ但シ同條但書ニ依リ更正書ノ添付アルトキハ其ノ更正金額ヲ受取人ニ交付スルモノトス

第六十七條　縣金庫ハ第二十二條第一項ノ更正書ヲ受ケタルトキハ當該仕拂命令ニ對査シ最ノ仕拂命令ニ依リ拂出シタル金額ヲ其ノ更正書ニ依リ送付スルモノトス

第六十八條　縣金庫ハ受取人ヨリ徵シタル第六十條第六十二條第六十五條ノ仕拂命令者ニ送付スヘシ

第六十九條　縣金庫ハ翌年度五月三十一日ヲ過キ納入ヨリ徵稅令書、賦課令書、納額告知書、納付書若ハ返納告知書ヲ添ヘ現金ノ拂込ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度ノ歲入ニ編入シ其ノ旨ヲ領收濟通知書ニ附記シテ收入命令者ニ送付スヘシ

第七十條　縣金庫ハ集合仕拂命令ニ對シ翌年度五月三十一日マテニ現金仕拂濟ノモノアルトキハ定額戻入ノ例ニ依リ卽日其ノ金額ヲ歲出金口譯簿ニ登記シ同時ニ其ノ旨ヲ仕拂命令者ニ申告スヘシ

第七十一條　縣金庫ハ雜部金ノ拂込通知書又ハ拂込書ヲ添ヘ現金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第五十六條ノ手續ヲ爲シ領收濟通知書ハ聽廳長ニ送付スヘシ

第七十二條　縣金庫ハ雜部金ノ通常仕拂切符若ハ送金仕拂切符ニ對シ仕拂ヲ爲スノ手續ハ第五十八條乃至第六十一條及第六十四條乃至第六十八條ノ例ニ依ルモノトス

第七十三條　縣金庫ニ於テ現金ノ出納ヲ爲シタル徵稅令書、賦課令書、納額告知書、納付書、拂込通知書、拂込書、拂込

通知票、返納告知書及仕拂命令仕拂切符其ノ他ノ書類ハ一箇月分ヲ取纏メ合計書ヲ添付シ帳簿上ノ金額ニ對査シ帳簿ト俱ニ五箇年間之ヲ保存スヘシ

第七十四條　會計規則第六十條ニ依リ縣金庫ノ調製スヘキ計算表ハ支金庫ニ在リテハ第十二號樣式ニ本金庫ニ在リテハ第十二號樣式ニ依ル

第七十五條　會計規則第六十一條ニ依リ縣金庫ノ調製スヘキ月計對照表ハ歲入金ニ在リテハ第十三號樣式ニ歲出金ニ在リテハ第十四號樣式ニ雜部金ニ在リテハ第十五號樣式ニ依リ毎年四月二日及十月二日マテニ其ノ前六ケ月間ノ受拂對照表ヲ收支命令者ニ提出スヘシ

第七十六條　縣金庫ハ毎月十日、二十日、末日ニ於ケル出納總括簿及現金各地支金庫內譯簿ニ依リ第十六號樣式ノ殘高表ヲ調製シ各其ノ翌日マテニ知事ニ提出スヘシ

第七十六條ノ二　縣本金庫ニ於ケル歲入歲出金ノ決算ヲ爲スヘキ場合ハ知事之ヲ命達ス

縣本金庫ニ於テ前項ノ命達ヲ受ケタルトキハ卽日出納總括簿中種目毎ニ決算年度歲入金口座ノ殘高ノ內ヨリ歲出金口座ノ殘高ヲ控除シタル金額ヲ其ノ年度ノ歲出トシテ拂出シ之ヲ翌年度當該種目ノ歲入ニ組入ルヘシ此ノ場合ニ於テハ現金出納簿其ノ他ノ帳簿ニ登記シ尙ホ出納總括簿中種目毎ニ決算年度ニ於ケル歲入金口座ノ殘高ヲ歲出金口座ノ貸方ニ各之ヲ登記スルモノトス

第七章　帳簿

第七十七條　會計規則第六十四條ニ依リ縣總ニ備フル歲入主計簿ハ第十七號樣式ニ歲出主計簿ハ第十八號樣式ニ縣金庫現金出納額總括簿ハ第二十一號樣式ニ依ル

第七十八條　會計規則第六十五條ニ依リ收入命令者ノ備フル歲入簿ハ第二十二號樣式ニ歲入內譯簿ハ第二十三號樣式ニ依ル

第七十九條　會計規則第六十六條ニ依リ仕拂命令者ノ備フル歲出簿ハ第二十四號樣式ニ歲出內譯簿ハ第二十五號樣式ニ依ル

第八十條　會計規則第六十七條ニ依リ出納吏及資金前渡ヲ受ケタル者ノ備フル現金出納簿ハ第二十六號樣式ニ依ル但シ臨時ニ資金前渡ヲ受ケタル者ノ備フル現金出納簿ハ本條ノ樣式ニ依ラサルモ妨ケナシ

第八十一條　會計規則第六十八條ニ依リ縣金庫ノ備フル現金出納簿ハ第二十七號樣式ニ歲入金口譯簿ハ第二十八號樣式甲、乙ニ歲出金口譯簿ハ第二十九號樣式ニ依ル但シ第二十八號樣式乙ノ帳簿ハ縣本金庫ニ限リ備フルモノトス

第八十二條　會計規則第六十九條ニ依リ縣本金庫ノ備フル出納總括簿ハ第三十號樣式甲、郵便振替貯金整理簿ハ第三十號樣式乙ニ歲入各地支金庫內譯簿ハ第三十一號樣式ニ歲出各地支金庫內譯簿ハ第三十二號樣式ニ依ル

第八十三條　會計規則第七十條ニ依リ縣支金庫ノ備フル回送金整理簿ハ第三十三號樣式ニ各縣金庫回送金整理簿ハ第三十四號樣式ニ依ル

第八十四條　縣總ニ於テハ會計規則ニ依リ備フル帳簿ノ外基本金ノ原簿及預ケ金口譯簿貸附金口譯簿ヲ備フルモノトス

基本金ノ原簿ハ第三十五號樣式ニ依リ經濟毎ニ調製シ財產ノ種類ヲ區分シ其ノ受拂額及殘額ヲ登記スルモノトス

預ケ金口譯簿ハ第三十六號樣式ニ依リ經濟毎ニ調製シ預ケ先ヲ區分シ其ノ預ケ入額引出額及殘額ヲ登記スルモノトス

貸附金口譯簿ハ第三十七號樣式ニ依リ經濟毎ニ調製シ貸附先ヲ區分シ其ノ貸附額償還額及殘額ヲ登記スルモノトス

第八十五條　收入命令者ハ會計規則ニ依リ備フル帳簿ノ外第三十八號樣式ノ出納吏現金領收額整理簿ヲ備ヘ年度及經濟ヲ區分シ出納吏ノ現金收入額縣金庫ニ拂込額及拂込未濟額ヲ登記スヘシ但シ本條ノ帳簿ハ他ノ帳簿若ハ書類ヲ以テ代用スルコトヲ得

第八十六條　仕拂命令者ハ會計規則ニ依リ備フル帳簿ノ外第四十號樣式ノ概算拂及資金前渡整理簿ヲ備ヘ科目ヲ區分シ支出額精算額戻入額及未精算額ヲ登記スヘシ

第八十七條　總廳長ハ第四十一號樣式ノ雜部金受拂簿ヲ備ヘ雜部金ノ種目ヲ區分シ其ノ受入額仕拂額及殘額ヲ登記スヘシ

前項ノ外出納吏現金領收額整理簿ヲ備フルヘシ

第八十八條　縣金庫ハ會計規則ニ依リ備フル帳簿ノ外第四十二號樣式ノ雜部金口譯簿ヲ備ヘ縣廳ヲ區分シ雜部金ノ受入額仕拂額及殘額ヲ登記スヘシ

第八十九條　縣本金庫ハ會計規則ニ依リ備フル帳簿ノ外第四十三號樣式ニ依リ各經濟別冊ニ歲入調定額計算書ハ第四十五號樣式ニ依リ雜部金ノ受入額仕拂額及殘額ヲ登記スヘシ

第九十條　會計規則第十條ノ收入計算書ハ第四十四號樣式ニ依リ調製スヘシ

收入計算書ニハ附屬樣式ニ依リ金額事由ヲ詳記シタル雜收金調定內譯書及缺損金明細書ヲ製シ添付スヘシ其ノ年度最終ノ收入計算書中收入未濟額アルトキハ附屬樣式ニ依リ金額事由及督促ノ顚末ヲ詳記シタル未收入明細書ヲ製シ添付スヘシ

歲入調定額計算書ニハ附屬樣式ニ依リ金額事由ヲ詳記シタル明細書ヲ製シ添付スヘシ

第九十一條　會計規則第二十四條ノ支出計算書ハ第四十六號樣式ニ依リ各經濟別冊ニ調製スヘシ

罹災救助基金ノ支出計算書ニハ一ノ災害ニ對スル救助金ノ支出ヲ終リタル月ニ於テ附屬樣式ニ依リ金額事由ヲ詳記シタル救助明細書ヲ製シ添付スヘシ

第九十二條　會計規則第五十二條ノ現金出納計算書ハ第四十七號樣式ニ依リ調製シ本屬縣廳長ヲ經テ提出スヘシ

縣廳長ハ前項計算書ヲ調査シ意見アレハ之ヲ知事ニ申告スヘシ

第九十三條　會計規則第五十三條ノ仕拂計算書ハ第四十八號樣式ニ依リ各款別冊ニ調製スヘシ

第九十四條　第三十六條ノ雜部金受拂計算書ハ第四十九號樣式ニ依ル

第九十五條　收支命令者若ハ縣廳長交替スルモ會計規則第十條第二十四條及本則第三十六條ノ計算書ハ後任者ニ於テ前任者ノ取扱額ヲ併セ調製スヘシ

第九十六條　收入計算書ニ添付スヘキ證憑書ハ左ノ書類トス

第一　競爭契約ヲ爲シタルモノハ其ノ契約書、公告書謄本豫定價格書　落札以下三番札マテ但シ再入札ニ付シタルモノハ當初入札ノ最高價格以下三番札マテヲモ添付スヘシ

第二　隨意契約ヲ爲シタルモノハ其ノ契約書及隨意ノ契約ニ依リタル事由書但シ會計規則第二十九條第二項第八第十二及第十三ニ揭クルモノハ本項ノ書類ヲ要セス

第九十七條　收入計算書ハ過誤納ノ拂戾金ヲ其ノ年度ノ歲入ヨリ還付シタルトキハ受取人ノ領收證書ヲ添付スヘシ

前項ノ領收證書ニハ其ノ還付金ノ性質還付ノ事由及金額算出ニ係ル事項ヲ示スヘシ

第九十八條　前二條ニ揭クル書類ノ外左ノ書類ハ歲入金ノ調定又ハ收入ノ證憑トシテ其ノ全部又ハ一部ヲ指定セシトキ之ヲ提出スヘシ

第一　縣稅ノ調定ニ就テハ課稅ニ關スル官廳又ハ公署ノ通報書其ノ他納稅人ノ願書及屆書

第二　前項外ノ歲入金調定ニ就テハ收入ニ關スル上司ノ命令書、認許書又ハ納人ニ對スル指令ノ原議書等歲入金調定ノ基礎トナリシ書類

第三　歲入金ノ收入ニ就テハ縣金庫又出納吏ノ領收濟通知書町村長ノ拂込報告書

第四　滯納處分ヲ爲セシモノハ財產賣却調書及其ノ處分ノ執行ヲ止メタルモノアルトキハ之ニ關スル書類但シ本項ノ書類ニハ滯納者ノ住所氏名及各人別ノ種目、金額、差押物件賣却代價、差押通貨、處分費及納金引去高、債主又ハ滯納書ニ交付ノ金額ヲ記載シタル明細書ヲ調製シ添付スヘシ

第九十九條　支出計算書ニ添付スヘキ證憑書ハ債主ノ領收證書及左ノ書類トス但シ資金前渡ニ對シテハ前渡ヲ受ケタル者ノ領收證書及其ノ精算ニ係ル證憑書ヲモ添付スヘシ

第一　競爭契約ヲ爲シタルモノハ其ノ契約書、公告書謄本、豫定價格書、落札以下三番札マテ但シ再入札ニ付シタルモ

ノハ當初入札ノ最低價格以下三番札マテチモ添付スヘシ

第二　隨意契約ヲ爲シタルモノハ其ノ契約書及隨意ノ契約ニ依リタル事由書ヲ要セス

九及第十一ニ揭クルモノハ本項ノ事由書ヲ要セス

第三　工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完濟前ニ其ノ代價ヲ仕拂ヒタルモノハ主務員ノ證明書

第四　旅費又ハ其ノ他ノ實費ヲ支給シタルモノハ其ノ實費額ヲ認定シ得ヘキ書類

第五　歲出ノ過誤拂其ノ他ノ返納金ヲ其ノ年度ノ定額ニ戻入シタルトキハ縣金庫ノ領收濟通知書但シ本項ノ通知書ニハ返納ノ事由及金額算出ニ係ル事項ヲ詳記シタル說明書ヲ製シ添付スヘシ

第百條　現金出納計算書ニ添付スヘキ證憑書ハ左ノ書類トス

第一　受入金ニ對シテハ其ノ受入命令書又ハ決議書

第二　仕拂金ニ對シテハ縣金庫ノ領收證書

第百一條　仕拂計算書ニ添付スヘキ證憑書ハ支出計算書ノ例ニ依ル

第百二條　雜部金受拂計算書ニ添付スヘキ證憑書ハ左ノ書類トス

第一　受入金ニ對シテハ縣金庫及出納吏ノ領收濟通知書但シ出納吏ヨリ縣金庫ニ拂込金ノ領收濟通知書ハ添付ヲ要セス

第二　仕拂金ニ對シテハ受取人ノ領收證書

第百三條　第九十九條ノ債主ノ領收證書ニハ左ノ事項ヲ附記スヘシ但シ契約書又ハ其ノ他ノ附屬書類中本條ニ揭クル事項ヲ記載シアルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一　年金ノ額ハ其ノ年額、所屬年月日其ノ支給ノ始期ニ係ルモノハ年額算出ニ要スル事項及辭令ノ年月日又支給ヲ止メタルモノハ其ノ事由

第二　俸給ノ類ハ官職俸給又ハ俸額及所屬ノ年月其ノ他左ノ事項

一　新任轉任增俸減俸ノモノハ發令ノ年月日其ノ任命ニ係ル資格又ハ增俸ニ係ル年限ノ規定アルモノハ仍其ノ實若ハ前俸額令達ノ年月日

一　休職屬官罷免ノモノハ發令ノ年月日其ノ特ニ命ヲ受ケ事務引繼殘務取調等ニ從事シタルモノハ仍其ノ旨及該事務ヲ了リタル月日

一　病氣其ノ他私事ノ故障ニ由リ缺勤シ爲ニ減俸ノモノ又ハ軍籍ニ在ル者陸海軍ノ召集ニ應シ爲ニ俸給ノ支給ヲ止メ若ハ減俸シタルトキハ其ノ事故起終ノ年月日

一　國庫納金ヲ引去リタルモノハ其ノ金額

一　日給ニ對シテハ前ニ揭クル事項ノ外仍缺勤セシ月日

第三　旅費ハ其ノ旅行ノ用務、年月日、日數、用務地及其ノ用務地間ノ各路程但シ迂路ヲ經テ旅行シ又ハ病氣滯在等公務外ノ時日ヲ要シタルトキ若ハ舟車馬賃ノ實費弥又ハ割增支給ヲ許可シタルモノハ其ノ事項ノ詳細ヲモ示スヘシ

第四　給仕小使給料ノ類ハ第二ニ揭クル事項、職工人夫其ノ他舟車馬ノ傭入料ノ額ハ其ノ傭入ヲ要セシ事由、傭入月日及一日ノ賃額但シ書類其ノ他物品遞送等ノ爲ニ傭入タル人夫賃ノ如キ路程ヲ標準トシ賃額ヲ定メタルモノハ其ノ路程、發著場所及賃額ノ割合ヲモ示スヘシ

第五　賜金手當金謝金ノ類ハ左ノ事項但シ其ノ支給ノ辭令ヲ發セル者ハ發令ノ年月日ヲモ示スヘシ

一　賞賜金ノ類ハ其ノ賞賜シタル事由、謝金ノ類ハ其ノ支給ヲ要セシ事由

一　手當金ノ類ハ其ノ支給ヲ要セシ事由且其ノ月額ヲ以テセルモノハ所屬ノ年月、日額ヲ以テセルハ所屬ノ月日

一　死傷手當、祭祀料、遺族扶助料、療治料ノ類ハ其ノ死傷ノ事實ヲ示シ醫師ノ檢按書ヲ添フヘシ

一　醫師ノ診察料、施術料ノ類ハ其ノ診察又ハ施術ヲ要セシ事由及回數

第六　新聞紙廣告料ノ類ハ其ノ廣告ノ事件及年月日廣告書ノ行數一日一行ニ對スル料金額

第七　飜譯料寫字料ノ類ハ其ノ書類ノ名稱紙數又ハ行數及一枚又ハ一行ニ對スル料金額

第八　製本料、印刷料及表裝代ノ類ハ其圖書又ハ帳簿ノ名稱數量及料金算出ニ要スル事項

第九　物品代ハ每品ノ種類數量、受入ノ年月日及單價且官報新聞紙代ノ類ハ其ノ發行ノ年月但シ個數ニ付價格ヲ定メタルモノハ其ノ個數ニ對スル價格又割引ニ係ルモノハ其ノ旨ヲ示スヘシ

第十　被服料、賄料ノ類ハ其ノ所屬ノ年月及左ノ事項

一　被服料ノ內被服ノ個數ヲ標準トシ料金ヲ支給セルモノハ其ノ個數又受給者每ニ支給ノ時期ヲ定ムルモノハ當初支給ノ年月

一　宿直及徹夜勤務ノ賄料ハ各々其ノ度數

第十一　運搬賃ハ其ノ運搬物ノ名稱、發著場所、路程、斤量及賃金算出ニ要スル事項

第十二　物件ノ借料ハ其ノ借入物件ノ名稱數量、所用ノ事由所屬ノ年月日及料金算出ニ要スル事項

第十三　土木建築ノ類ニシテ受負事業ニ係ルモノハ其ノ仕樣及竣功ノ要領、契約及竣功ノ月日

第十四　救助費ノ額ハ總テ救助ヲ要セシ事由所屬ノ年月日及左ノ事項

一　年額月額又ハ日額ヲ以テスルモノハ其ノ額

一　糧料ヲ以テスルモノハ其ノ數量價格又年齡ニ依リ給額ヲ異ニスルモノノ如キハ其ノ年齡

一　行旅病人及死亡人ノ費用ヲ辨給シタルトキハ其ノ原籍及轉給ヲ要シタル事由、又原籍不分明ノモノハ其ノ罹災ノ公告ヲ爲シタル年月日

第十五　補助費ハ補助ヲ要セシ事由及補助ノ達ヲ爲シタル年月日且事業費額ヲ標準トシ補助額ヲ定ムルモノノ如キハ其ノ費額及事業ノ要領

第十六　概算拂ノ精算ニ係ル追拂金領收證書其ノ他ノ精算證書ニハ其ノ精算全部ノ明細及概算拂金トノ對比計算ヲ詳悉スルヲ要ス

第十七　物件ノ用法ニ依リ費目ヲ異ニスル性質ノモノハ其ノ用法ヲモ示スヘシ

第十八　證憑書中所屬ノ年度ヲ認メ難キモノハ其ノ所屬ヲ認メ得ヘキ事項ヲモ示スヘシ

本條ニ示ササル事項若ハ本條ニ依リ難キ事項ハ適宜ノ方法ヲ以テ各々其計算ノ基ク所ヲ示スヘシ又事項複雜ニ渉ルモノハ明細書ヲ製シ添付スヘシ

第百四條　證憑書中外國文ヲ以テ記載シタルモノアルトキハ其ノ譯譯書ヲ添付シ又特種ニ係ル事項ニシテ上司ノ命令又ハ認許ヲ受ケタルモノハ其ノ年月日事由ヲ附記スヘシ

第百五條　證憑書類中原本ヲ提出シ難キモノハ當該者ノ保證アル謄本ヲ以テシ又事實受取人ノ證書ヲ得難キモノハ其ノ金額事由ヲ詳記シタル仕拂證明書ヲ以テスヘシ

第百六條　證據書類中他ノ計算證明上既ニ提出セシモノアルトキハ其ノ所屬ノ金額事由及其計算證明上提出セシ旨記載シ〆ル摘要書ヲ以テスヘシ

第百七條　第九十六條第九十七條及第九十九條ノ書類ハ左ノ各項ニ依リ區分編纂シ表紙ヲ附シ之ニ各目ノ合計金額所屬年度及年月、證書ノ紙數、書冊ノ番號ヲ記載スヘシ但シ一ノ證書ニシテ甲乙ノ經濟若ハ科目ヲ混シタルモノハ其ノ旨ヲ朱記シテ之ヲ一方ニ編入シ他ノ一方ニハ前條ニ準シ摘要書ヲ製シテ編入スヘシ又本項ニ依リ難キモノアルトキハ適宜分類スルモノトス

第一　第九十六條及第九十七條ノ書類ハ每目ニ區分シテ目紙ヲ附シ每經濟別冊ト爲スヘシ

第二　第九十九條ノ書類ハ每目ニ區分シテ目紙ヲ附シ每款別冊ト爲スヘシ但シ過誤拂其ノ他ノ返納金ノ定額戻入ニ係ル證憑書、資金前渡ヲ受ケタル者ノ領收證書及其ノ精算ニ係ル證憑書ハ各々之ヲ別冊ト爲スヘシ

第九十八條ノ書類ハ適宜分類編纂シ表紙ヲ附シ之ニ書類ノ名稱及紙數ヲ記載スヘシ但シ簿冊ヲ成セシモノハ本項ノ區分ヲ要セス

第百五條及第百二條ノ書類ハ計算書ニ揭クル事項每ニ區分シテ目紙ヲ附シ受入ト仕拂トヲ別冊ニ編纂シ表紙ヲ附シ之ニ

各事項ノ合計金額、所屬ノ時期、證憑書ノ紙數及書冊ノ番號ヲ記載スヘシ

第百八條　計算書提出ノ期ニ臨ミ到達セサル領收證書アルトキハ第五十號樣式ノ領收證書未到達明細書ヲ製シ計算書ニ添付シ爾後到達ニ從ヒ該明細書毎ニ取纏メ前條ノ區分ニ依リ編纂シ之ヲ提出スヘシ

翌年度六月十日マテニ到達セサル證書アルトキハ其ノ事由書ヲ製シ三日以內ニ提出スヘシ

第百九條　證憑書中必用ニシテ返付ヲ要スルモノアルトキハ該書類提出ノトキ其ノ旨申告スヘシ

第九章　檢　査

第百十條　出納吏、資金ノ前渡ヲ受ケタ者又ハ縣金庫ハ其ノ保管ニ屬スル現金及帳簿ノ檢査員臨檢ノトキハ何時ニテモ其ノ檢査ニ應スヘシ

第百十一條　會計規則第四十六條ノ定期檢査及出納吏、資金ノ前渡ヲ受ケタ者轉免死亡停職ノトキニ於ケル臨時檢査ノ檢査員ハ應廨長之ヲ命スヘシ

第百十二條　會計規則第四十六條及第六十三條ノ檢査ハ前ノ檢査後ニ屬スル出納ヲ檢査スルモノトシ其ノ定期檢査ハ檢査當日ノ出納ヲ了リタルトキニ於テ之ヲ行フモノトス

第百十三條　檢査員ハ出納吏、資金ノ前渡ヲ受ケタ者又ハ縣金庫ヲシテ第五十一號樣式ノ現金受拂計算書ヲ提出セシメ帳簿及保管ノ現在金ト對査スヘシ

第百十四條　檢査員ハ現金出納ノ手續書其ノ他ノ事項例規ニ反スルコトナキヤヲ檢査スヘシ

第百十五條　檢査員ハ必要ト認ムル書類ヲ點檢シ又明細書若ハ說明書ヲ提出セシムルコトヲ得

第百十六條　檢査員ハ現金及帳簿ノ檢査ヲ了リタルトキハ現金出納簿表紙ノ裏面ニ何年何月何日マテノ出納檢査濟ナルトヲ記載シ署名捺印スヘシ

第百十七條　檢査員ハ檢査ノ顚末ヲ詳記シタル檢査報告書ヲ調製シ第百十三條ノ現金受拂計算書ヲ添ヘ檢査ヲ了リタルヨリ三日以內ニ知事ニ提出スヘシ但シ第百十一條ニ依リ命シタル檢査員ノ檢査報告書ハ其ノ應廨長ヲ經由スヘシ

出納吏、資金ノ前渡ヲ受ケタ者又ハ縣金庫保管ノ現金亡失其ノ他異狀アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事項ヲ知事ニ急報スヘシ

第十章　附　則

第百十八條　此ノ細則ハ本年岐阜縣令第四十號岐阜縣會計規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第百十九條　明治二十八年訓第七十七號訓令岐阜縣會計規則及現行ノ訓令達中此ノ細則ニ牴觸スル條項ハ總テ廢止ス

○第一號樣式　用紙適宜半紙判（第十條、第十八條參照）　△印ハ朱書以下同シ

徵稅令書（何々）（仕拂命令「及案內仕拂命令」）ノ年度「種目」更正書

明治何　何月何日

徵稅令書（何々）第何號

一金何程

但明治何年度縣稅（何々）

△此更正年度（種目）

△明治何年度（罹災救助基金「何々」）

右朱書ノ通更正ヲ要ス

明治何年何月何日

岐阜縣某金庫宛

何某拂（渡）ノ分

收支命令者官（職）氏名㊞

○第二號樣式　用紙適宜半紙判（第十五條參照）

明治何年度縣稅（何々）集合（送金集合）仕拂命令第何號金額氏名表

一金　何　程

內　譯

「送金ヲ要セサル者ハ此ノ欄ヲ設ケサルモノトス

金額		番號	送金先場所	債主氏名
壹〇	〇〇〇	一	何府縣郡市町村番地	何某
同		二	何郡何市町村番地	何某
貳參	四五六	三	同	何某

明治何年何月何日

仕拂命令者官（職）氏名㊞

備　考　金額ノ數字一二三ハ壹貳參ノ字體ヲ用ウヘシ

○第三號樣式　用紙適宜半紙判（第二十條參照）

送金仕拂命令（何々）ノ金額更正書

明治何年何月何日

送金仕拂命令第何號（何々第何號金額氏名表第何號）

一金何程

但明治何年度縣稅（何々）

（何地）

何某渡ノ分

△內金何程

△殘金何程

△更正金額

△受入ヲ要スル分

右送金仕拂命令（何々）金額ノ內前書內書ノ金額ヲ交付シ殘金ハ返納告知書ニ依リ受入ヲ要ス

明治何年何月何日

仕拂命令者官（職）氏名㊞

岐阜縣某金庫宛

○第四號樣式　用紙適宜半紙判（第二十二條參照）

送金仕拂命令（何々）受取人住所、氏名）更正書

明治何年何月何日

送金仕拂命令第何號（何々第何號金額氏名表第何號）

一金何程

但明治何年度縣稅（何々）

（何地）

何某渡ノ分

△右更正住所氏名

△何地（何某）

右朱書ノ通更正ス

明治何年何月何日

仕拂命令者官（職）氏名㊞

岐阜縣某金庫宛

○第五號樣式
用紙適宜縱六寸二分
橫三寸八分ノモノ三枚接續

拂込通知書

第何號	雜部金

一金何程

但何々　拂込ノ目的ヲ記載スヘシ）

大正何年何月何日領收○「縣金庫主任ノ印

右大正何年何月何日限岐阜縣某金庫ニ拂込マルヘシ

大正何年何月何日

何某宛

聽牒長官（職）氏　名㊞

領收濟通知書

第何號	雜部金

一金何程　○一縣金庫主任ノ印

但何々（前ニ同シ）

右大正何年何月何日領收

聽牒長官（職）氏名宛

岐阜縣某金庫㊞

縣金庫割印

何某拂込

縣金庫割印

領收證書

第何號	雜部金	某廳廨扱

一金何程 ○一縣金庫主任ノ印

但何々(前ニ同シ)

右領收候也

大正何年何月何日

何某宛

岐阜縣某金庫㊞

備考

一、領收濟通知書及領收證書用紙ノ拂込金額其ノ他ノ事項ハ總テ通知書調製者ニ於テ記入スルモノトス

二、拂込金ヲ拂戻ノトキ領收ノ旨裏書ヲ爲サシムヘキモノハ通知書調製者ニ於テ領收證書用紙欄外ニ「此ノ證書ノ金員拂戻ヲ受クルトキハ裏面ニ領收ノ旨ヲ記載シ署名捺印シテ取扱廳ニ差出スヘシ」ト附記スヘシ

通常仕拂切符

○第六號樣式

用紙適宜縱六寸二分 横三寸八分 (第三十一條參照)

第號	雜部金	何某渡

一金何程

右ノ金額本月限リ此ノ切符持參人ニ仕拂フヘシ

大正何年何月何日

廳廨長

岐阜縣某金庫宛

官(職)氏名㊞

備考

仕拂切符調査ノ主任者ハ金額ノ肩ニ認印ヲ押捺スヘシ第七號樣式亦同シ

○第七號樣式

用紙適宜縱六寸二分 横三寸八分 （第三十一條第三項參照）

送金仕拂切符

第何號	何地何某渡
雜部金	

一金何程

右ノ金額前記名者ニ遞送シ仕拂フヘシ

大正何年何月何日

應廨長

官（職）氏名 印

岐阜縣某金庫宛

○第八號樣式 用紙適宜縱六寸二分 横三寸八分ノモノ二枚接續 （第四十二條參照）

明治何年何月何日

第何號	縣稅（何々）	何地何某納

一金何程

但何々（收入ノ目的ヲ記載スヘシ）

出納吏 割印

領收證

第何號	某	廳廨扱

一金何程

但何々（前ニ同シ）

右領收候也

書

明治何年何月何日

何某殿

岐阜縣出納吏官(職) 氏 名 印

備考

拂込金ヲ拂戻ノトキ領收ノ旨裏書ヲ爲サシムヘキモノハ領收證書欄外ニ「此ノ證書ノ金員拂戻ヲ受クルトキハ裏面ニ領收ノ旨ヲ記載シ署名捺印シテ差出スヘシ」ト附記スヘシ

○第九號樣式

用紙適宜縱六寸二分ノモノ三枚接續（第四十四條參照）
橫三寸八分

拂込書

第何號	大正何年度
縣稅（何々）	某 廳 扱
一金何程	
但何々（拂込ノ目的ヲ記載スヘシ）	
大正何年何月何日領收○○縣金庫主任ノ印	

右拂込候也

大正何年何月何日

岐阜縣出納吏官(職) 氏

岐阜縣某金庫宛

領收濟通知書

第何號	大正何年度
縣稅（何々）	
一金何程	
但何々（前ニ同シ）	

右大正何年何月何日領收

收入命令者(廳牌長ノ官(職)氏名宛

縣金庫 割印

岐阜縣出納吏官(職)氏名拂込

岐阜縣某金庫 印

領收證

第何號	大正何年度
縣稅（何々）	
一金何程○○縣金庫主任ノ印	
但何々（前ニ同シ）	

縣金庫 割印

書

右領收候也

大正何年何月何日

岐阜縣出納吏官(職)氏名宛

岐阜縣某金庫印

備考

一、領收濟通知書及領收證書用紙ノ拂込金額其ノ他ノ事項ハ總テ拂込書調製者ニ於テ記入スルモノトス

二、雜部金拂込ノトキハ年度ノ區ヲ除クモノトス

○第十號樣式 (削除)

○第十一號樣式 (第七十四條參照)

明治何年何月何日

出納日計表

摘要	借方 圓	錢	厘	摘要	貸方 圓	錢	厘
某年度縣稅歲出	200	00	0	某年度縣稅歲入	1,000	00	0
〃 歲入拂戻	10	00	0	〃 歲出拂戻	5	00	0
〃 小學校教員俸給金加算歲出	30	00	0	〃 小學校教員恩給基金歲入	50	00	0
〃 災害救助基金歲出	100	00	0	雜部金收入	20	00	0
雜部金支出	50	00	0	某金庫ヨリ回送受入	2,000	00	0
某金庫へ回送拂出	5,000	00	0				
計	5,390	00	0	計	3,075	00	0
本日殘高	7,685	00	0	前日越高	10,000	00	0
合計	13,075	00	0	合計	13,075	00	0

岐阜縣某支金庫印

備考

本表ハ現金出納簿ニ依リ調製スルモノトス